北区埋蔵文化財調査年報

―平成 30 年度―

2020

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査年報

―平成30年度―

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査年報

－平成 30 年度－

２０２０

東京都北区教育委員会

例　　言

1．本書は、平成 30 年度に実施した、北区内における埋蔵文化財発掘調査等の結果を報告するものである。

2．本書は、文化財保護法第 99 条に基づき北区教育委員会が調査主体者となり実施した、埋蔵文化財本発掘調査、試掘調査、確認調査の結果報告を主とする。

3．本書の編集は、北区教育委員会（担当：牛山英昭）によるものである。

4．各報告文の執筆・作成は、北区教育委員会の監修・指導のもと、発掘調査等の作業に従事した株式会社東京航業研究所の調査員（岩崎岳彦・坂下貴則・宅間清公・遠竹陽一郎）がこれにあたった。

5．本書に掲載された発掘調査等の出土遺物や記録類については、北区教育委員会が保管している。

6．本書に収録される調査および本書の作成にあたり、以下の諸機関よりご指導、ご協力を賜った。
株式会社エスケーホーム
株式会社大正ビルド
株式会社東京航業研究所
東京都教育庁地域教育支援部管理課

平成 30 年度　届出・通知件数　照会・立会実施等件数

届出・通知	法第 92 条：	4 件	照　　会：	3,076 件
	法第 93 条：	105 件	立会実施：	62 件
	法第 94 条：	4 件	慎重工事：	8 件

平成 30 年度　北区埋蔵文化財発掘調査一覧

公共事業（東京都埋蔵文化財センターによる本発掘調査を除く）

遺跡№	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積（㎡）	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
9	赤羽上ノ台遺跡	赤羽台 1-1-14 外	35° 46′ 41″ 139° 43′ 02″	確認調査	63.0	30.05.29－30.06.01	道路			なし	なし	
（51）	新規発見 （栄町貝塚）	栄町 5-1	35° 44′ 54″ 139° 44′ 42″	試掘調査	131.0	30.07.19－30.08.23	貯留池工事計画	貝塚	縄文時代	貝層		令和元年度以降東京都埋蔵文化財センターによる本発掘調査予定
50	神谷遺跡	神谷 2-46	35° 46′ 24″ 139° 43′ 46″	試掘調査	120.0	30.08.06－30.08.23	学校建設計画			なし	なし	
32	田端不動坂遺跡	田端 1-20-9	35° 44′ 12″ 139° 45′ 36″	試掘調査	49.0	30.09.19－30.09.20	文化施設建設計画	集落				令和元年度以降本発掘調査予定

民間事業（法第 92 条および法第 99 条による調査）

遺跡№	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積（㎡）	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
19	十条台遺跡群	中十条 1-4-6	35° 45′ 28″ 139° 43′ 49″	本発掘調査	56.9	30.05.10－30.05.23	集合住宅	（報告書抄録を参照）				本書収録
34	熊野神社遺跡	志茂 4-19-2	35° 47′ 02″ 139° 43′ 57″	試掘調査	48.3	30.06.05－30.06.07	高齢者施設	（民間調査組織による本発掘調査を実施）				
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 2-8	35° 44′ 56″ 139° 44′ 28″	本発掘調査	3620.0	30.08.01－	集合住宅	（令和２年度報告書刊行予定）				令和元年度に調査継続
34	熊野神社遺跡	志茂 4-19-2	35° 47′ 02″ 139° 43′ 57″	本発掘調査	495.8	30.08.23－30.11.02	高齢者施設	（令和元年度報告書刊行予定）				
5	赤羽台遺跡	赤羽台 4-11	35° 47′ 00″ 139° 42′ 46″	本発掘調査	24.0	30.10.15－30.10.22	分譲住宅	（報告書抄録を参照）				本書収録
30	中里遺跡	上中里 2-10	35° 44′ 42″ 139° 45′ 07″	確認調査	80.0	30.11.05－30.11.09	集合住宅建設計画	貝塚	縄文時代	貝層		
19	十条台遺跡群	王子本町 2-10	35° 45′ 22″ 139° 43′ 49″	試掘調査	90.2	31.02.18－31.02.19	集合住宅	（民間調査組織による本発掘調査を実施）				
19	十条台遺跡群	王子本町 2-10	35° 45′ 22″ 139° 43′ 49″	本発掘調査	552.2	31.03.27－	集合住宅	（令和元年度報告書刊行予定）				令和元年度に調査継続

補助金事業（本書収録）

遺跡№	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 （㎡）	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 3-7	35° 44′ 35″ 139° 44′ 34″	本発掘調査	13.9	30.04.10－30.04.20	個人住宅	貝塚	縄文時代 後期	貝層・焼土・灰層・ ピット５基	獣骨・魚骨・土器（加 曽利Ｂ式）・石器	
19	十条台遺跡群	中十条 1-4-6	35° 45′ 28″ 139° 43′ 49″	試掘調査	20.7	30.04.26	集合住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
19	十条台遺跡群	中十条 1-26-4	35° 45′ 40″ 139° 43′ 40″	試掘調査	7.0	30.05.08	個人住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
19	十条台遺跡群	中十条 1-26-4	35° 45′ 40″ 139° 43′ 40″	本発掘調査	33.2	30.05.09－30.05.28	個人住宅	集落	古墳時代 中期	竪穴建物跡１棟、 土坑２基	土師器	
27	西ケ原遺跡群	西ヶ原 1-28-14	35° 44′ 36″ 139° 44′ 43″	試掘調査	5.6	30.07.24	個人住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 3-19	35° 44′ 40″ 139° 44′ 29″	試掘調査	4.6	30.08.02	個人住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	中里 3-18-18	35° 44′ 32″ 139° 45′ 13″	確認調査	7.3	30.09.10	個人住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	中里 3-11	35° 44′ 26″ 139° 45′ 09″	試掘調査	11.0	30.09.18	分譲住宅			竪穴住居跡か？	なし	
5	赤羽台遺跡	赤羽台 4-11	35° 47′ 00″ 139° 42′ 46″	試掘調査	20.3	30.09.28	分譲住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
40	中里峡上遺跡	中里 3-22-16	35° 44′ 29″ 139° 45′ 15″	試掘調査	10.2	30.10.16	個人住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
40	中里峡上遺跡	中里 3-22-16	35° 44′ 29″ 139° 45′ 15″	本発掘調査	39.9	30.10.22－30.11.01	個人住宅	集落	奈良時代	竪穴建物跡２棟	土師器 須恵器	
30	中里遺跡	上中里 2-10	35° 44′ 42″ 139° 45′ 06″	確認調査	80.0	30.11.05－30.11.09	範囲確認	貝塚	縄文時代	貝層・焚火跡	なし	
41	田端西台通遺跡	田端 6-4-7	35° 44′ 22″ 139° 45′ 28″	試掘調査	7.2	30.11.26－30.11.27	個人住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	上中里 1-38	35° 44′ 45″ 139° 44′ 49″	試掘調査	11.0	31.01.10	個人住宅			なし	なし	
19	十条台遺跡群	中十条 3-27-10	35° 45′ 55″ 139° 43′ 28″	試掘調査	7.0	31.02.13	外構工事			なし	なし	
19	十条台遺跡群	王子本町 1-26	35° 45′ 17″ 139° 44′ 04″	試掘調査	27.0	31.02.21	集合住宅			なし	なし	
32	田端不動坂遺跡	田端 1-22-2	35° 44′ 13″ 139° 45′ 41″	試掘調査	16.7	31.02.26－31.02.27	事務所			なし	なし	
19	十条台遺跡群	中十条 3-3-18	35° 45′ 48″ 139° 43′ 30″	試掘調査	18.8	31.02.28	集合住宅			溝跡１条	なし	
19	十条台遺跡群	王子本町 1-21-7	35° 45′ 16″ 139° 43′ 59″	試掘調査	9.8	31.03.08	個人兼 集合住宅			なし	なし	
19	十条台遺跡群	中十条 1-12	35° 45′ 31″ 139° 43′ 45″	試掘調査	21.0	31.03.12	集合住宅			なし	なし	

平成 30 年度区内遺跡本発掘調査
・試掘調査・確認調査概要報告

＜はじめに＞

平成 30 年度に実施された、国庫補助金対象事業である区内遺跡の埋蔵文化財本発掘調査および試掘調査、確認調査の概要を報告する。当該年度は、本発掘調査３件、試掘調査・確認調査が 17 件、計 20 件の調査を実施した（第 34 図）。いずれも、「周知の埋蔵文化財包蔵地」に該当するものであり、文化財保護法第 99 条に基づき調査を実施したものである。

＜本発掘調査＞

1．西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原３‐７　第１～５・35 －１図　図版１・２）

〔調査期間〕　平成 30 年４月 10 日～ 20 日

〔調査面積〕　13.9 ㎡

〔調査概要〕　調査は個人住宅建設に伴い、事前に実施したものである。A･B 区の二箇所に分けて調査を行った。人力により表土を掘削し、貝層の検出につとめた。結果、B 区に関してはほぼ攪乱され貝層を面的に確認することができなかった。一方、A 区は大半が攪乱されていたが、一部で面的にハマグリとヤマトシジミを主体とする貝層を確認することができた。貝層以外では焼土層とピット５基を検出した。遺物は縄文時代後期の土器・獣骨・魚骨が出土した。

〔遺構・遺物〕

【P1 ～ 5】

遺構（第１～３図　図版１）

A 区

貝層状況：地表下 0.3 mで約２.0 × １.0 mの範囲で貝層を確認した。貝層はハマグリ・ヤマトシジミを主体とし、層厚はほぼ一定で 0.2 m程である。貝層は２層に分層でき、上層（1 層）は混土貝層と呼ぶべきもので、下層（2 層）は混貝土層と呼ぶべきものでその違いが明瞭である。ハマグリ・ヤマトシジミは破砕されたものも多く認められたが、個体の大きさが推定できるものと層位的に区別することはできず渾然一体としていた。ハマグリ･ヤマトシジミ以外では、貝層北西端でカガミガイが纏まって出土している。

貝以外の混入物に関しては、上層では多量の炭化物（φ １～ 10 ㎜）と縄文時代後期の土器片が少量認められた。下層は上層同様の炭化物に加え、焼土粒子が少量であるが目立っている。また、下層の混貝土層からは、上層の混土貝層に比べ明らかに獣骨の出土が増えている。

貝層下の状況：多くがソフトローム層であったが、南東側の一部で暗褐色土の堆積が認められた。暗褐色土層上層で灰や焼土が纏まって検出されている。また、同層中には、上層の混貝土層に比べ獣骨の出土が多い。

ピット：貝層下のソフトローム層を確認面としてピットが５基検出された。いずれも円形で、P １が 0.40 × 0.38 m、深さ 0.21 m、P ２が 0.57 × 0.33 m、深さ 0.73 m、P ３が 0.42 × 0.24 m以上、深さ 0.15 m、P ４が 0.26 × 0.23 m、深さ 0.15 m、P ５が 0.38 × 0.35 m、深さ 0.20 mである。縄文時代後期の住居跡の柱穴の可能性がある。

B 区

貝層状況：B 区はほぼ攪乱されていたため、西側の壁（地表下 0.50 m程）で辛うじて貝層を確認することができた。A 区同様ハマグリ・ヤマトシジミが主体である。

遺物（第５図　図版２）

出土遺物：A 区の貝層中及び下層より出土している。１～４は深鉢の口縁部である。１・２が精製土器で、１は口縁部下に横位縄文帯を持つ。２は口縁部に斜位の沈線を充填させる。３・４は粗製土器である。３は口唇部を肥厚させ押圧がなされる。４は櫛歯状工具で縦位の沈線を施す。５～13 は深鉢胴部破片である。５は RL を地文にクランク状の沈線を施す。６は棒状工具により斜格子文を描く。７・８は横位沈線が認

められる。９～13は縄文（ＬＲ）を地文とするものである。14はLR地に縦位の沈線を施す。15は櫛歯状工具で沈線を描く。16は底部である。何れも加曽利Ｂ式であろう。

コラムサンプルの貝種と大きさについて（第４図　表１）

貝層中にコラムサンプルを２箇所設定し貝を採取した。大きさは20×20㎝四方、深さ５㎝である。コラム１では２層、コラム２では１層のサンプルを採取した。これらを水洗し、貝を選別抽出した。これら以外にＡ区貝層中の任意の個所の貝層でも同様な作業を行い、比較データとした。

サンプルからはヤマトシジミ・ハマグリ・オオノガイ・カガミガイ・カキ・アサリ・シオフキ・不明巻貝・微小貝が見つかっている(表１－１)。重量ベースでみるとヤマトシジミ・ハマグリで95％近くを占めている。その次にオオノガイ・カガミガイ・カキが続き、これら５種で99％以上を占めている。それ以外の貝種はそれぞれ0.2％以下しか検出されていない。ヤマトシジミとハマグリに関しては、殻の左右がわかるもの関してその個数を集計し、殻長の計測を行った（表１－４～7)。殻の左右が判明したものの資料数はヤマトシジミ568点、ハマグリ44点、殻長計測資料はそれぞれ515点、31点である。

ヤマトシジミに関してはサンプル地点ごとの殻長の度数分布グラフを、ハマグリに関しては有効資料数が少なかったので全体での度数分布グラフを作成した。

ハマグリに関しては殻長50～60㎜の資料が最も多く、それ以上の大きさの資料が極端に少なくなる傾向が認められる（第４図－８)。

ヤマトシジミに関してはコラム１－１層（第４図－４）とＡ区貝層サンプル（第４図－７）では正規分布に近く、コラム１－２層（第４図－５）とコラム２－１層（第４図－６）では度数のピークが２箇所認められる。

ヤマトシジミとハマグリともに殻長の度数分布にピークが認められることから、採取目的サイズがある程度決まっていたものと思われる。ヤマトシジミに関しては30～33㎜が主体となる採取目的サイズであるとともにそれより小ぶりな18～21㎜においてもピークが認められる。その要因については季節・採取場所の環境などが考えられるが即断できないので、採取サイズのピークが２箇所認められることを強調するにとどめたい。

２.十条台遺跡群（地点：中十条１‐26‐４　第６～11・35－３図　図版３～６）

〔調査期間〕　平成30年５月９日～28日

〔調査面積〕　33.2㎡

〔調査概要〕　現地表面から約0.4～0.5ｍでソフトロームの地山を検出した。これを遺構確認面とし、大形の住居跡１軒、土坑１基を検出した。遺物は、土師器の高坏・甕・壷類などが出土した。

〔遺構・遺物〕

【SI01】

遺構（第６～８図　図版３）

重複関係：SK01に切られる。**平面形：**方形と推測される。**規模：**長軸6.66ｍ以上、短軸4.37ｍ以上、確認面からの深さ0.20ｍ程度である。**主軸方向：**Ｎ－42°－Ｅ。**覆土：**暗褐色土を主体とし４層に分層される。

床：部分的な硬化のみで軟質である。**周溝：**確認された北壁に沿って巡る。幅0.18ｍ～0.23ｍ、床面からの深さ0.16～0.36ｍである。**炉:**中央やや北東寄りの位置で､焼土が集中する範囲を確認した。**ピット：**５基検出した。Ｐ１・２・４・５が主柱穴と考えられる。各柱穴の規模は、Ｐ１が0.75×0.57m、深さ0.54ｍ、Ｐ２が0.62×0.46m、深さ0.61ｍ、Ｐ４が0.66×0.54m、深さ0.53ｍ、Ｐ５が0.41×0.32m以上、深さ0.34ｍである。Ｐ５は攪乱により床面・覆土上部が失われている。このほか主柱穴の対角線上やや南西でＰ３を検出している。規模は0.57×0.44ｍ以上、深さ0.80ｍである。**土坑：**調

査段階でSK02としたが、SI01に帰属する土坑とすべきであろう。規模は長径0.69 m以上、短径0.27 m以上、深さ0.28 mである。**掘方：**全体を掘り下げている。

遺物（第９～11図　図版４～６）

出土状況：床面が残されていた北側を中心に、土師器の甕・壷・高坏などが出土している。特に高坏が数多く出土し、器形のバラエティも豊富である。１～４は甕である。１は胴部中位から下位を横ナデし、口縁部内外面を強く横ナデする。２・４の外面調整は不鮮明であるが内面は横ナデされる。３は外面胴部下半が削られる。胴部上位から頸部かけてススが付着する。５は鉢と思われ、口縁部が肥厚する。６～８は口縁部が折り返される壺である。８は胴部上半に部分的にススが付着する。９～11は坩である。９は胴部外面に縦ミガキが施される。10・11は口縁部が僅かに内湾する。12～24は高杯である。12～18は坏部下端に稜を持つ。坏部の立ち上がりは直線的あるいは若干内湾し、縦ミガキを主とする。13は坏部内面に赤彩痕が残る。14は坏部が内湾し、口縁部が外方に緩く広がる。18は坏部内面にススが多量に付着する。19・20は脚部で内面に輪積痕明瞭に残る。21・23は内面の痕跡から巻き上げにより作られたものと思われ、脚部外面は細かな縦ミガキが施される。22は脚部がやや膨らむ。24は裾部で稜を持つ。25は多孔の甑の底部で丸底を呈すると思われる。

時期　古墳時代中期（５世紀前半）。

【SK01】

遺構（第６・７図　図版３）

重複関係：SI01を切る。**平面形：**不整長方形。**規模：**長軸2.57 m以上、短軸0.84 m、深さ0.16 mである。**主軸方位：**Ｎ－42°－Ｗ。**覆土：**黒褐色土の単層である。

遺物

出土状況：土師器片も出土したが、本遺構の時期を示す明確な遺物はない。

時期　SI01よりも新しく、古墳時代中期以降と推測される。

３．中里峡上遺跡（地点：中里3-22-16　第12～15・36－９図　図版７・８）

〔調査期間〕　平成30年10月22日～11月１日

〔調査面積〕　39.9 ㎡

〔調査概要〕　現地表面から約0.4～0.5 mでソフトロームの地山を検出した。これを遺構確認面とし、住居跡２軒を検出した。遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の蓋・坏などが出土した。

〔遺構・遺物〕

【SI01】

遺構（第12・13図　図版７）

重複関係：単独。**平面形：**方形と推測される。**規模：**長軸3.72 m以上、短軸2.89 m以上、確認面からの深さ約0.24 mである。**主軸方向：**Ｎ－26°－Ｅ。**覆土：**褐色土を主体とし４層に分層される。**床：**貼床。中心部で顕著な硬化がみられる。**周溝：**幅約0.26～0.34 m、床面からの深さ0.10～0.14 mでカマド部分を除き巡るものと推測される。**カマド：**北壁のほぼ中央部と思われる位置に築かれている。幅約0.84 m、奥行き約0.90 mである。**掘方：**中央部を残し、周囲を掘り込んでいる。

遺物（第15図　図版８）

出土状況:カマド左袖周辺で甕がまとまって出土した。１は須恵器の蓋である。２は土師器の坏である。３・４は土師器の甕で、３は斜位及び縦ケズリ。４は斜位及び横ケズリである。５は底部を欠くが、器形から土師器の甑であろう。縦位及び斜位のケズリが施される。

時期　奈良時代

【SI02】
遺構（第 12 ～ 14 図　図版７）
　重複関係：単独。**平面形：**方形と推測される。**規模：**長軸 2.58 m以上、短軸 2.40 m以上、確認面からの深さ 0.37 m程度である。**主軸方向：**Ｎ－ 67°－Ｅ。**覆土：**黒褐色土を主体とし２層に分層される。**床：**貼床。検出範囲では部分的な硬化のみである。**周溝：**検出範囲では明確に認められない。**カマド：**東壁のほぼ中央部と思われる位置で築かれている。**掘方：**検出範囲では全体を掘り下げているように思われる。縄文土器が含まれていた。
遺物（第 15 図　図版８）
　出土状況：６はカマド内で出土した須恵器の坏で、底部外面を全面回転ヘラケズリする。南比企窯産。７は須恵器の甕である。外面は格子目状のタタキ、内面当て具痕後、横ナデ。南比企窯産。８は土師器の坏で落合型で、内面及び口縁部外面が赤彩される。９は土師器の甕で、外面は縦ケズリされる。
時期　奈良時代
【遺構外】
遺物（第 15 図　図版８）
　出土状況：表土掘削から遺構確認までの間に検出した資料を図示する。調査区は大きく攪乱を受けており、本来上記の住居跡に帰属する資料が含まれている可能性がある。また、上記の住居跡覆土・掘方に含まれていた縄文土器についても、流れ込みと判断してここに図示する。10 ～ 11 は須恵器の坏である。10 は体部下端及び底部外面周辺部を回転ヘラケズリする。12 ～ 14 は土師器の坏である。12・13 は内面及び口縁部外面が赤彩される。15 ～ 18 は縄文土器である。15 は隆帯以下 LR を縦位施文する。加曽利ＥⅢ式。16 ～ 18 は堀之内Ⅰ式である。16 は細い沈線で、17・18 は太い沈線でモチーフを描く。18 の地文は LR。15 ～ 17 は SI02、18 は SI01 から出土している。

＜試掘・確認調査＞
１. 十条台遺跡群（地点：中十条 1-4-6　第 16・35 －２図　図版９）
〔調査期間〕　平成 30 年 4 月 26 日
〔調査面積〕　20.7 ㎡
〔調査概要〕　重機･機材搬入後､対象地内に試掘坑１（1.0 × 6.0 m）､試掘坑２（1.0 × 8.0 m）･試掘坑３（1.0 × 6.7 m）の３箇所の試掘抗を設定し、重機により掘削を行った。
　試掘坑１は現地表下 0.6 ～ 0.7 m程でソフトロームの地山を検出した。遺構確認の結果、溝跡、土坑、硬化面を検出した。
　試掘坑２は現地表下 0.5 ～ 0.7 m程でソフトロームの地山を検出した。遺構確認を行ったが、遺構は検出できなかった。
　試掘坑３は現地表下 0.5 ～ 0.6 m程でソフトロームの地山を検出した。遺構確認の結果、竪穴住居跡と思われる遺構が検出された。
　試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。
　現地表下 0.5 ～ 0.7 mまで攪乱であった。その下の地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。
検出遺構　竪穴住居跡・溝跡・土坑。
出土遺物　弥生土器・土師器。

２. 十条台遺跡群（地点：中十条 1-26-4　第 17・35 －３図　図版 10）
〔調査期間〕　平成 30 年 5 月 8 日
〔調査面積〕　7.0 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内に試掘坑（1.0 × 7.0 m）を設定し、重機により掘削を行った。現地表下 0.4 ～ 0.5 mまで攪乱であった。その下の地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）を検出した。遺構確認の結果、住居跡を検出した。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。この結果を受けて、本発掘調査に至っている。

検出遺構　竪穴住居跡。

出土遺物　土師器。

3．西ケ原遺跡群（地点：西ケ原 1-28-14　第 18・35 － 4 図　図版 11）

〔調査期間〕　平成 30 年 7 月 24 日

〔調査面積〕　5.6 ㎡

〔調査概要〕　重機･機材の搬入後､試掘抗 (1.0 × 5.6 m) を設定し､重機により掘削を行った。現地表下 1.3 mまで掘り下げたが、盛土ないしは攪乱であった。精査の結果、部分的に地山（ハードローム）を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。記録の作成後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 1.3 mまで攪乱・盛土であった。一部、地山（ハードローム）を確認した。

4．西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 3-19　第 19・35 － 5 図　図版 12）

〔調査期間〕　平成 30 年 8 月 2 日

〔調査面積〕　4.6 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、試掘坑 (1.0 × 4.6 m) を設定し、重機により掘削を行った。現地表面から約 0.9m で地山（立川ローム第Ⅲ層）を確認した。これを確認面とし、精査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

試掘坑北側で、現地表面から約 0.9m まで盛土・耕作土層であった。その下は地山で、地山は立川ローム第Ⅲ層である。

5．中里峡上遺跡（地点：中里 3-18-18　第 20・35 － 6 図　図版 13）

〔調査期間〕　平成 30 年 9 月 10 日

〔調査面積〕　7.3 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、試掘坑 (1.0 × 7.3 m) を設定し、重機により掘削を行った。建築の計画深度（KBM–0.49m）まで掘り下げたが､地山は確認されず､耕作土とみられる土が堆積していた。概ね、その深度で試掘坑を掘削した。試掘坑北西端にサブトレンチを設定、人力により掘削した。ローム層（立川ローム第Ⅲ～Ⅳ層）を検出したが、耕作のため荒れた状態であった。精査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

北西端のサブトレンチでは、現地表面から 0.6m まで耕作土、その下は 0.75m まで畝などの耕作の影響により緩くなったローム層である。ローム層は部分的にハードロームがみられた。他の部分も､ピンポールを刺してみると、掘削面から 0.2 ～ 0.3m ほどはグズグズの堆積であり、耕作の影響をうけているものと推測される。

6．中里峡上遺跡（地点：中里 3-11　第 21・35 － 7 図　図版 14）

〔調査期間〕　平成 30 年 9 月 18 日

〔調査面積〕　11.0 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、試掘坑 (1.0 × 11.0 m) を設定し、重機により掘削を行った。工事の予定深度まで掘削したが、ほぼ攪乱であった。試掘坑東側でわずかに、遺構覆土とみられる堆積を検出した。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表面から 0.8m（工事予定深度）まで、攪乱であった。試掘坑東側で遺構覆土がみられるほか、地山は確認されなかった。

試掘坑東側約 2m の範囲において、遺構覆土とみられる黒褐色土を検出した。ピンポールを用いた深度計測により、検出面から約 0.3m の深さで、フラットな底面を呈すると予想され、竪穴住居跡かと推測される。

7．赤羽台遺跡（地点：赤羽台 4-11　第 22・35 － 8 図　図版 15）

〔調査期間〕　平成 30 年 9 月 28 日

〔調査面積〕　20.3 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、対象地内に試掘坑 1 (1.0 × 7.9 m)、試掘坑 2 (1.0 × 9.1 m) の 2 箇所の試掘坑を設定し、重機により掘削を行った。

試掘坑 1 は攪乱が著しく、現地表面から 0.7m 下で地山を確認した。攪乱が浅いところでは、現地表面から 0.3m 程で地山を確認することができた。精査の結果、遺構・遺物を確認することはできなかった。

試掘坑 2 は現地表面から 0.3m 下で、地山を確認した。精査の結果、大きく攪乱を受けているが、竪穴住居 1 軒を検出した。また、弥生時代後期の土器が伴う。遺構の範囲を確認するため、試掘坑 2 に直交した試掘坑を 2 箇所掘削した。結果として、試掘坑 2 より北側はほとんど攪乱を受けている状態であった。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

浅い所で、現地表面から 0.3m ほどで地山（立川ローム第Ⅲ層）が確認された。攪乱が著しく、ピンポールによる深度計測では、確認面から 0.8 ～ 1.0m 程度の深さがあった。

検出遺構　竪穴住居跡を 1 軒検出した。攪乱を利用し、断面を確認したところ、床面まで約 0.25m、掘方底面まで 0.5m であった。

出土遺物　弥生時代後期の甕、壷の破片が出土した。

8．中里峡上遺跡（地点：中里 3-22-16　第 23・36 － 9 図　図版 16）

〔調査期間〕　平成 30 年 10 月 16 日

〔調査面積〕　10.2 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、試掘坑（1.0 × 10.2 m）を設定し、重機により掘削を行った。試掘坑北西端は攪乱であったが、南東へと掘り進めたところ、現況地表面から 0.5m 下で遺構覆土とみられる堆積を検出した。しばらくして、同レベルで地山（立川ローム第Ⅲ層）を確認した。これを遺構確認面として精査した結果、竪穴住居跡 2 軒以上を検出した。

試掘坑の記録後、重機による埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。この結果を受けて、本発掘調査に至っている。

検出遺構　竪穴住居跡 2 軒以上。

出土遺物　土師器、須恵器。

9．中里遺跡（地点：上中里 2-10　第 24・25・36 － 10 図　図版 17）

〔調査期間〕　平成 30 年 11 月 5 日～ 11 月 9 日

〔調査面積〕　80.0 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内に試掘坑 1（1.5 × 13.2 m）、試掘坑 2（1.5 × 23.6 m）、試

掘坑３(1.5 × 19.1 m)の３箇所の試掘坑を設定し、重機により掘削を行った。なお、試掘坑２については、北側と南側の２箇所に分けて調査を行った。

試掘坑１では地表下 1.5 mで貝層を検出した。貝層検出レベルは南側がやや高く、北側に向かいやや低くなっている。貝層は破砕したマガキとハマグリを主体とする。貝層中には火を焚いたことによると思われる炭化物の集中した箇所が認められた。

試掘坑２は現地表下 1.3 ～ 2.0 mまで掘り下げた。部分的に建物の基礎で攪乱されていたが、それ以外は貝層が確認された。貝層上面は試掘坑の北側から中央部付近ではほぼ一定で地表下 1.3 m前後の深さで検出された。中央部から南側では、南側に向かい傾斜し、南端部では地表下２m程で貝層の上面を確認した。同所では貝層の上面に暗褐色土や黄褐色シルト層が認められた。

貝層は破砕したマガキとハマグリを主体とする。貝層中には火を焚いたと思われる炭化物が集中した箇所が認められた。貝層の深さを確認するため、２箇所で深掘りを行った。

試掘坑３は現地表下 1.2 ～ 1.6 mまで掘り下げた。結果、北側で貝層を、南側で黒褐色土を検出した。試掘坑の中間地点で貝層上に黒褐色土が堆積していることが確認できたことから、貝層は南に向かい傾斜しているものと思われる。前述の試掘坑２の所見と一致する。貝層は破砕したマガキとハマグリを主体とする。貝層中には火を焚いたと思われる炭化物が集中した箇所が認められる。

現地表下1.4～1.5ｍまで盛土･攪乱であった。その下は貝層及びマンガンを多量に含む暗褐色土である。検出遺構　貝層・焚火跡。

10. 田端西台通遺跡（地点：田端 6-4-7　第 26・36 － 11 図　図版 18）

〔調査期間〕　平成 30 年 11 月 26 日～ 27 日

〔調査面積〕　7.2 ㎡

〔調査概要〕　機材の搬入後、試掘坑 (0.7 × 10.3 m) を設定し、人力で掘削を行った。現地表面から約 1.0m で地山（立川ローム第Ⅲ～Ⅳ層）を確認した。また試掘抗北西側で現地表面から約 0.5 mで部分的に灰黄褐色土の堆積を確認した。灰黄褐色土は平成 22 年度に調査された（東京都北区教委 2012）田端 6-4-8 地点の第 1 号溝址に対応する可能性がある。遺物は検出されなかった。試掘坑の記録後、埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

試掘抗南東側で、現地表面から約 1.0m まで盛土・攪乱層であった。その下は地山で、地山は立川ローム第Ⅲ～Ⅳ層である。

攪乱により詳細は不明だが、田端 6-4-8 地点で検出された第 1 号溝址に対応する可能性がある堆積が確認された。

11. 西ヶ原遺跡群（地点：上中里 1-38　第 27・36 － 12 図　図版 19）

〔調査期間〕　平成 31 年 1 月 10 日

〔調査面積〕　11.0 ㎡

〔調査概要〕　重機･機材の搬入後、D 区の中央に試掘坑 1 (1.0 × 4.5 m)、A 区の中央に試掘坑 2 (1.0 × 6.5 m) の２箇所の試掘坑を設定し、重機により掘削を行った。

試掘坑１（D 区）は現況地表面から 0.8 mまでは表土・攪乱層、部分的に地山を確認した。地山はハードローム (立川ローム第Ⅳ層) である。それ以外は攪乱されていた。

試掘坑２（A 区）は現況地表面から 0.7 mまでは表土・攪乱層、部分的に地山を確認した。地山はソフトローム (立川ローム第Ⅲ層) である。一部サブトレンチを設け、攪乱を掘削したところ、現況地表面から１.0 mで地山を確認した。地山はハードローム(立川ローム第Ⅳ層)である。それ以外は攪乱されていた。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

12. 十条台遺跡群（地点：中十条 3-27-10　第 28・36 － 13 図　図版 20）
〔調査期間〕　平成 31 年 2 月 13 日
〔調査面積〕　7.0 ㎡
〔調査概要〕　重機･機材の搬入後､重機により掘削を行った。西音寺の山門建設予定地に試掘坑（1.0 × 7.0 m）を設定し、重機により掘削を行った。地表下 0.3 mでローム層の地山を確認した。南北端は攪乱されていた。南端部を掘り下げたが、地表下 1.0 mまで攪乱であった。
　試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。
現地表下約 0.3 mまで攪乱であった。地山はハードローム（立川ローム第Ⅳ層）である。調査地点より、崖線に近い東側の西音寺の境内が高いことから、以前に削られている可能性が高い。

13. 十条台遺跡群（地点：王子本町 1-26　第 29・36 － 14 図　図版 21）
〔調査期間〕　平成 31 年 2 月 21 日
〔調査面積〕　27.0 ㎡
〔調査概要〕　機材の搬入後、対象地内に試掘坑 1（1.0 × 16.0 m）、試掘坑 2（1.0 × 11.0 m）の東西方位の試掘坑を 2 箇所設定して重機により掘削を行った。
　試掘坑 1 は地表下 0.5 ～ 0.8 mでハードローム層の地山を確認した。大半は攪乱を受けていた。
　試掘坑 2 は地表下 0.7 m程でハードローム層の地山を確認した。大半は攪乱を受けていた。
　試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。
　現地表下約 0.5 ～ 0.8 mまで攪乱であった。地山はハードローム（立川ローム第Ⅳ層）である。

14. 田端不動坂遺跡（地点：田端 1-22-2　第 30・36 － 15 図　図版 22）
〔調査期間〕　平成 31 年 2 月 26・27 日
〔調査面積〕　16.7 ㎡
〔調査概要〕　今回の調査は、対象地内に重機を入れることができないため、人力での掘削を行った。機材の搬入後、試掘坑を 2 箇所（試掘坑 1・2）設定した。各試掘坑に人員を振分け、試掘坑中央部から掘削を開始した。試掘坑 1・2 の南西端を連結し、試掘坑 3 とした。最終的に試掘坑はコの字形となった。試掘坑の規模は、試掘坑 1（0.8 × 7.4 m）、試掘坑 2（0.8 × 9.3 m）、試掘坑 3（0.8 × 4.2 m）（試掘坑 1・2 重複分を除く）である。全体的に攪乱を受けており、地山を確認したレベルは、場所により異なった。精査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。試掘坑の記録後、埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。
　現況地表面から地山上面まで攪乱層である。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。
　地山を確認できるレベルが最も高いのは、敷地南側の試掘坑 1 と 3 の連結部で、現況地表面から約 0.3m である。
　試掘坑 2 は攪乱が著しく、ピンポールによる深度調査によると、試掘坑中央付近で、掘削底面から約 0.6m で地山にあたる。試掘坑 2 北東端から約 1 m の位置で急激な落ち込みがみられ、擁壁の掘方と推測される。1 m のピンポールを刺してみたが、地山にはあたらなかった。

15. 十条台遺跡群（地点：中十条 3-3-18　第 31・36 － 16 図　図版 23）
〔調査期間〕　平成 31 年 2 月 28 日
〔調査面積〕　18.8 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象敷地内に試掘坑 1（1.0 × 9.3 m）、試掘坑 2（1.0 × 8.5 m）の南北方位の試掘坑を 2 箇所設定して重機により掘削を行った。

試掘坑 1 は地表下 0.4 ～ 0.5 mでソフトローム層の地山を確認した。部分的に攪乱を受けていた。試掘坑南端部で東西方向に延びる溝跡（SD01）を確認した。

試掘坑 2 は地表下 0.8 ～ 0.9 m程でソフトローム層の地山を確認した。大半は攪乱を受けていた。試掘坑 1 で検出された溝跡を確認することはできなかった。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下約 0.4 ～ 0.9 mまで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。

〔遺構・遺物〕

【SD01】

遺構（第 31 図　図版 23）

断面形：底面は平坦で略矩形を呈する。**検出長：**1.15m、深さ 0.61m。**走行方位：**N － 78° － W。**覆土：**自然堆積。**所見：**覆土・形状から中世から近世の溝跡と思われる。

遺物　本遺構からの出土遺物はない。

時期　中世から近世。

16. 十条台遺跡群（地点：王子本町 1-21-7　第 32・37 － 17 図　図版 24）

〔調査期間〕　平成 31 年 3 月 8 日

〔調査面積〕　9.8 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、対象地内に東西方向の試掘坑（1.0 × 9.8 m）を設定して重機により掘削を行った。設計深度の地表下 1.2 mまで掘削を行った。大部分は攪乱されており、東端部でローム層の地山を部分的に検出した。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下約 1.2 mまで攪乱であった。地山はハードローム（立川ローム第Ⅵ層か）である。

17. 十条台遺跡群（地点：中十条 1-12　第 33・37 － 18 図　図版 25）

〔調査期間〕　平成 31 年 3 月 12 日

〔調査面積〕　21.0 ㎡

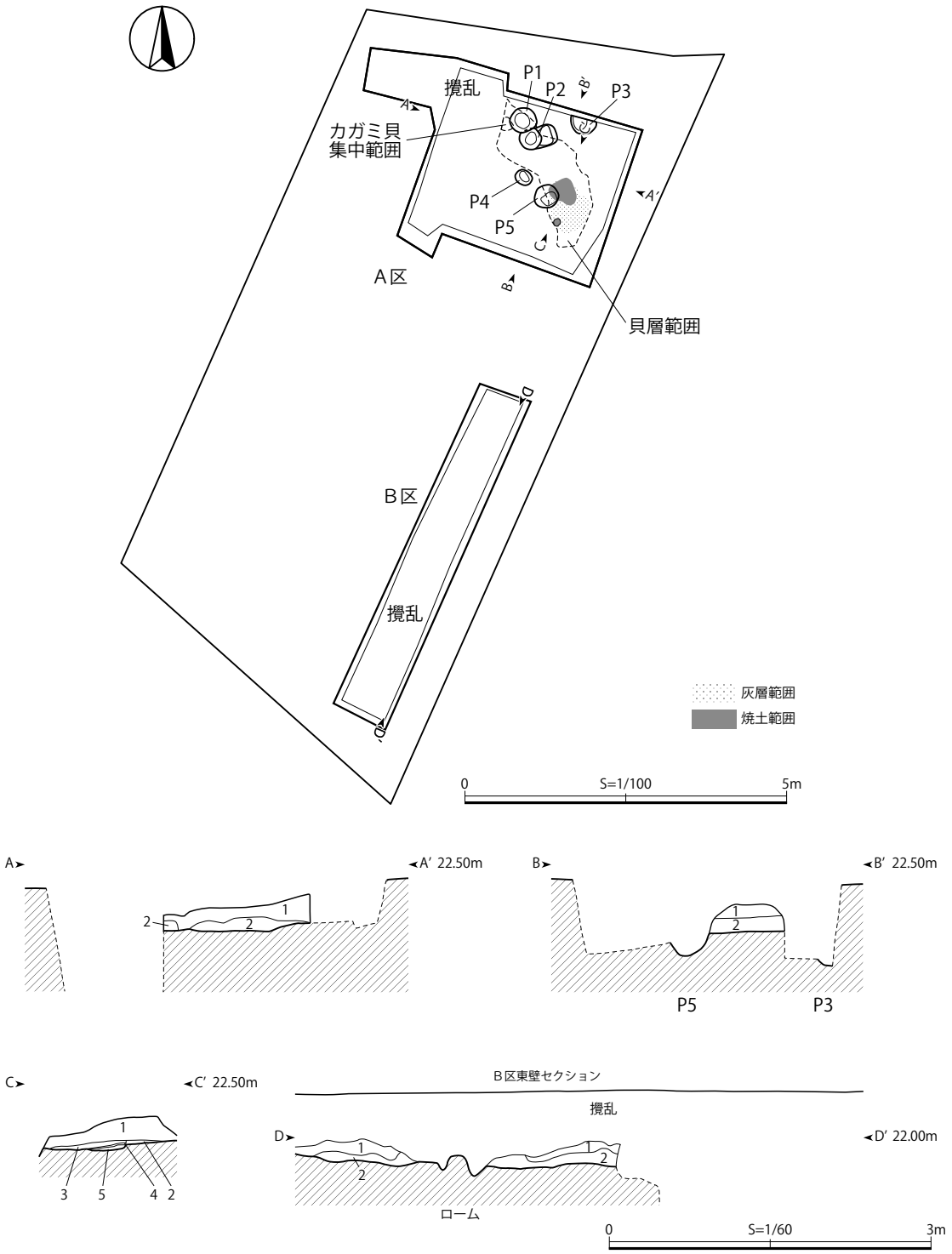
〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、対象地内に試掘坑 1（1.0 × 8.0 m）、試掘坑 2（1.0 × 13.0 m）の南北方位の試掘坑を 2 箇所設定して重機により掘削を行った。

試掘坑 1 は地表下 0.8 ～ 0.7 mでソフトローム層の地山を確認した。南北方向に直線的に攪乱されるが、地山の遺存は良好であったが、遺構は検出されなかった。

試掘坑 2 は地表下 1.0 ～ 0.9 mまで掘削を行ったが、大半で攪乱され、南北端部でローム層の地山を部分的に検出した。

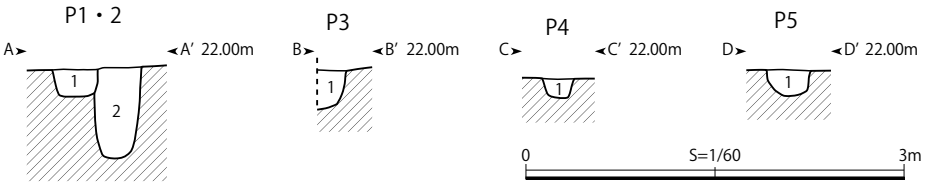
試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下約 0.7 mまで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。



	土色	貝層種別	混在率	混入物・備考
1	暗褐色土（7.5YR3/3）	混土貝層	土（30%）	粒子少量。炭化物（φ1 ～ 10mm）前後多量含む。
2	暗褐色土（7.5YR3/3）	混貝土層	貝（10%）	炭化物（φ1 ～ 10mm）を多量、焼土（φ1～10mm）を少量含む。
3	暗褐色土（10YR3/3）	なし	ややあり	焼土粒子・炭化物（φ5～10mm）、灰を多量に含む。
4	灰白色土（2.5Y8/1）	なし	なし	焼土粒子を多量含む。
5	赤褐色土（10R4/3）	なし	なし	焼土ブロック（φ1～5mm）、焼土粒子・灰を非常に多く含む。炭化粒子を少量含む。

第１図　西ヶ原 3-7 地点　調査全体図



P1・P2

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	褐色土（10YR4/4）	ややあり	ややあり	焼土・炭化・ローム粒子を少量含む。
2	褐色土（10YR4/4）	ややあり	ややあり	炭化粒子を多量、ローム・焼土粒子を少量含む。

P3

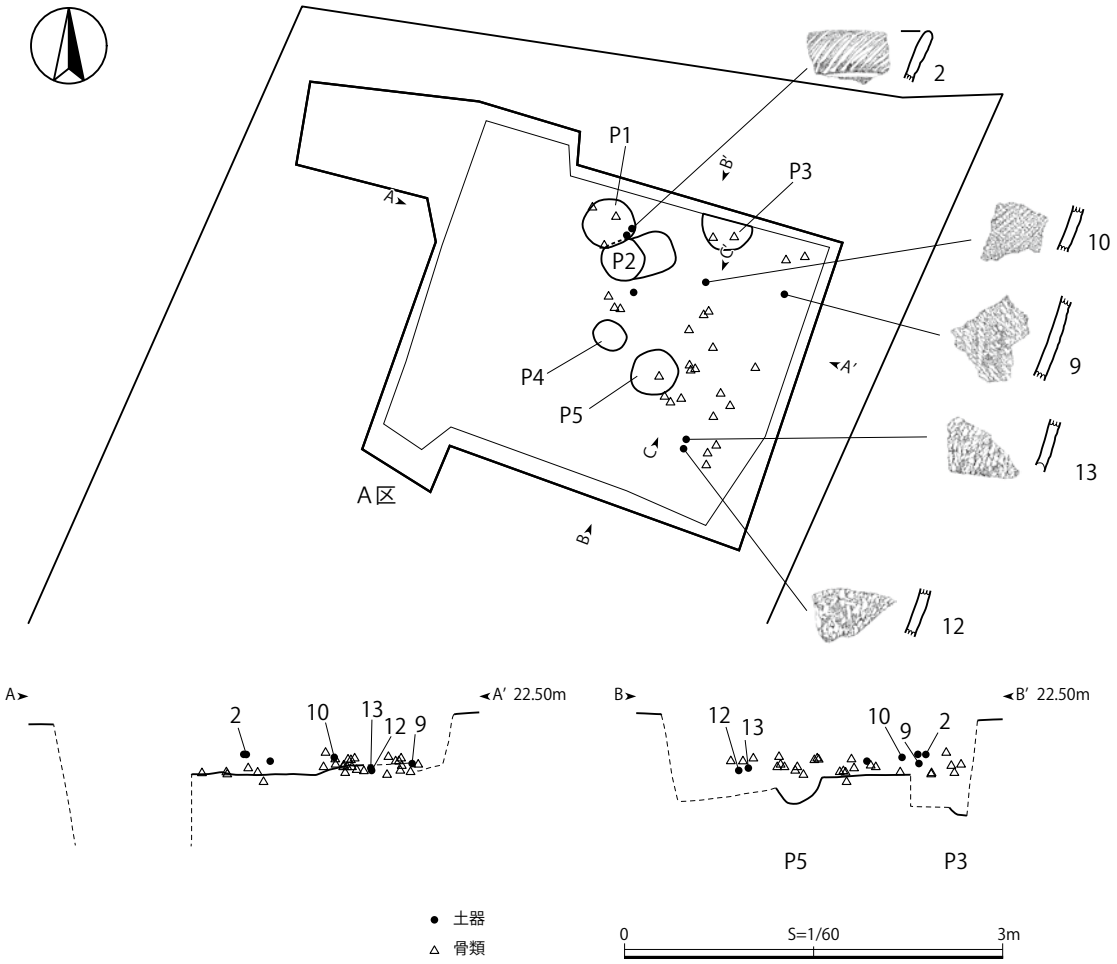
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	褐色土（10YR4/4）	ややあり	ややあり	ローム粒子を多量、炭化ブロック（φ５mm）を少量含む。

P4

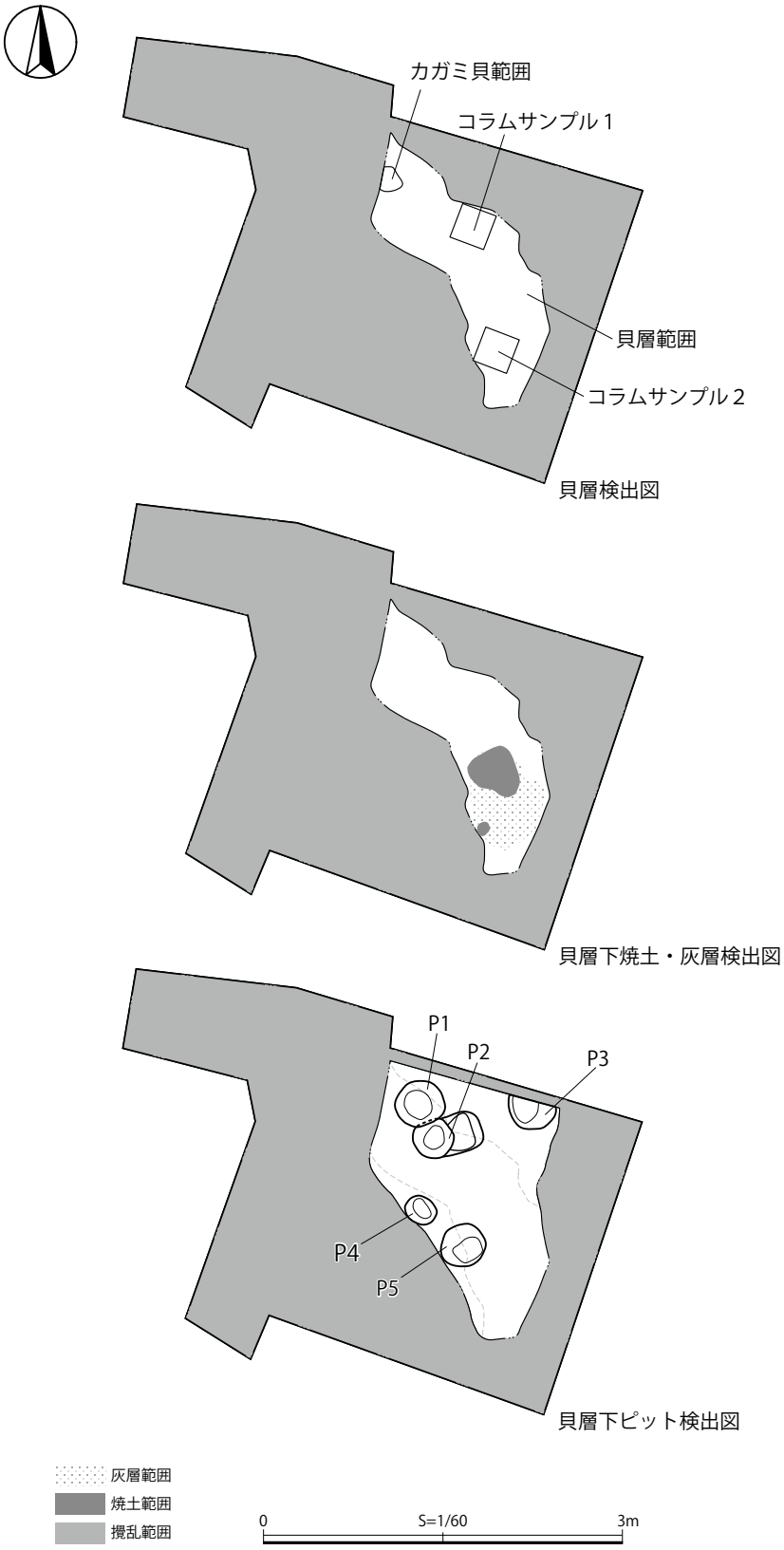
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	ややあり	ややあり	ローム粒子を多量含む。

P5

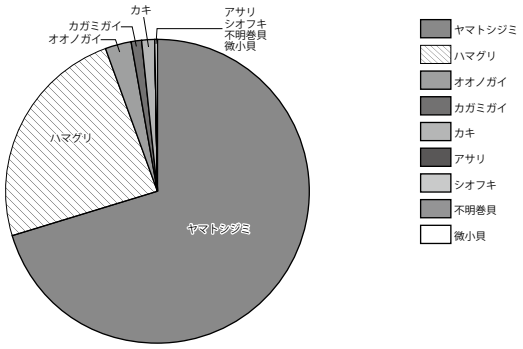
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	ややあり	ややあり	焼土・炭化粒子を多量、ローム粒子を少量含む。



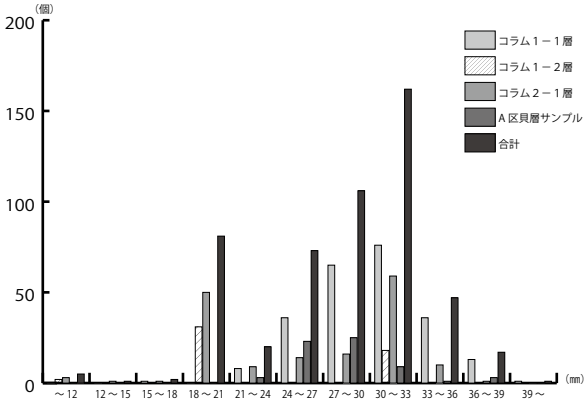
第２図　西ヶ原 3-7 地点　ピットセクション図・遺物出土状況図



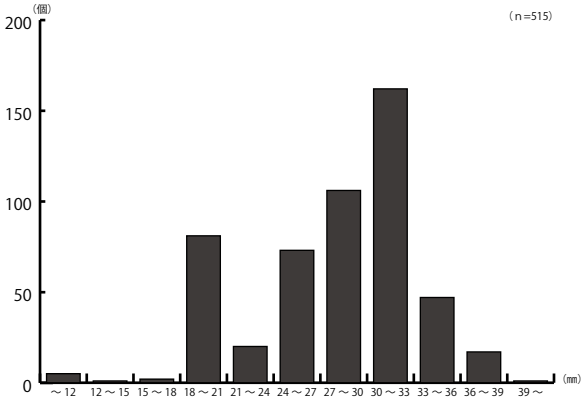
第３図　西ヶ原 3-7 地点　A 区全体図



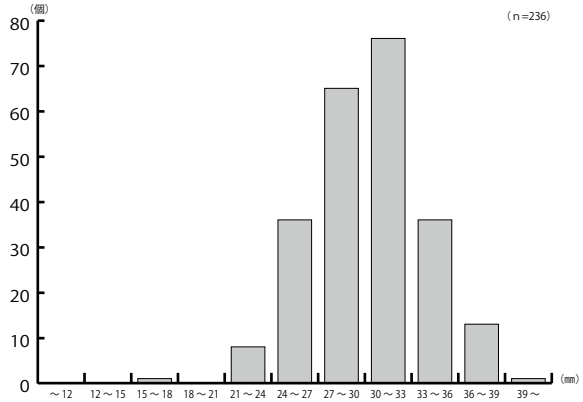
第４図－１　貝種構成比率



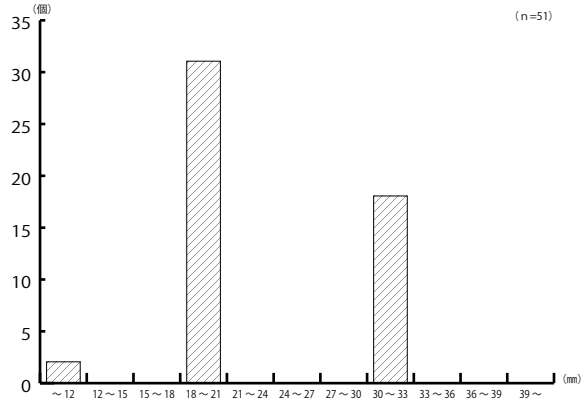
第４図－２　ヤマトシジミ殻長（全体①）



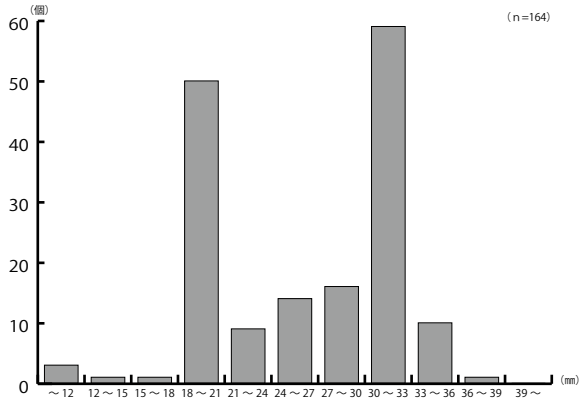
第４図－３　ヤマトシジミ殻長（全体②）



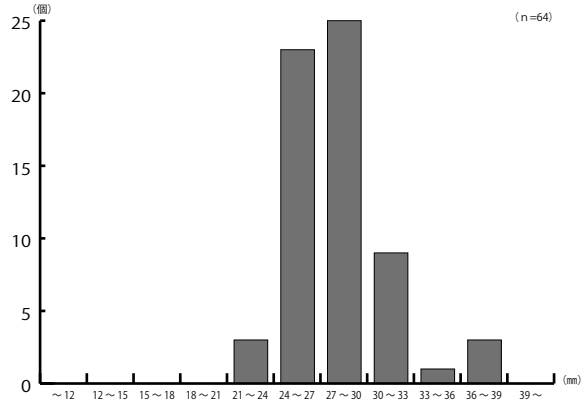
第４図－４　ヤマトシジミ殻長（コラム１－１層）



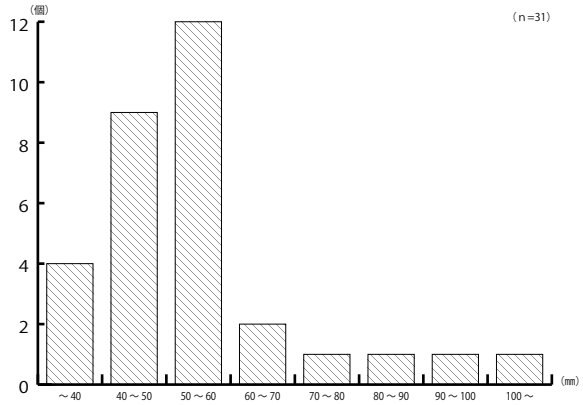
第４図－５　ヤマトシジミ殻長（コラム１－２層）



第４図－６　ヤマトシジミ殻長（コラム２－１層）



第４図－７　ヤマトシジミ殻長（Ａ区貝層サンプル）



第４図－８　ハマグリ殻長（全体）

表１－１　貝種別データ

	コラム１－１層		コラム１－２層		コラム２－１層		A区貝層サンプル		合計	
	重量（g）	比率	重量（g）	比率	重量（g）	比率	重量（g）	比率	重量（g）	比率
ヤマトシジミ	1303	62.69%	481.7	56.48%	1683	83.21%	263.1	77.84%	3730.8	70.50%
ハマグリ	669	32.19%	263.9	30.95%	282.6	13.97%	56.1	16.60%	1271.6	24.03%
オオノガイ	55.5	2.67%	30.3	3.55%	50.2	2.48%	8.9	2.63%	144.9	2.74%
カガミガイ	0	0.00%	68.6	8.04%	0	0.00%	0	0.00%	68.6	1.30%
カキ	44.1	2.12%	8.3	0.97%	5.3	0.26%	9.9	2.93%	67.6	1.28%
アサリ	5.2	0.25%	0	0.00%	1.6	0.08%	0	0.00%	6.8	0.13%
シオフキ	1.0	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1.0	0.02%
不明巻貝	0.5	0.02%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0.5	0.01%
微小貝	0.1	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0.1	0.00%
合計	2078.4	100.00%	852.8	100.00%	2022.7	100.00%	338.0	100.00%	5291.9	100.00%

表１－２　ヤマトシジミ各種データ

	コラム１－１層	コラム１－２層	コラム２－１層	A区貝層サンプル	全体
個体数	236	51	164	64	515.0
最小値	15.0	10.7	10.4	22.0	10.4
最大値	39.0	30.8	36.4	37.4	39.0
中央値	30.1	20.8	27.3	27.6	29.0
平均値	30.0	23.6	26.1	27.9	27.8

表１－３　ハマグリ各種データ

	コラム１－１層	コラム１－２層	コラム２－１層	A区貝層サンプル	全体
個体数	12	3	7	9	31
最小値	30.8	50.2	30.3	30.6	30.3
最大値	90.5	60.0	50.6	100.4	100.4
中央値	50.4	50.8	40.8	50.4	50.3
平均値	53.0	53.7	41.9	51.6	50.2

表１－４　ヤマトシジミ殻長データ

	コラム１－１層	コラム１－２層	コラム２－１層	A区貝層サンプル	合計
～12㎜	0	2	3	0	5
12～15㎜	0	0	1	0	1
15～18㎜	1	0	1	0	2
18～21㎜	0	31	50	0	81
21～24㎜	8	0	9	3	20
24～27㎜	36	0	14	23	73
27～30㎜	65	0	16	25	106
30～33㎜	76	18	59	9	162
33～36㎜	36	0	10	1	47
36～39㎜	13	0	1	3	17
39㎜～	1	0	0	0	1
合計	236	51	164	64	515

表１－５　ハマグリ殻長データ

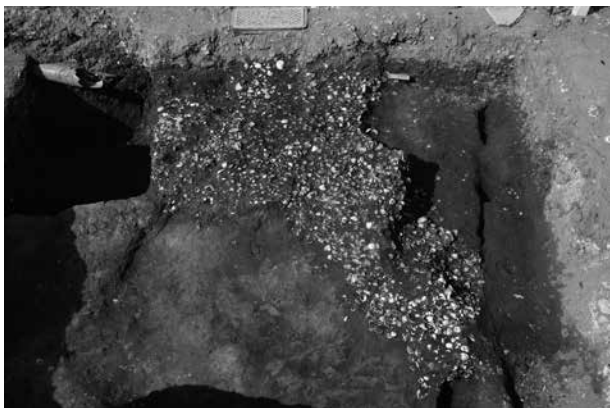
	コラム１－１層	コラム１－２層	コラム２－１層	A区貝層サンプル	合計
～40㎜	1	0	2	1	4
40～50㎜	4	0	2	3	9
50～60㎜	4	2	3	3	12
60～70㎜	0	1	0	1	2
70～80㎜	1	0	0	0	1
80～90㎜	1	0	0	0	1
90～100㎜	1	0	0	0	1
100㎜～	0	0	0	1	1
合計	12	3	7	9	31

表１－６　ヤマトシジミ左右別資料数

	左	右	合計
コラム１－１層	171	106	277
コラム１－２層	24	30	54
コラム２－１層	80	92	172
B区貝層サンプル	37	28	65
合計	312	256	568

表１－７　ハマグリ左右別資料数

	左	右	合計
コラム１－１層	9	9	18
コラム１－２層	2	3	5
コラム２－１層	5	5	10
B区貝層サンプル	8	3	11
合計	24	20	44

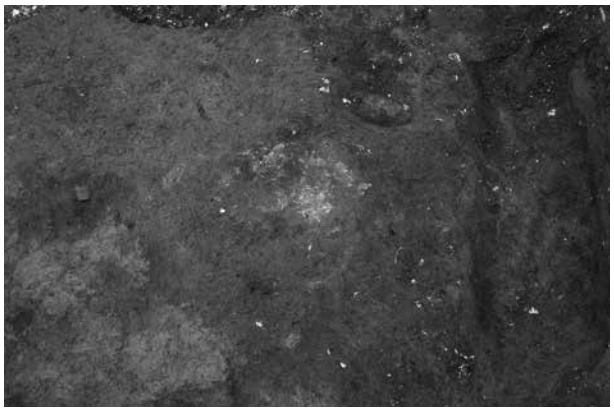


Ａ区貝層検出状況（南側から）

Ａ区貝層断面（南西側から）

Ａ区貝層中カガミガイブロック（西側から）

Ａ区骨出土状況（南側から）



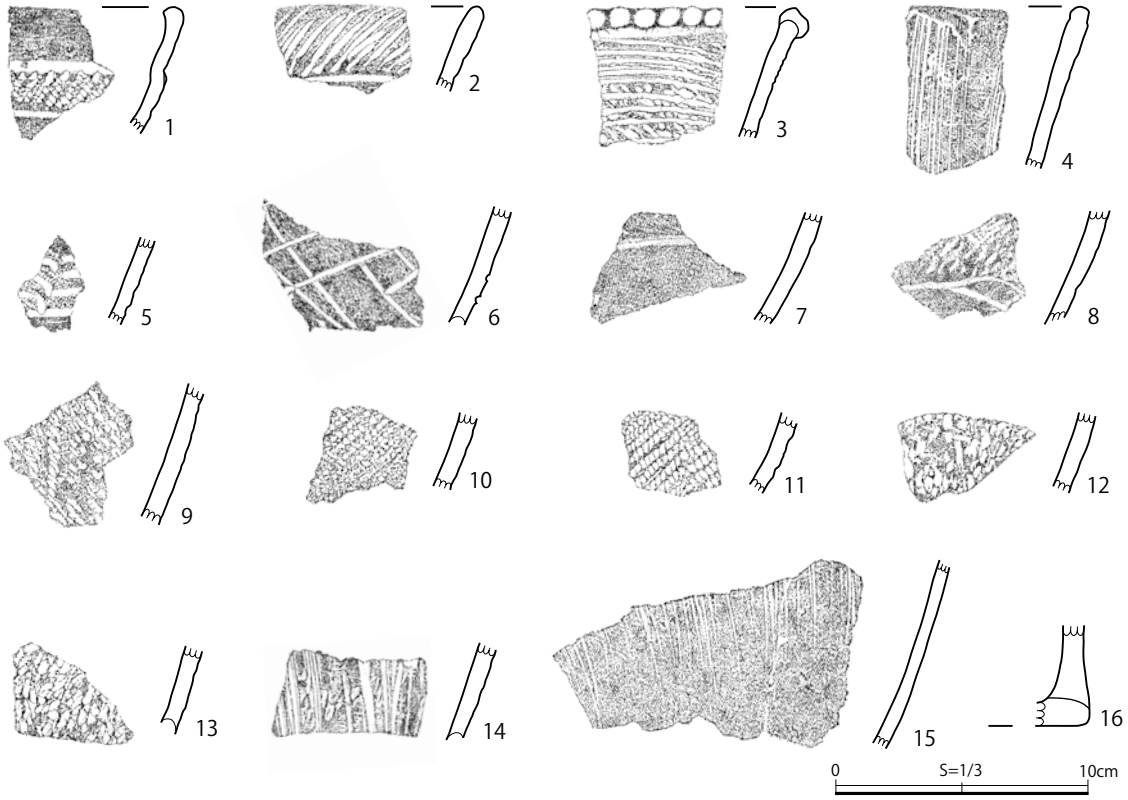
Ａ区貝層下の灰・焼土検出状況（南側から）

ピット全景（南側から）

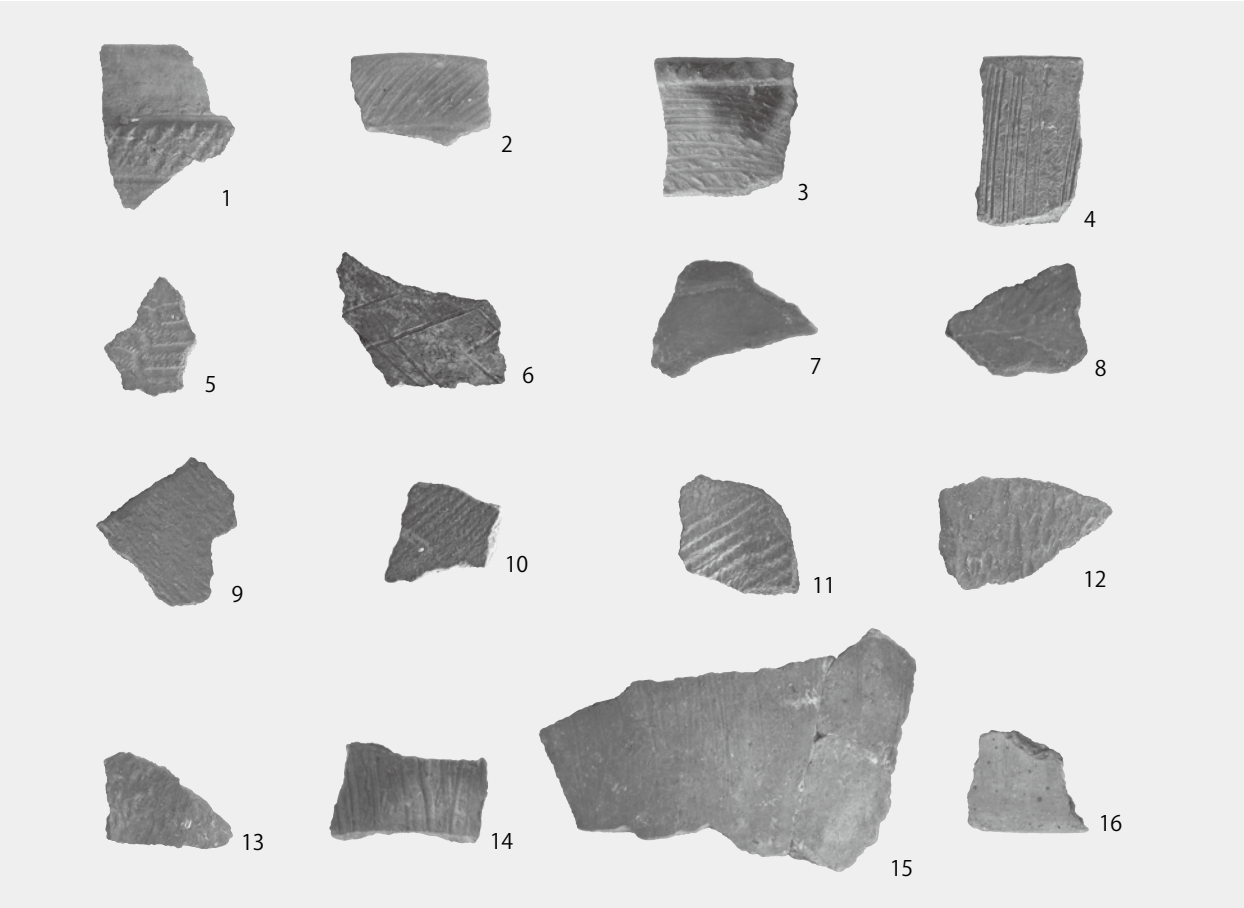
Ｂ区全景（北側から）

Ｂ区東壁貝層（西側から）

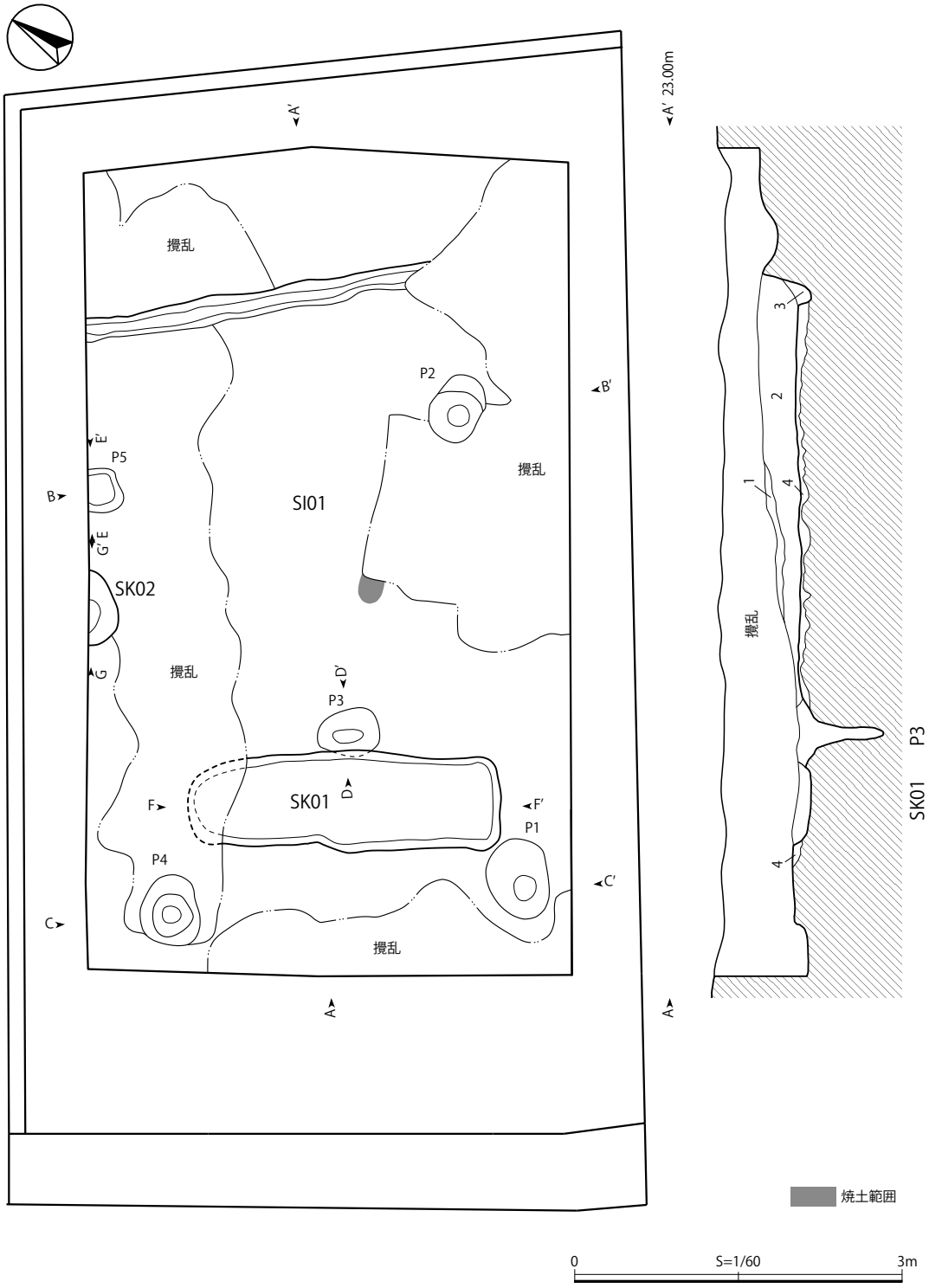
図版１　西ヶ原 3-7 地点



第５図　西ヶ原 3-7 地点　出土遺物実測図



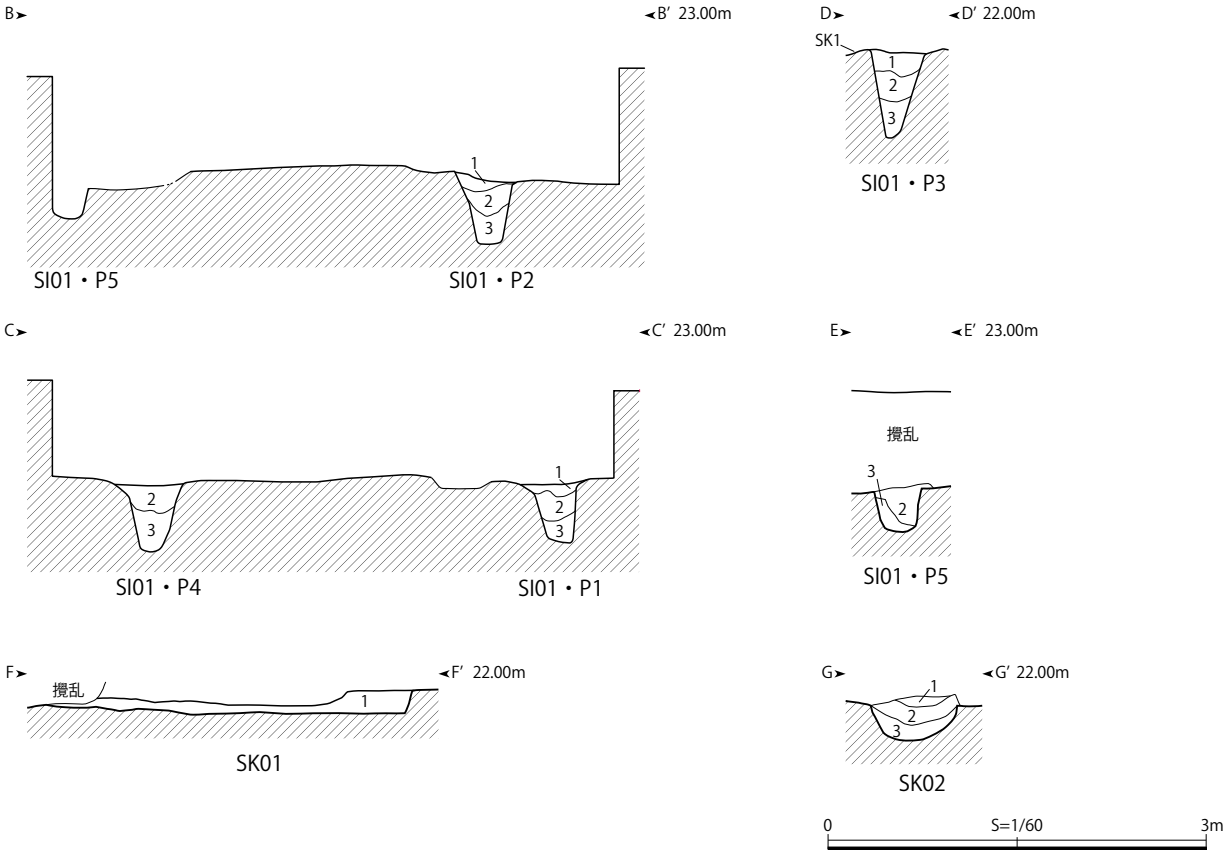
図版２　西ヶ原 3-7 地点　出土遺物



SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/4）	あり	なし	ローム粒子を多く、橙色粒子を僅かに含む。
2	黒褐色土（10YR2/3）	あり	なし	炭化物・橙色粒子を含む。土師器を主体的に含む住居覆土。
3	暗褐色土（10YR3/4）	なし	なし	ローム粒子ブロックを多く含む。壁溝覆土。
4	褐色土（10YR4/4）	なし	なし	ロームブロックを多く含む。掘方埋土。

第６図　中十条 1-26-4 地点　調査区全体図・断面図



SI01・P1～4

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR2/2）	あり	なし	ローム粒子・炭化物・橙色粒子を僅かに含む。
2	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	あり	なし	ローム粒子を多量に含む。
3	褐灰色土（10YR4/1）	あり	なし	ローム粒子・ロームブロックを含む。

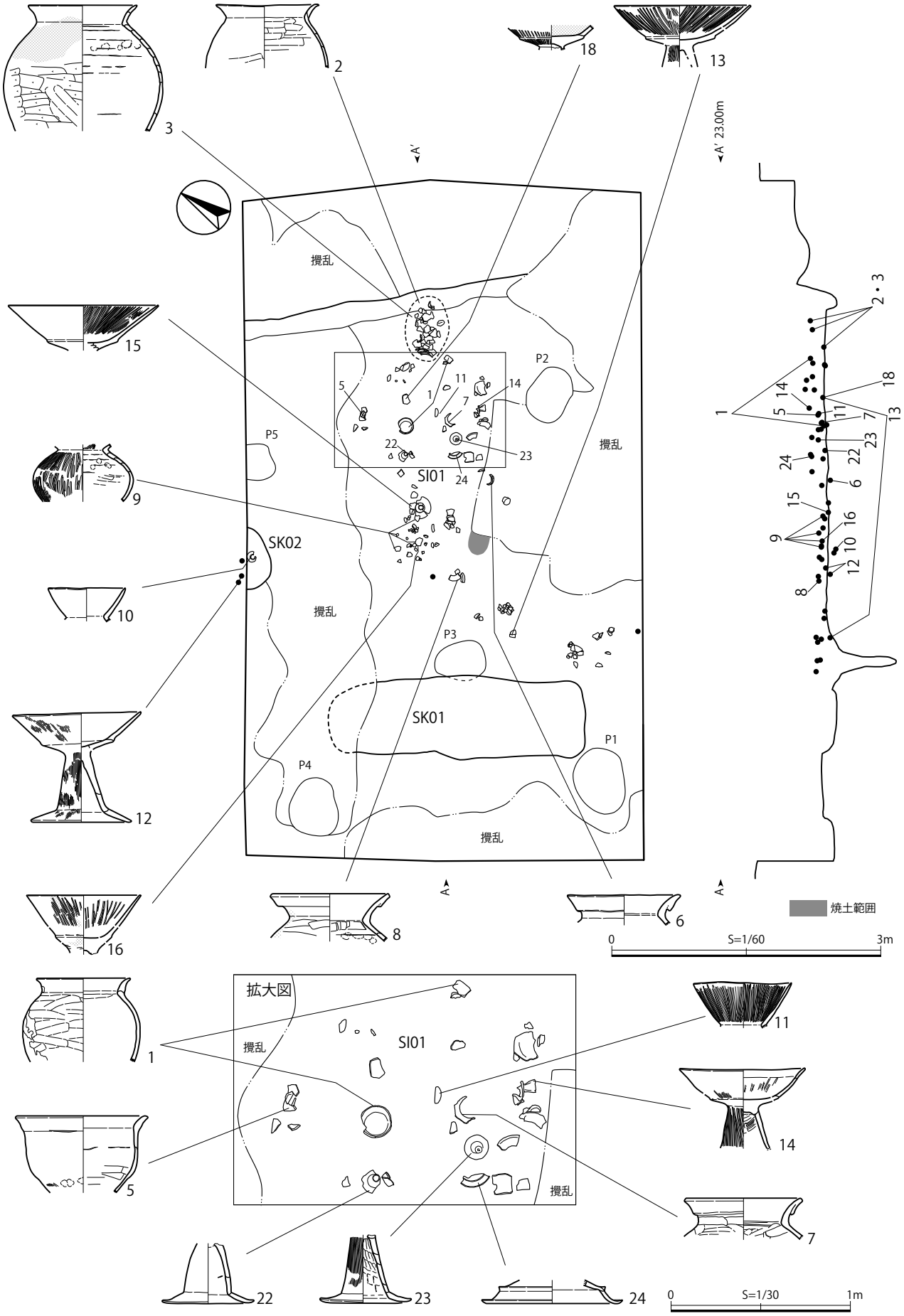
SK01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/3）	あり	なし	ローム粒子・炭化物・橙色粒子を僅かに含む。

SK02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR2/3）	あり	なし	撹乱層直下で SI01 の覆土に類似する。
2	暗褐色土（10YR3/3）	あり	なし	ローム粒子・橙色粒子を含む。
3	暗褐色土（10YR3/3）	あり	なし	2 層よりロームブロックを多く含む。

第 7 図　中十条 1-26-4 地点　調査区、SI、SK 断面図



第８図　中十条 1-26-4 地点　遺物出土状況図

試掘坑全景（南側から）

調査区西側全景（北東から）

SI01 西側遺物出土状況（南西から）

SI01 東側遺物出土状況（南西から）

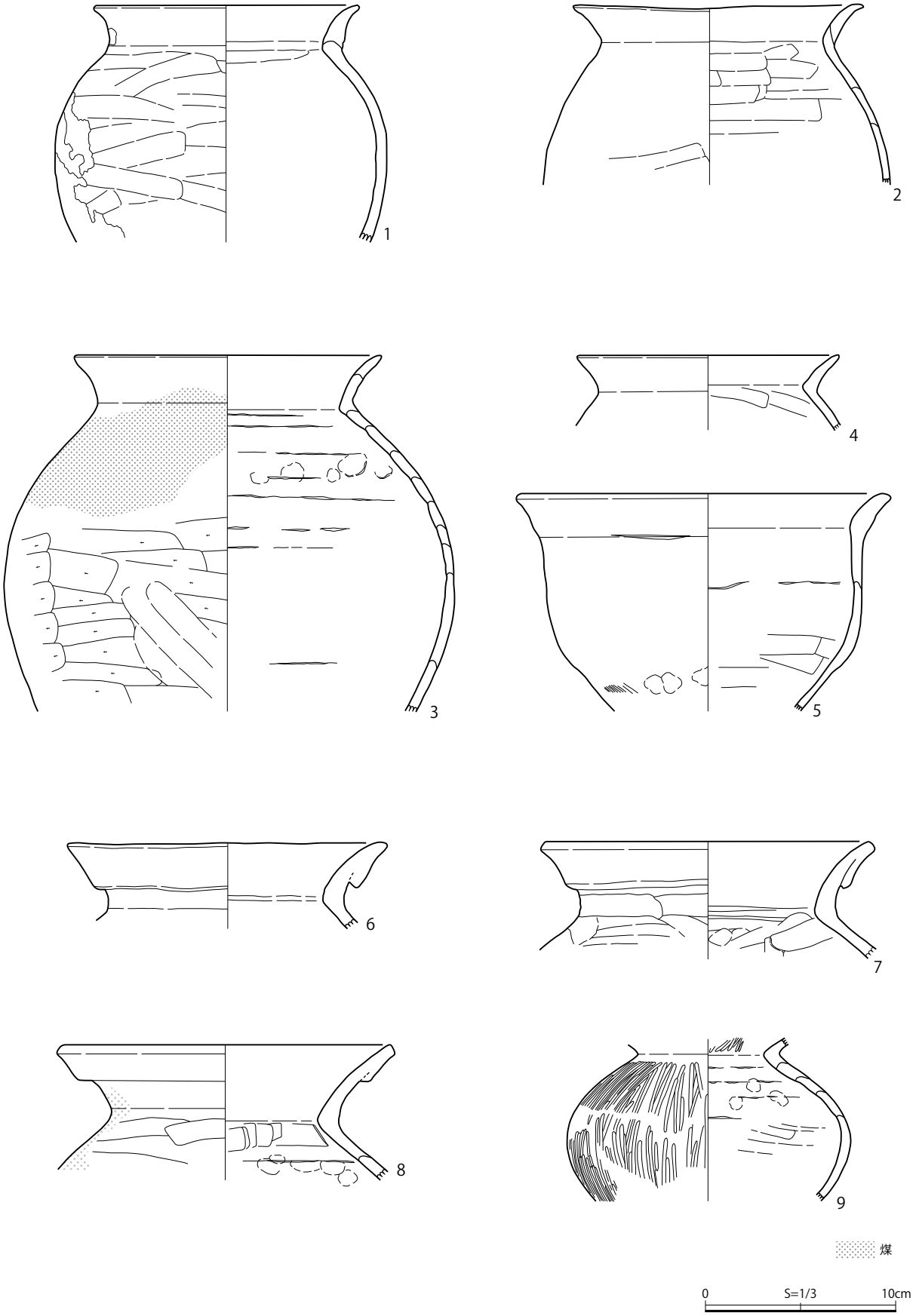
SI01 西側遺物出土状況（南東から）

SI01 東側遺物出土状況（南東から）

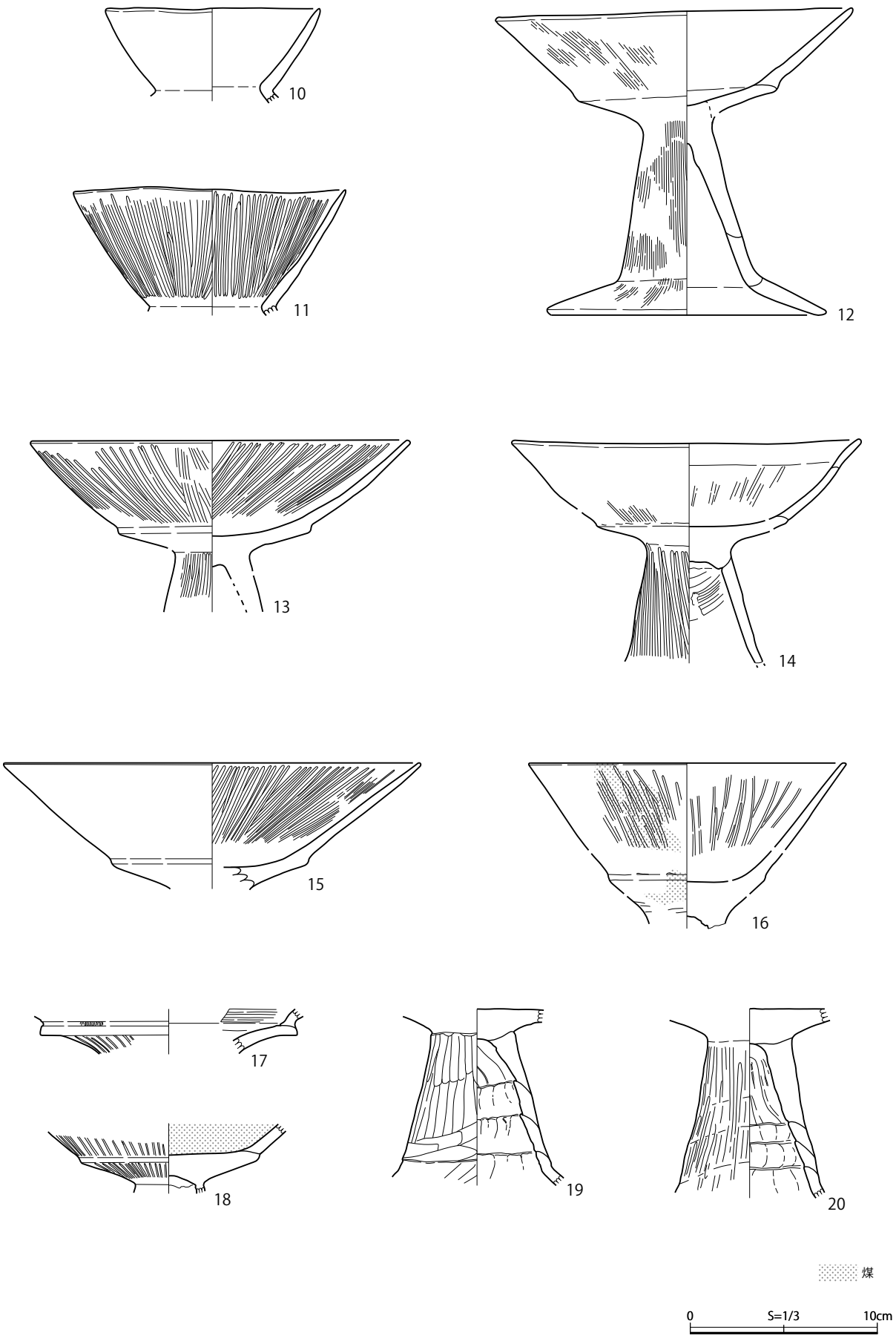
SK01（南西から）

SK02（南東から）

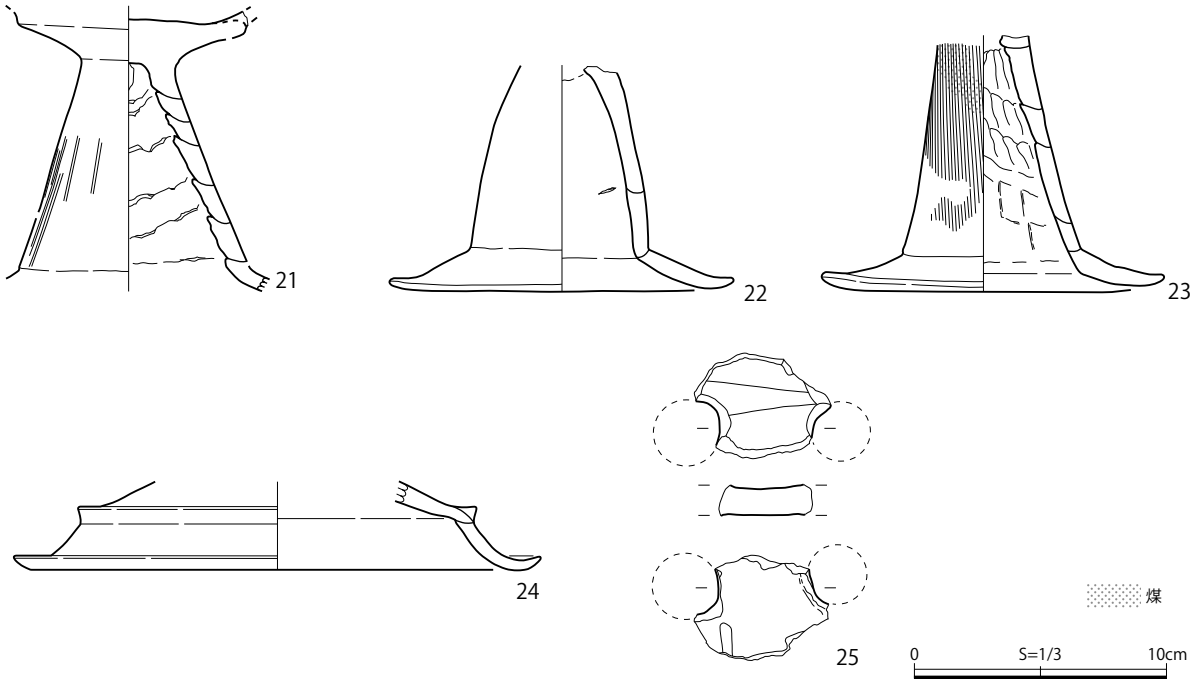
図版３　中十条 1-26-4 地点



第９図　中十条 1-26-4 地点　出土遺物実測図

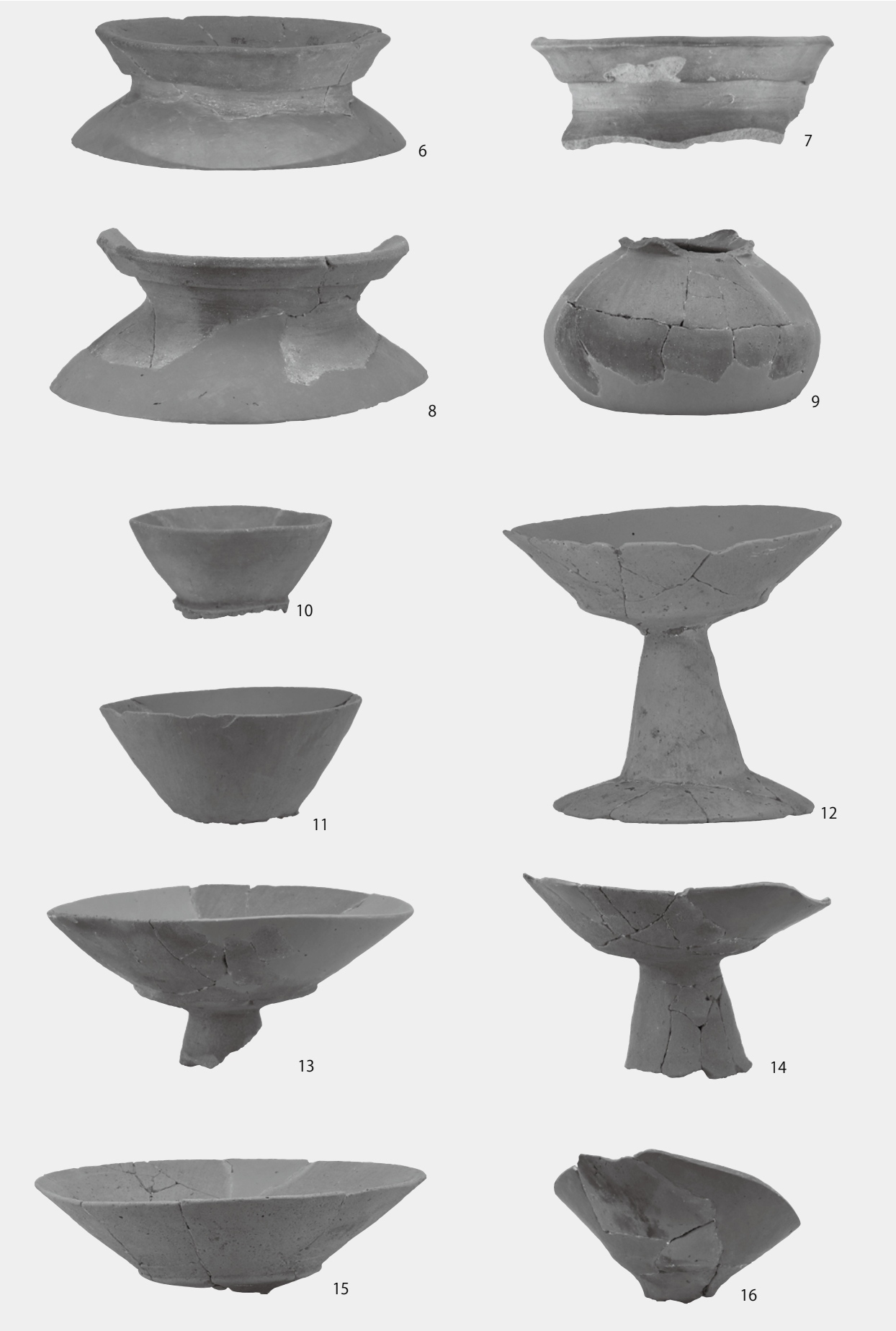


第 10 図　中十条 1-26-4 地点　出土遺物実測図

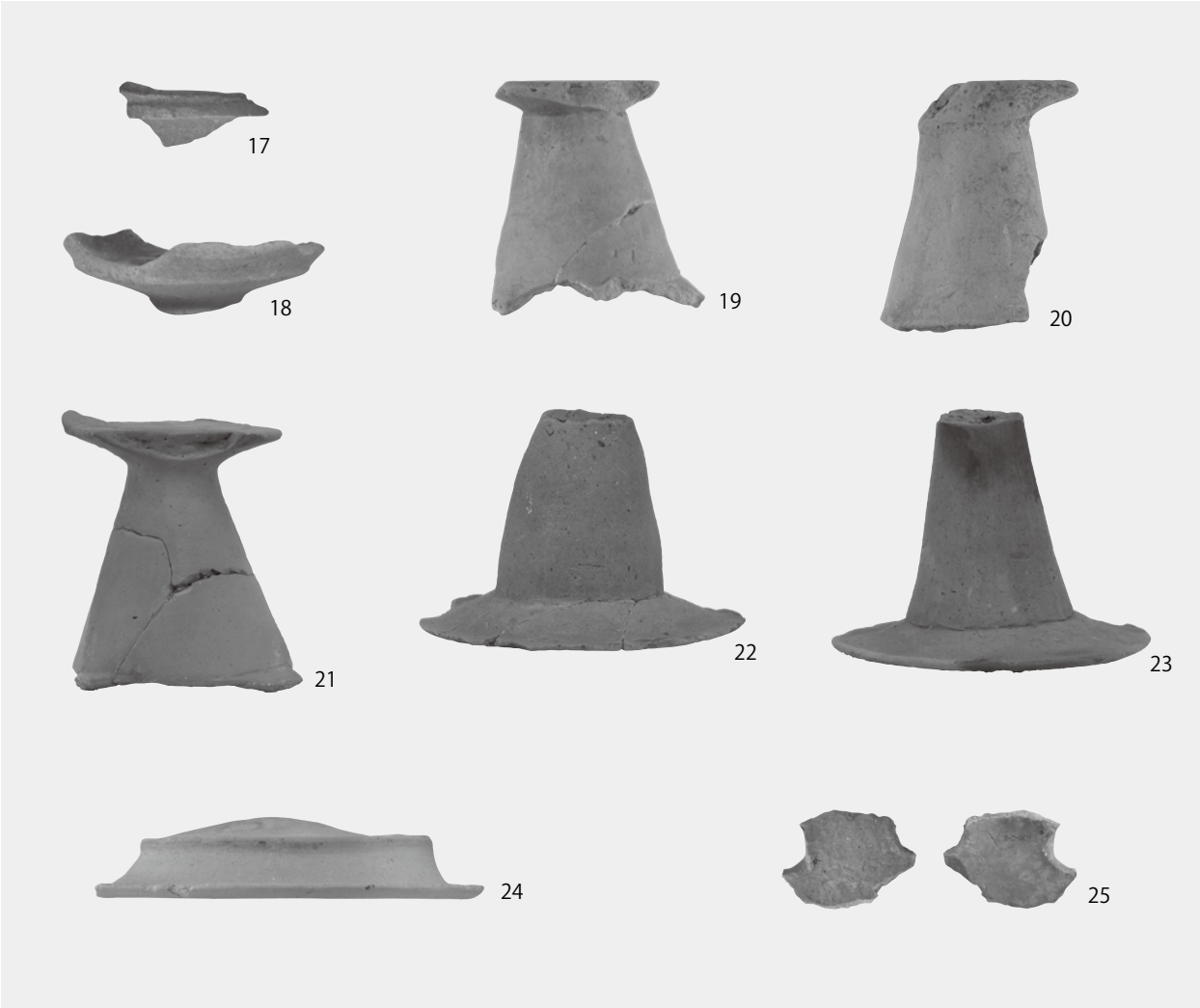


第 11 図　中十条 1-26-4 地点　出土遺物実測図

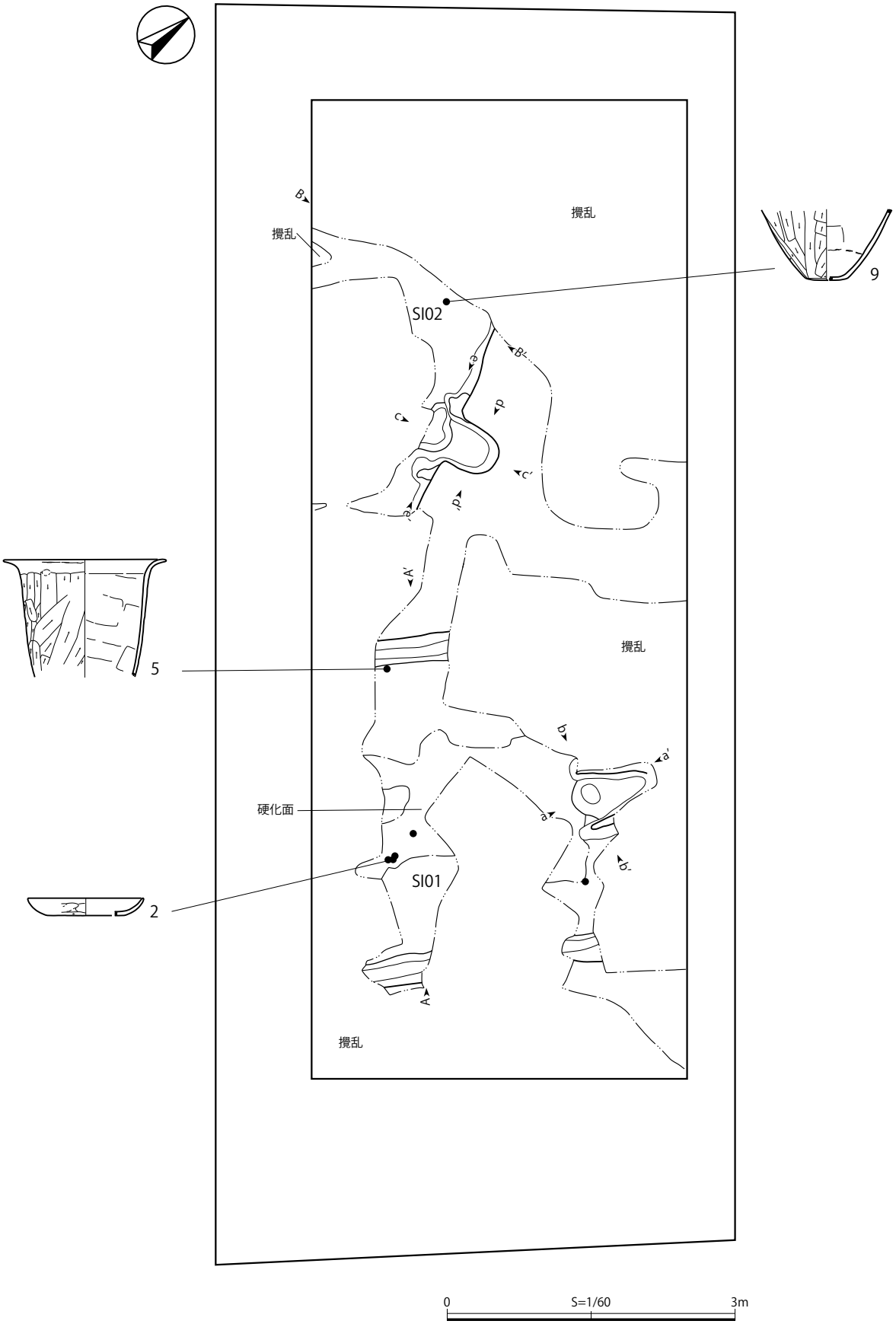
図版 4　中十条 1-26-4 地点　出土遺物



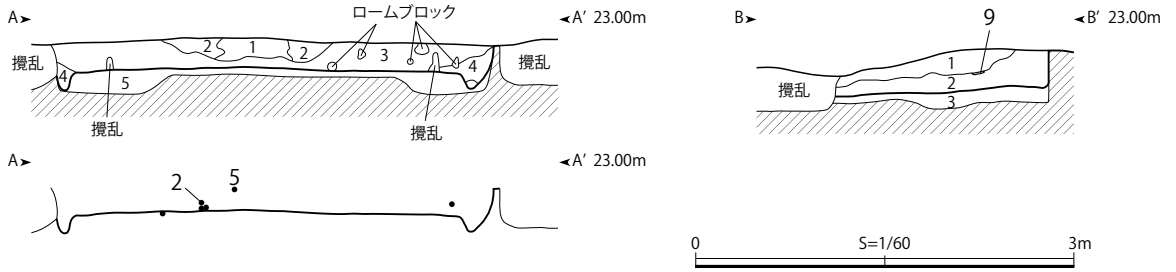
図版 5　中十条 1-26-4 地点　出土遺物



図版６　中十条 1-26-4 地点　出土遺物



第 12 図　中里 3-22-16 地点　調査区全体図・断面図

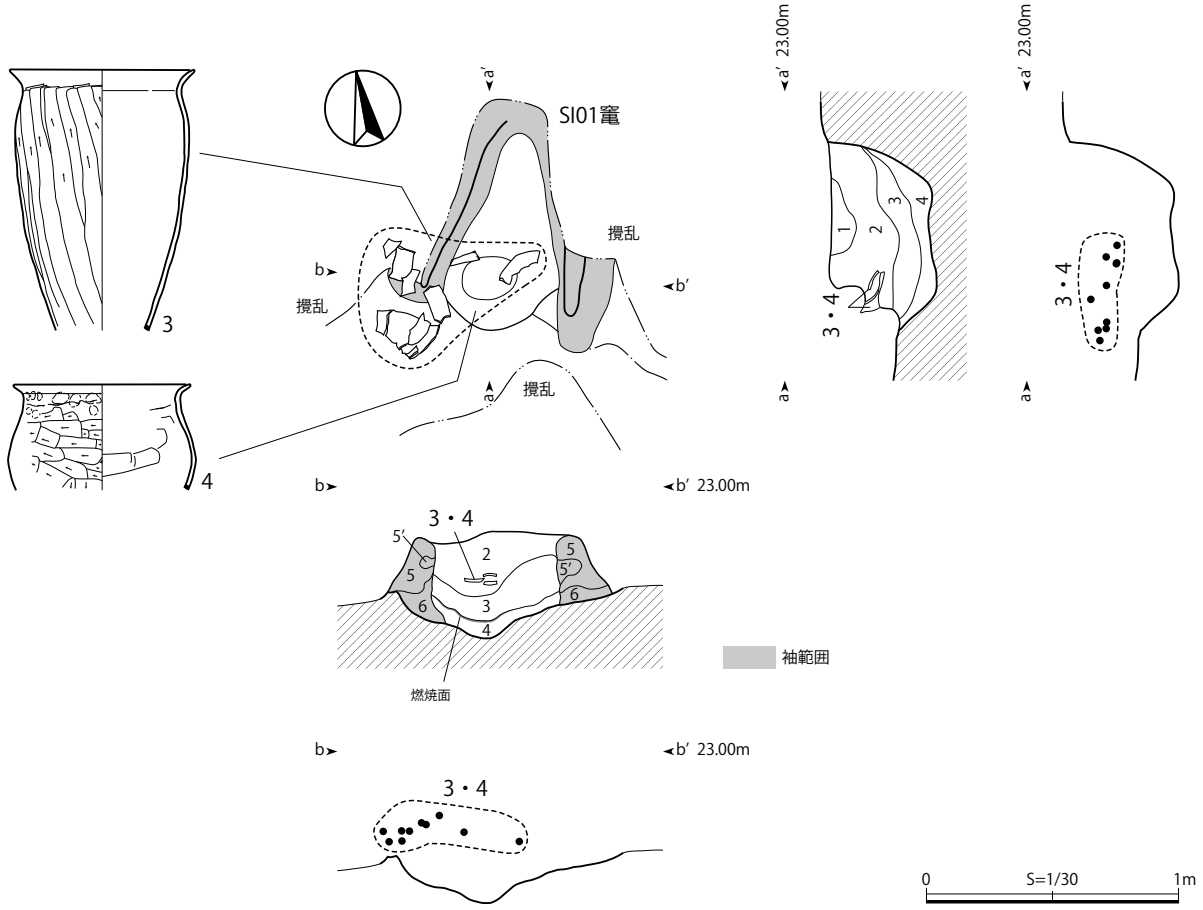


SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	灰白色土（7.5YR8/1）	やや強い	やや弱い	焼土（φ5～50㎜）を多量、炭化物（φ5～10㎜）を少量含む。2層の黒褐色土がまじる。カマド廃棄土。
2	黒褐色土（7.5YR3/1）	やや弱い	やや強い	白色粘土（φ10～30㎜）、焼土（φ10～20㎜）、炭化物（φ10～20㎜）を少量含む。カマド廃棄土。
3	褐色土（7.5YR4/3）	やや弱い	やや強い	ローム粒子（φ1～30㎜）を中量、ロームブロック（φ50～150㎜）を少量、白色粘土（φ10～50㎜）を含む。
4	暗褐色土（7.5YR3/3）	やや弱い	やや強い	ローム粒子（φ1～10㎜）を中量、ロームブロック（φ30～100㎜）を少量含む。壁溝。
5	暗褐色土（7.5YR3/4）	やや弱い	やや弱い	ロームブロック（φ30～100㎜）を多量含む。掘方。

SI02

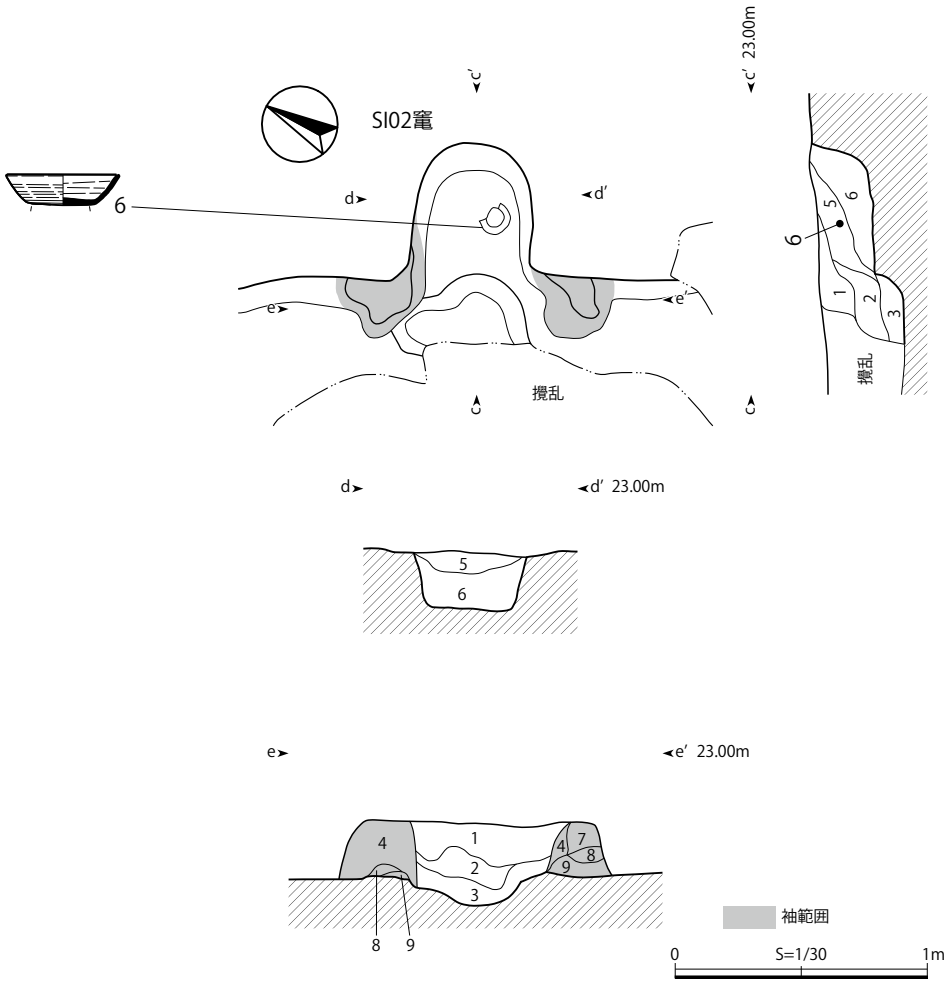
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（7.5YR3/4）	やや弱い	やや強い	ロームブロック（φ3～20㎜）を少量、焼土（φ1～2㎜）、炭化物（φ1～3㎜）を微量含む。
2	黒褐色土（7.5YR3/2）	やや強い	やや強い	ロームブロック（φ10～50㎜）を中量、焼土（φ1～3㎜、炭化物（φ2～3㎜）を微量含む。
3	黒褐色土（7.5YR3/1）	やや弱い	やや弱い	ロームブロック（φ30～100㎜）を多量含む。掘方。



SI01 竈

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	明褐灰色土（7.5YR7/1）	やや強い	強い	炭化物（φ1～3㎜）を少量、焼土（φ1～3㎜）を微量含む。天井部崩落土。
2	褐色土（7.5YR4/3）	やや強い	やや強い	焼土（φ1～20㎜）を中量、白色粘土（φ50～60㎜）を少量、炭化物（φ1～5㎜）、ロームブロック（φ1～30㎜）を微量含む。
3	暗褐色土（7.5YR3/3）	やや強い	やや強い	炭化物（φ1～5㎜）、白色粘土（φ20～30㎜）を中量、焼土（φ1～5㎜）を微量含む。
4	褐灰色土（7.5YR4/1）	やや強い	やや強い	白色粘土（φ10～30㎜）、炭化物（φ10～30㎜）を多量含む。燃焼部下層。
5	灰白色土（7.5YR8/1）	強い	やや強い	5′に特に顕著なように黒色土（φ50～100㎜）をブロック状に少量含む。カマド袖。
6	黒褐色土（7.5YR3/1）	やや強い	やや強い	白色粘土（φ1～2㎜）を中量、ロームブロック（φ20～30㎜）、焼土（φ1～10㎜）を少量、炭化物（φ1～2㎜）を微量含む。カマド袖

第13図　中里3-22-16地点　SI01断面図、SI01竈平・断面図

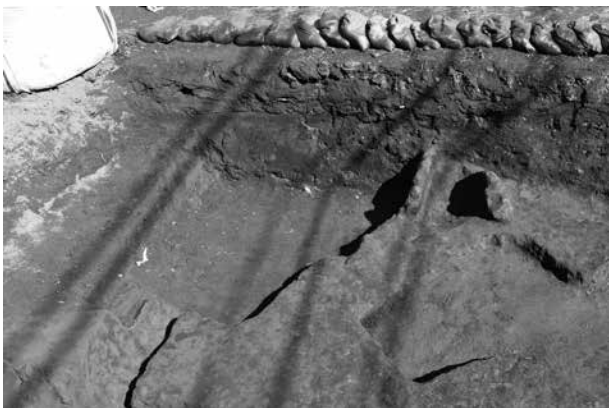


SI02 竈

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（7.5YR3/3）	やや弱い	やや弱い	焼土（φ２～10㎜）、炭化物（φ２～５㎜）を少量含む。
2	黒褐色土（7.5YR2/2）	やや弱い	やや強い	焼土（φ１～３㎜）、炭化物（φ１～２㎜）を微量含む。
3	灰褐色土（7.5YR4/2）	やや弱い	やや強い	ロームブロック（φ５～30㎜）を多量、焼土（φ１～３㎜）、炭化物を微量含む。
4	褐灰色土（7.5YR4/1）	やや弱い	やや強い	焼土（φ１～10㎜）、炭化物（φ１～３㎜）を微量、ロームブロック（φ１～10㎜）を含む。カマド袖崩落土。
5	灰褐色土（7.5YR4/2）	やや強い	やや弱い	白色粘土を多く、炭化物（φ１～２㎜）、焼土（φ１～３㎜）を少量含む
6	暗灰褐色土（7.5YR4/3）	やや強い	やや強い	焼土（φ10～30㎜）、ロームブロック（φ１～10㎜）を中量、炭化物（φ１～２㎜）を少量含む。
7	黒褐色土（7.5YR3/2）	やや弱い	やや強い	カマド袖。
8	灰白色土（7.5YR8/1）	やや強い	やや弱い	黒褐色土が混じる。カマド袖。
9	灰褐色土（7.5YR4/2）	やや弱い	やや強い	ローム粒子（φ１～10㎜）を少量含む。カマド袖。

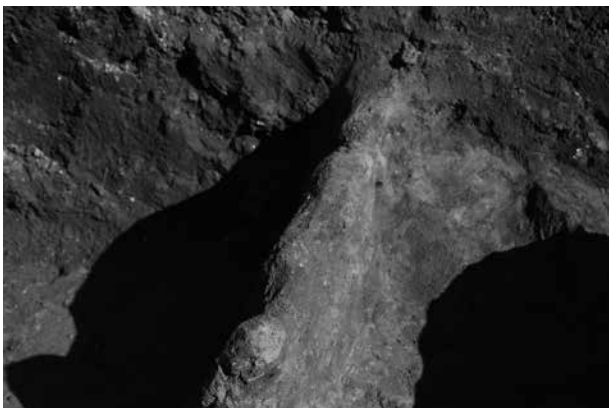
第 14 図　中里 3-22-16 地点　SI02 竈平・断面図

南側全景（南東から）



SI01（南西から）

SI01 遺物出土状況（西から）



SI01 竈（南西から）

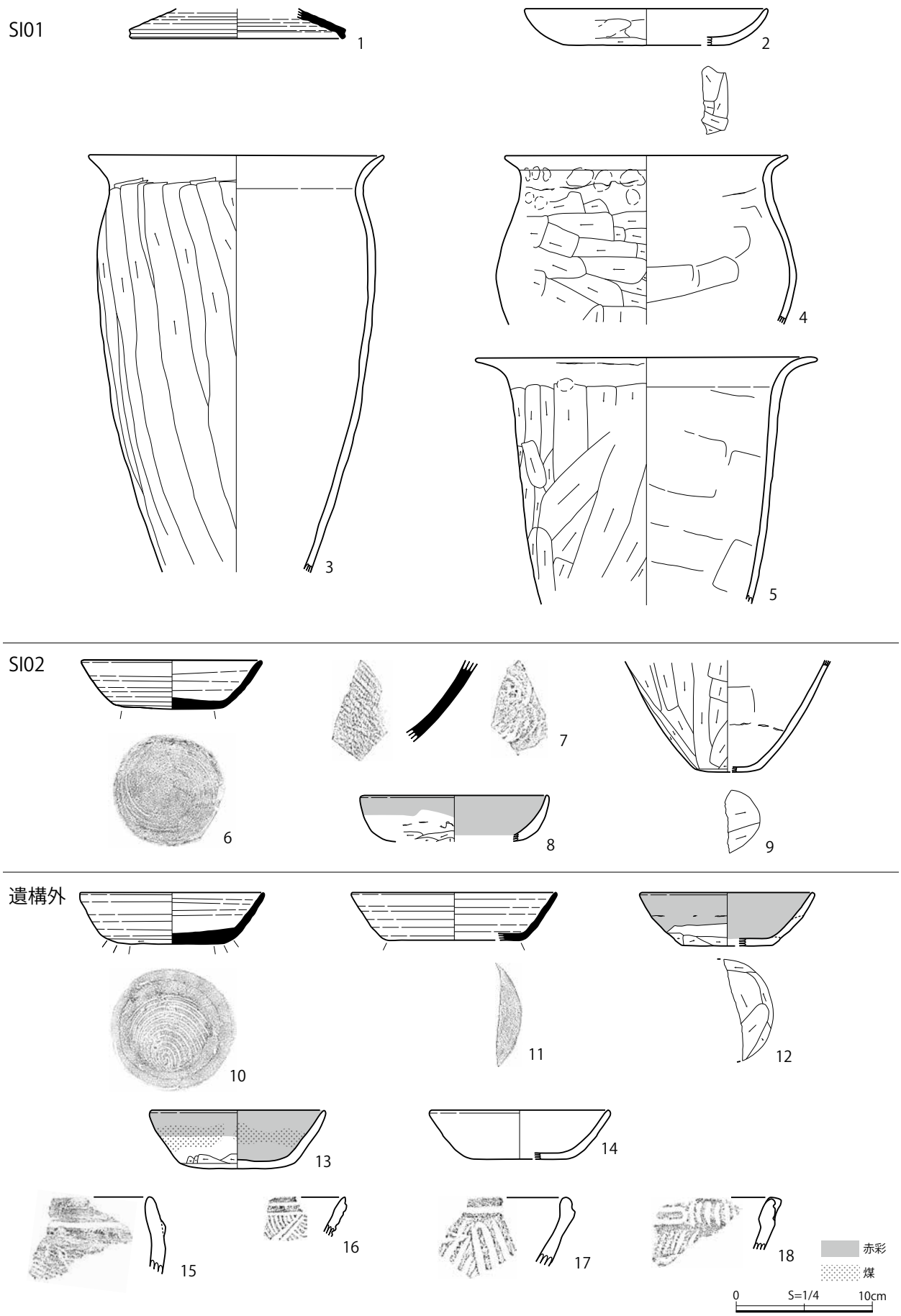
北側全景（南東から）

SI02（西から）

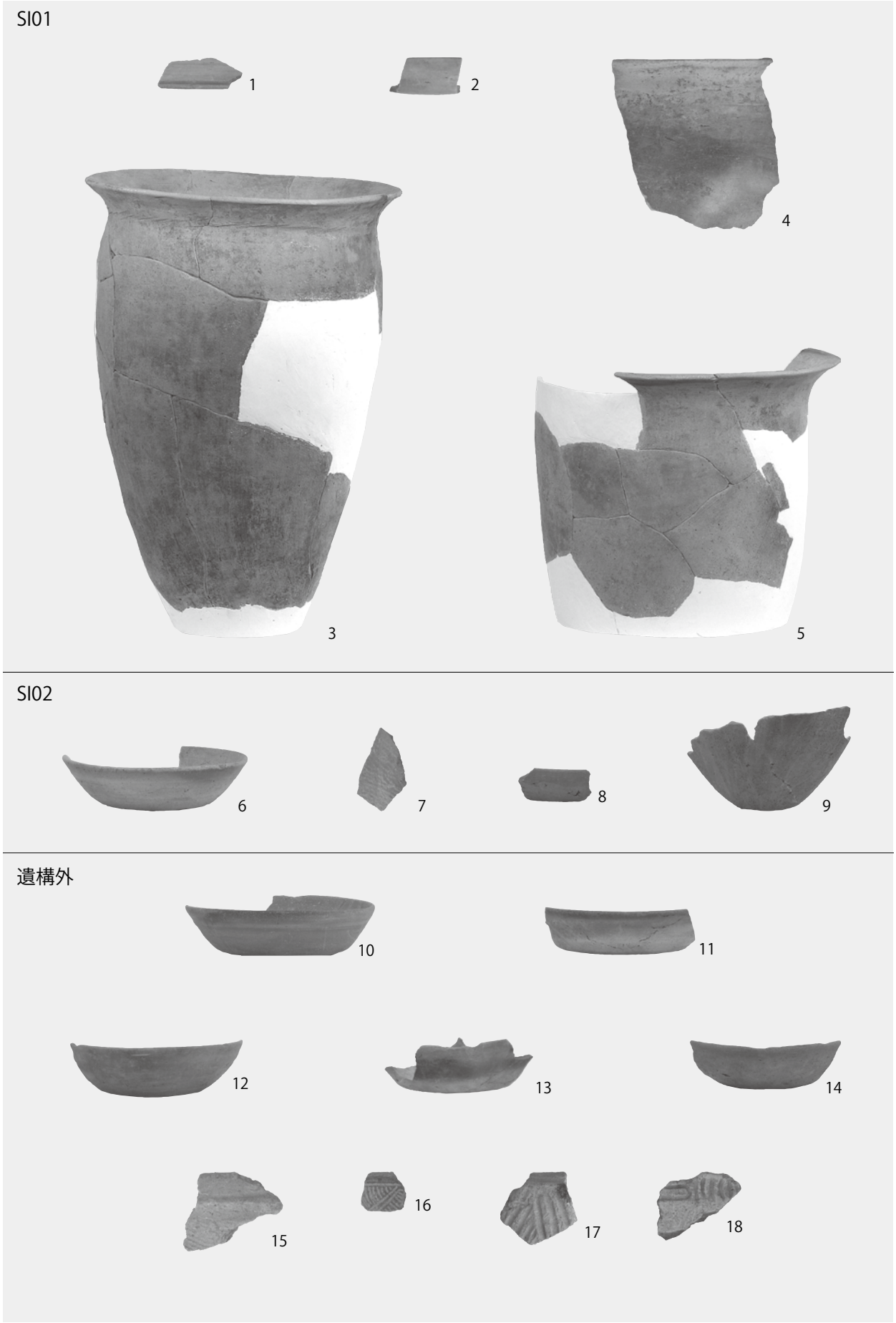
SI02 竈（西から）

SI02 堀方（西から）

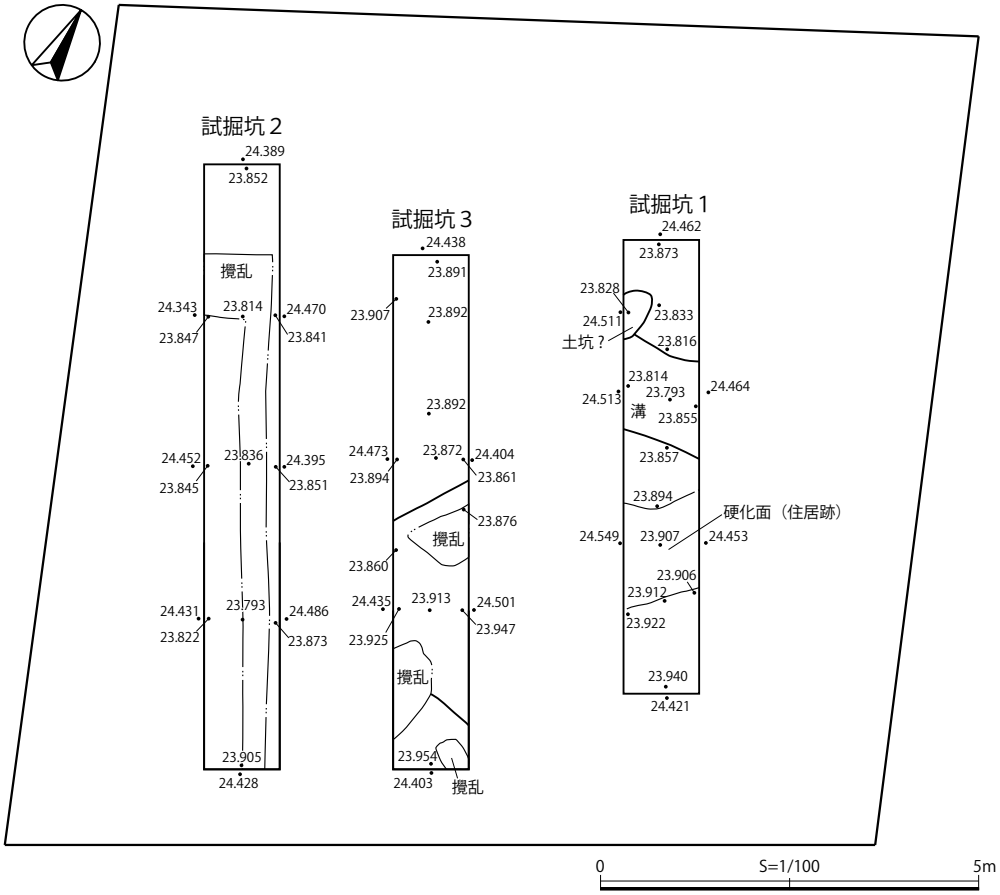
図版７　中里 3-22-16 地点



第 15 図　中里 3-22-16 地点　出土遺物実測図



図版８　中里 3-22-16 地点　出土遺物



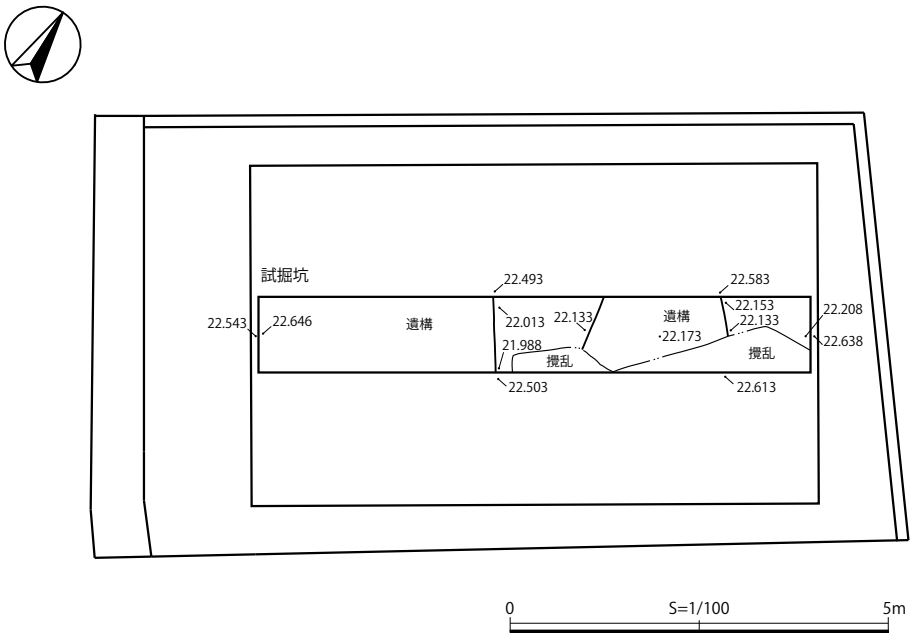
第 16 図　中十条 1-4-6 地点　調査平面図

試掘坑１全景（北から）

試掘坑２全景（北から）

試掘坑３全景（北から）

図版９　中十条 1-4-6 地点



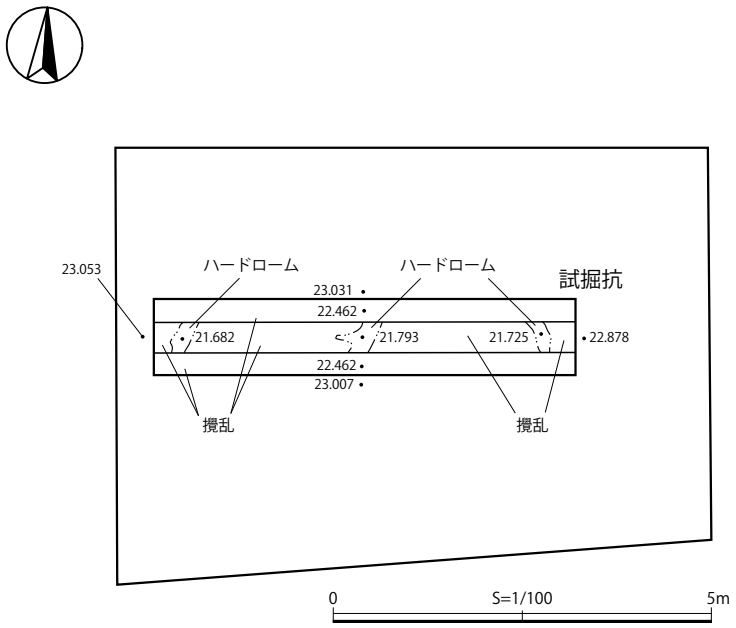
第 17 図　中十条 1-26-4 地点　調査平面図

試掘坑全景（南西から）

試掘坑土層堆積状況（南東から）

試掘調査終了状況（南西から）

図版 10　中十条 1-26-4 地点

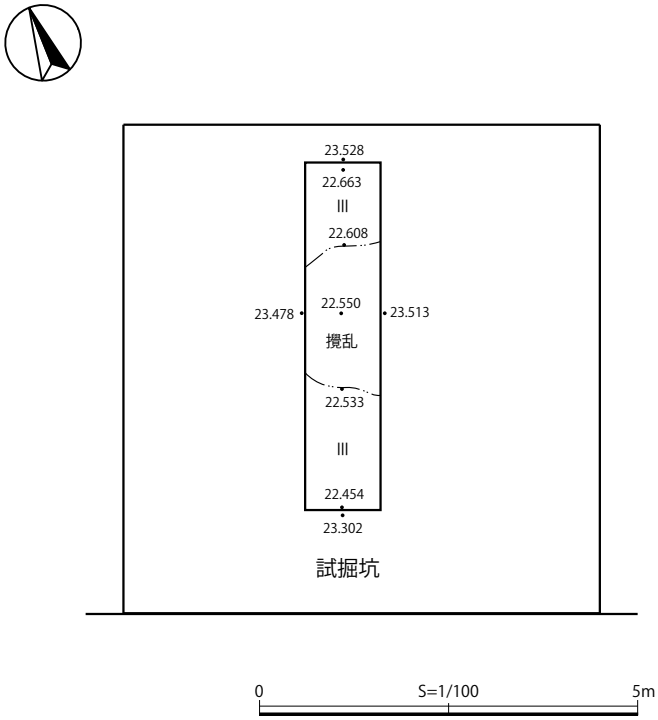


第 18 図　西ヶ原 1-28-14 地点　調査平面図

試掘坑全景（西から）

試掘坑全景（東から）

図版 11　西ヶ原 1-28-14 地点

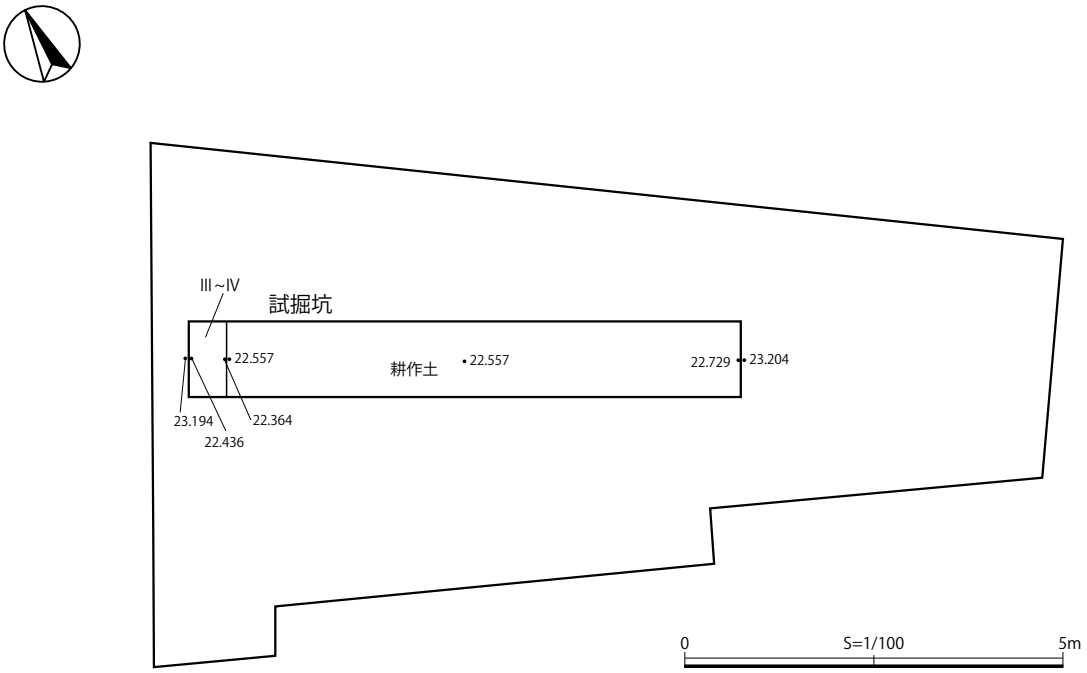


第 19 図　西ヶ原 3-19 地点　調査平面図

試掘坑全景（北から）

試掘坑全景（南から）

図版 12　西ヶ原 3-19 地点

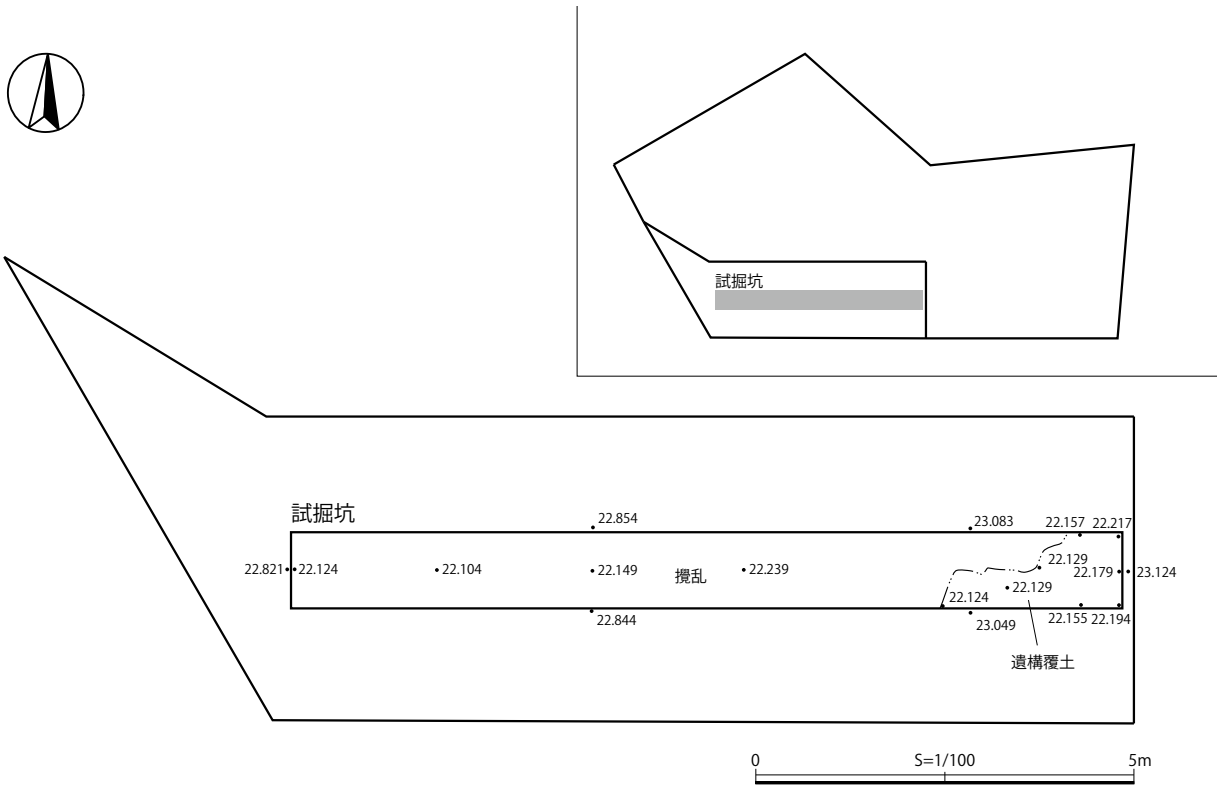


第 20 図　中里 3-18-18 地点　調査平面図

試掘坑全景（北西から）

試掘坑全景（南東から）

図版 13　中里 3-18-18 地点



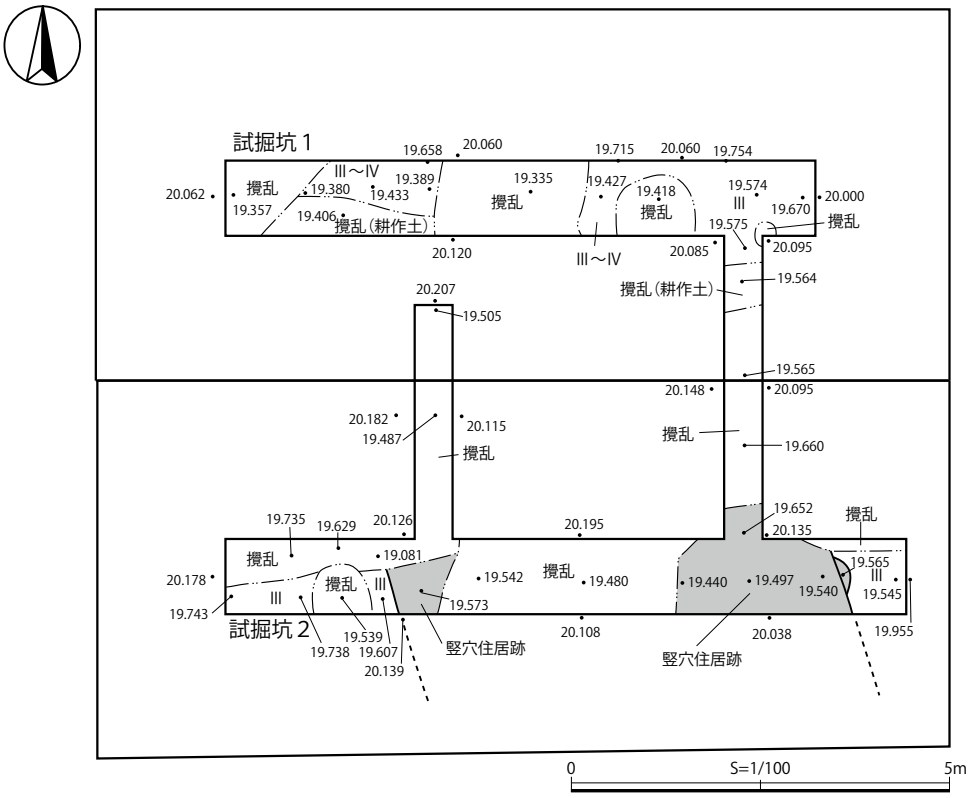
第 21 図　中里 3-11 地点　調査平面図

試掘坑全景（西から）

試掘坑北壁セクション（南から）

試掘坑東側遺構検出（北から）

図版 14　中里 3-11 地点



第 22 図　赤羽台 4-11 地点　調査平面図

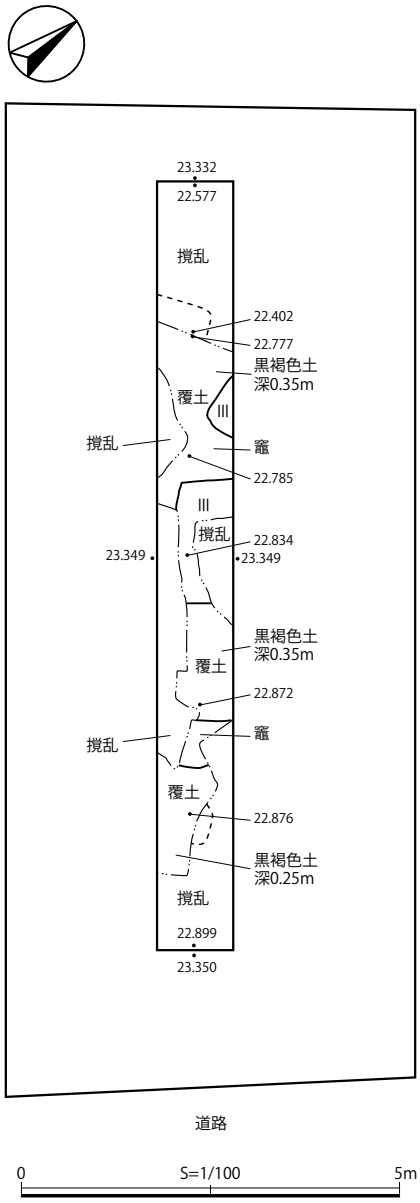
試掘坑１全景（東から）

試掘坑２全景（東から）

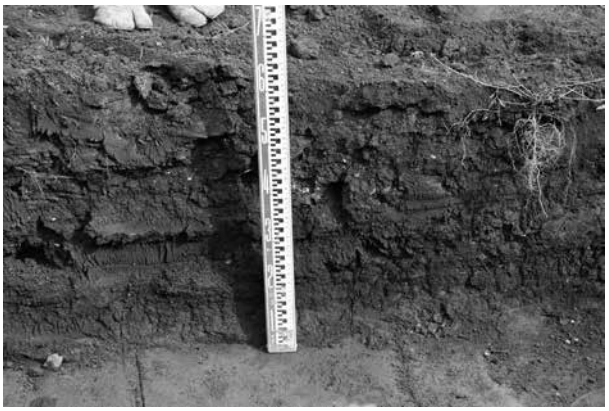
図版 15　赤羽台 4-11 地点

試掘坑１全景（北西から）

試掘坑全景（南東から）

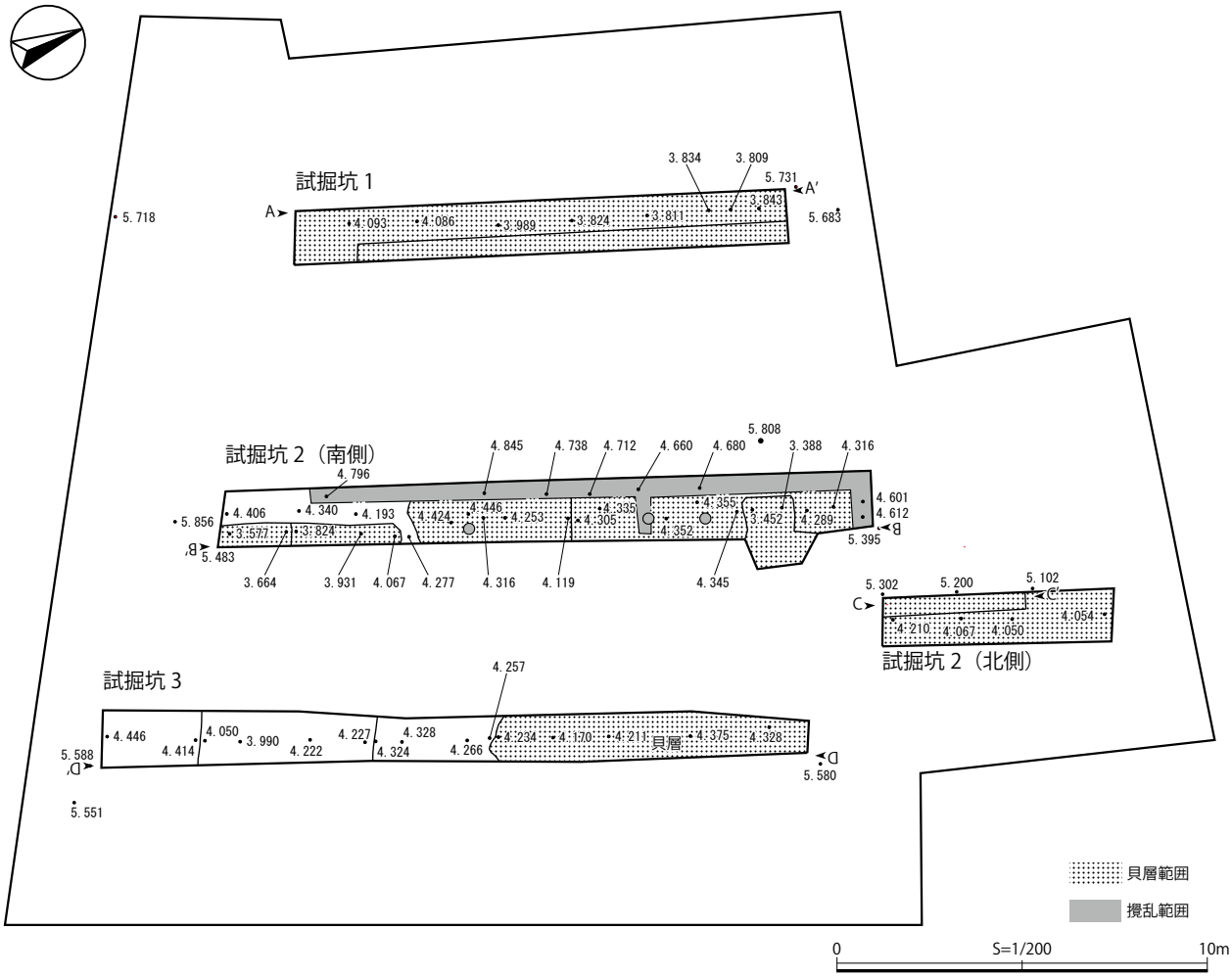


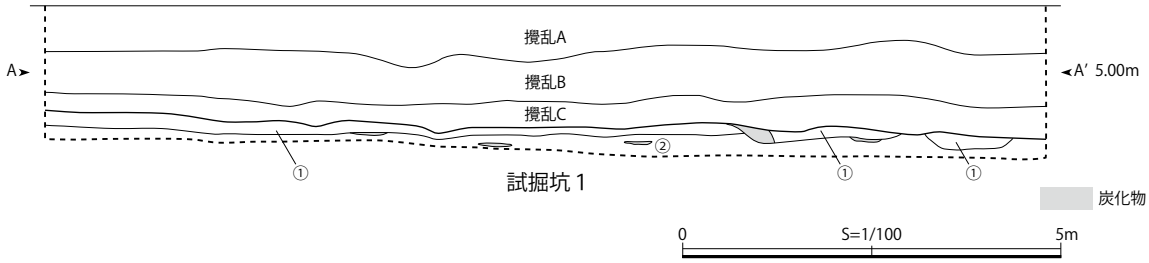
第 23 図　中里 3-22-16 地点　調査平面図



試掘坑土層堆積状況（南西から）

図版 16　中里 3-22-16 地点

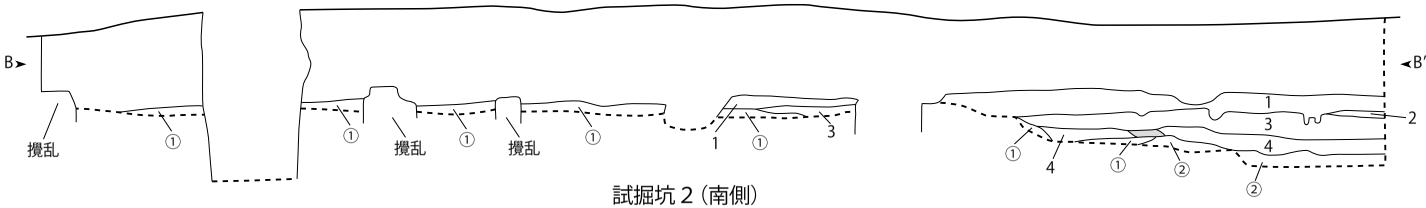




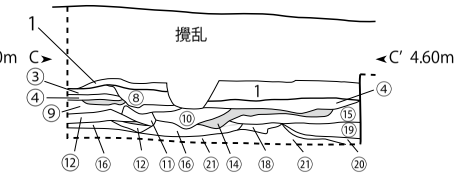
試掘坑 1

土色	混入物・備考
撹乱 A	駐車場整地に伴う埋め土。
撹乱 B	青灰色シルトを主体として破砕貝殻を多量に含む。
撹乱 C	近代～現代か。油ぎった黒褐色土（ボタか）一部貝殻が混じる。
① 明赤褐色（5YR5/6）	混貝層（純貝層に近い）酸化より赤色化している（特に層の上部が著しい）。破砕したマガキ・ハマグリが主体である。
② オリーブ灰（5GY6/1）	純貝層（若干シルトを含む）①より大き目なハマグリを主体とし、著しく破砕したマガキを含む。

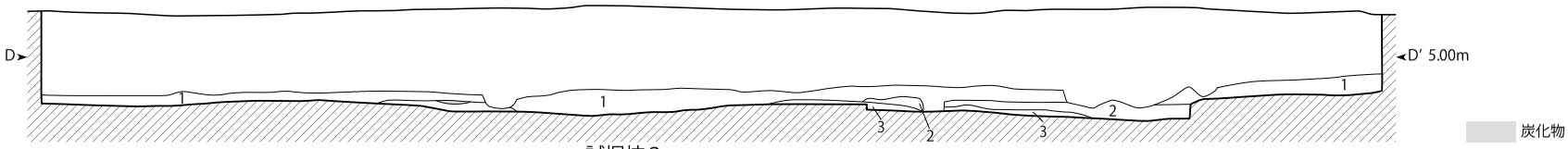
第 24 図　上中里 2-10 地点　調査平面図、試掘坑 1 断面図



試掘坑２（南側）



試掘坑２（北側）



試掘坑３

試掘坑２・３

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/3）	なし	なし	破砕貝片を含む、近代以降の耕作土。
2	黒褐色土（10YR3/1）	なし	ややあり	砂粒・赤色粒子（マンガンか）を含む。
3	暗赤褐色シルト（2.5YR3/4）	なし	あり	黒色土（φ1～5mm）を少量、下層の黄褐色シルトを斑状に多量に含む。
4	黄褐色シルト（2.5Y5/4）	なし	あり	赤色粒子・炭化粒子を少量含む。
①	明赤褐色（5YR5/6）			混貝層（純貝層に近い）酸化より赤色化している（特に層の上部が著しい）。破砕したマガキ・ハマグリが主体である。
②	オリーブ灰（5GY6/1）			純貝層（若干シルトを含む）①より大き目なハマグリを主体とし、著しく破砕したマガキを含む。
③	にぶい黄褐色（10YR5/3）	ややあり	あり	混土貝層（貝 80%）破砕の少ないハマグリを主体とし、細かく破砕されたマガキを含む。
④	暗褐色（10YR3/3）	ややあり	ややあり	混貝土層（貝 20%）細かい破砕貝を含む。
⑤	灰黄褐色（10YR5/2）			混土貝層（貝 80%）破砕の少ないハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。灰のためか白っぽい部分あり。
⑥	オリーブ灰（5GY6/1）	弱い	あり	混貝土層（貝 10%）４層を基本とし破砕貝を少量含む。
⑦	オリーブ灰（5GY6/1）	あり	あり	混土貝層（純貝層に近い）破砕されたマガキを主体とし、ハマグリを少量含む。
⑧	黒褐色土（10YR3/2）			混貝土層（貝 40%）破砕貝を主体とする。土坑の可能性あり。
⑨	灰黄褐色（10YR5/2）	あり	なし	混土貝層（貝 80%）破砕の少ないハマグリを主体とし、細かく破砕したマガキを少量含む。灰を多量に含む。
⑩	灰白（N8/）	あり	なし	混土貝層（純貝層に近い）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑪	灰白（N8/）	あり	なし	混貝土層（貝 30～40%）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑫	灰白（N8/）	あり	なし	混土貝層（純貝層に近い）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑬	灰白（N8/）	あり	なし	混土貝層（純貝層に近い）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑭	黄褐色シルト（2.5YR5/4）	あり	なし	混貝土層（10%以下）４層を主体とし、破砕貝を僅かに含む。炭化物を多量に含む。
⑮	黄褐色シルト（2.5YR5/4）	あり	なし	混貝土層（10%以下）４層を主体とし、破砕貝を僅かに含む。
⑯	灰白（N8/）	あり	なし	混貝土層（貝 30～40%）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑰	灰白（N8/）	あり	なし	混土貝層（純貝層に近い）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑱	灰白（N8/）	あり	なし	混貝土層（貝 30～40%）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑲	灰白（N8/）	あり	なし	混貝土層（貝 30～40%）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
⑳	灰白（N8/）	あり	なし	混土貝層（純貝層に近い）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。
㉑	灰白（N8/）	あり	なし	混土貝層（純貝層に近い）ハマグリを主体とし、破砕したマガキを少量含む。

0　S=1/100　5m

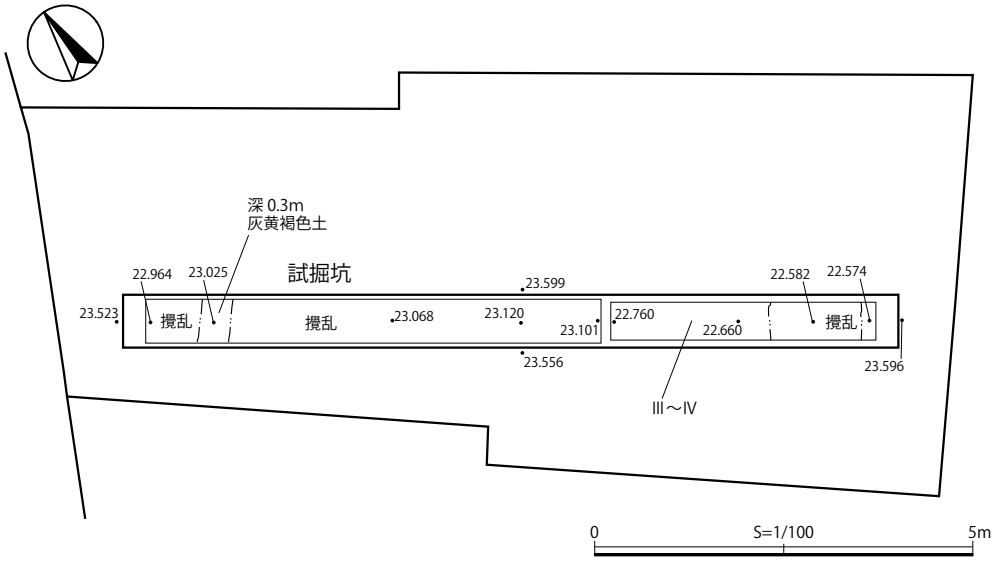
第25図　上中里2-10地点　試掘坑2、3断面図

試掘坑１全景（北から）

試掘坑２全景（北から）

試掘坑３全景（北から）

図版 17　上中里 2-10 地点

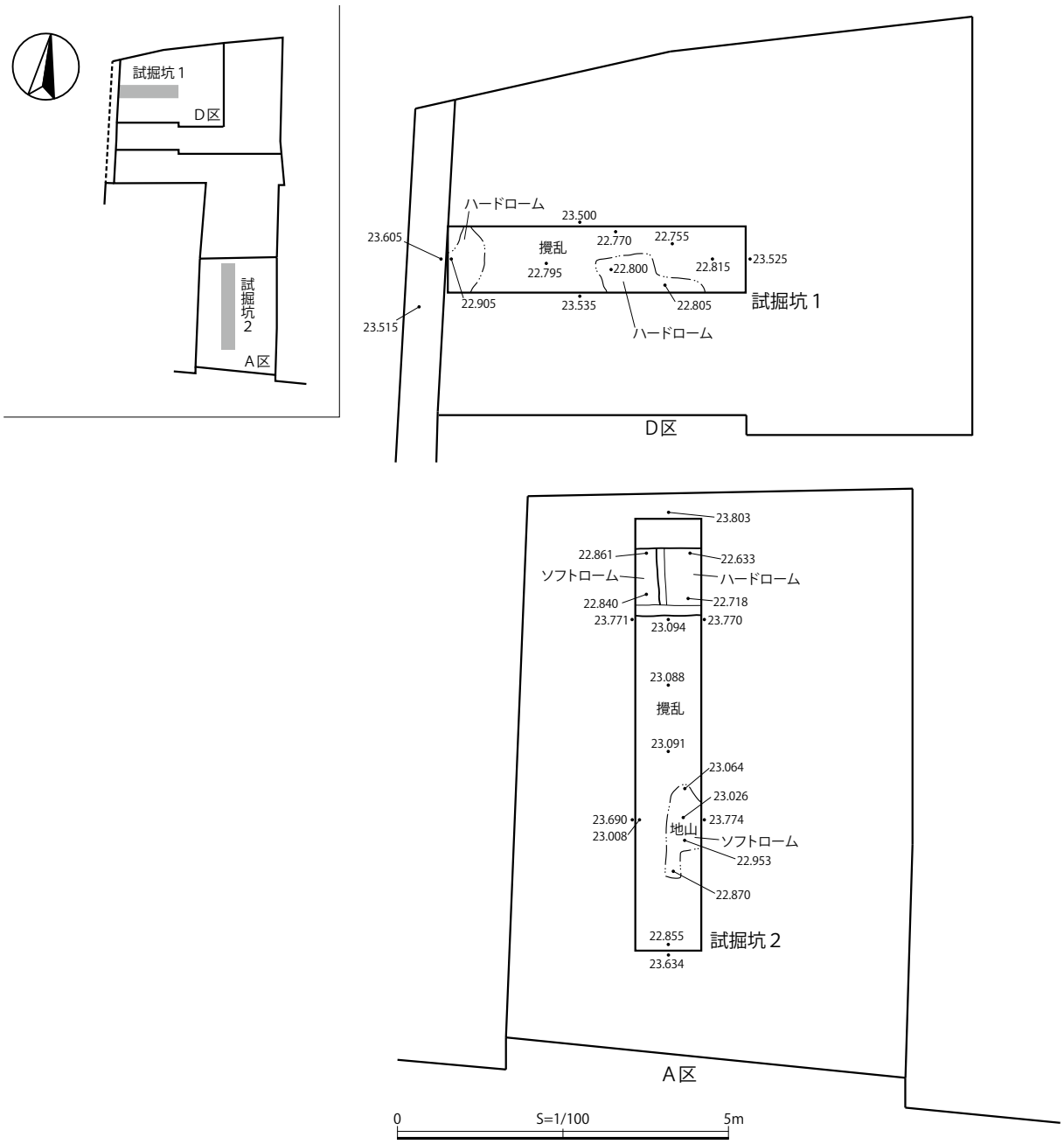


第 26 図　田端 6-4-7 地点　調査平面図

試掘坑全景（北西から）

試掘坑全景（南東から）

図版 18　田端 6-4-7 地点

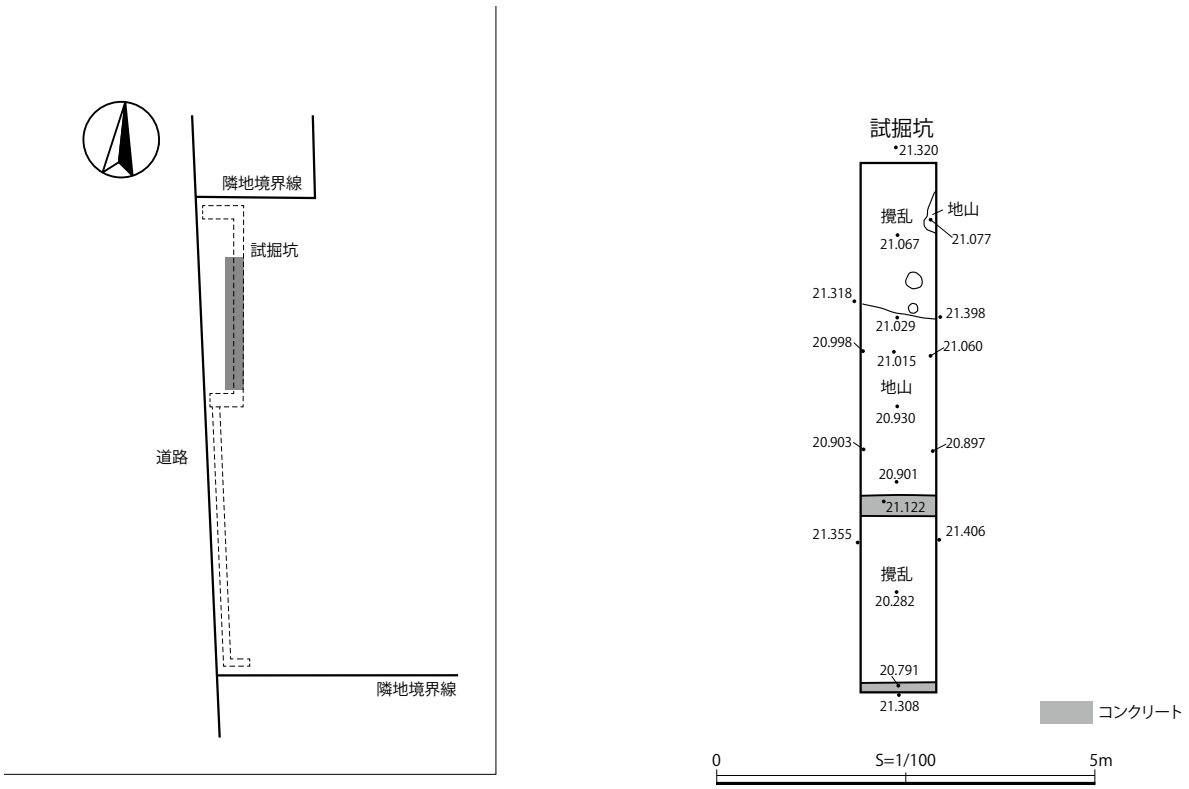


第 27 図　上中里 1-38 地点　調査平面図

試掘坑 1 全景（東から）

試掘坑 2 全景（南から）

図版 19　上中里 1-38 地点

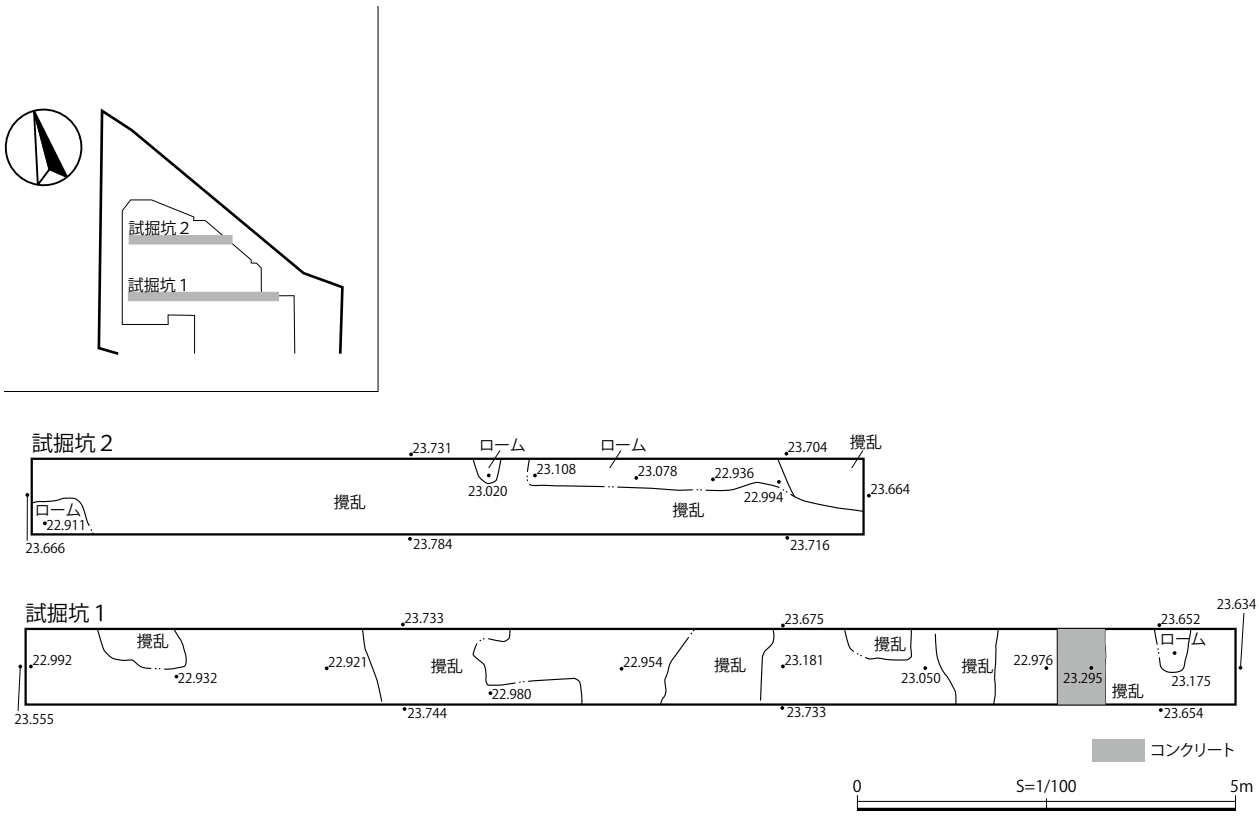


第 28 図　中十条 3-27-10 地点　調査平面図

試掘坑全景（北から）

試掘坑全景（南から）

図版 20　中十条 3-27-10 地点

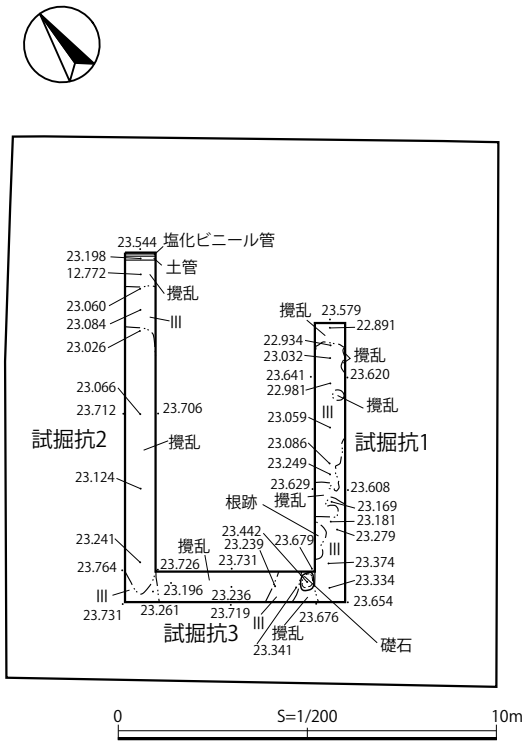


第 29 図　王子本町 1-26 地点　調査平面図

試掘坑１全景（東から）

試掘坑２全景（西から）

図版 21　王子本町 1-26 地点



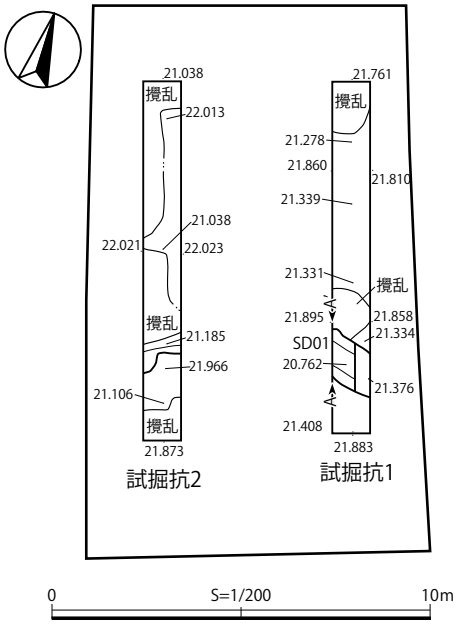
第 30 図　田端 1-22-2 地点　調査平面図

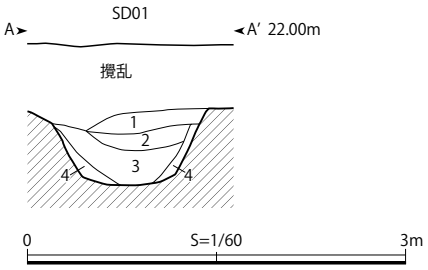
試掘抗 1 全景（北東から）

試掘抗 2 全景（南西から）

試掘抗 3 全景（南東から）

図版 22　田端 1-22-2 地点





SD01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土 (7.5YR2/2)	弱い	弱い	ローム粒（φ１～２㎜）を少量含む。
2	灰褐色土 (7.5YR4/2)	弱い	弱い	ローム粒（φ２～３㎜）を少量含む。
3	灰褐色土 (7.5YR4/2)	やや弱い	やや弱い	ローム粒（φ３～５㎜）を少量含む。
4	にぶい褐色土 (7.5YR5/3)	やや弱い	やや弱い	ロームブロック（φ５～10㎜）を中量含む。

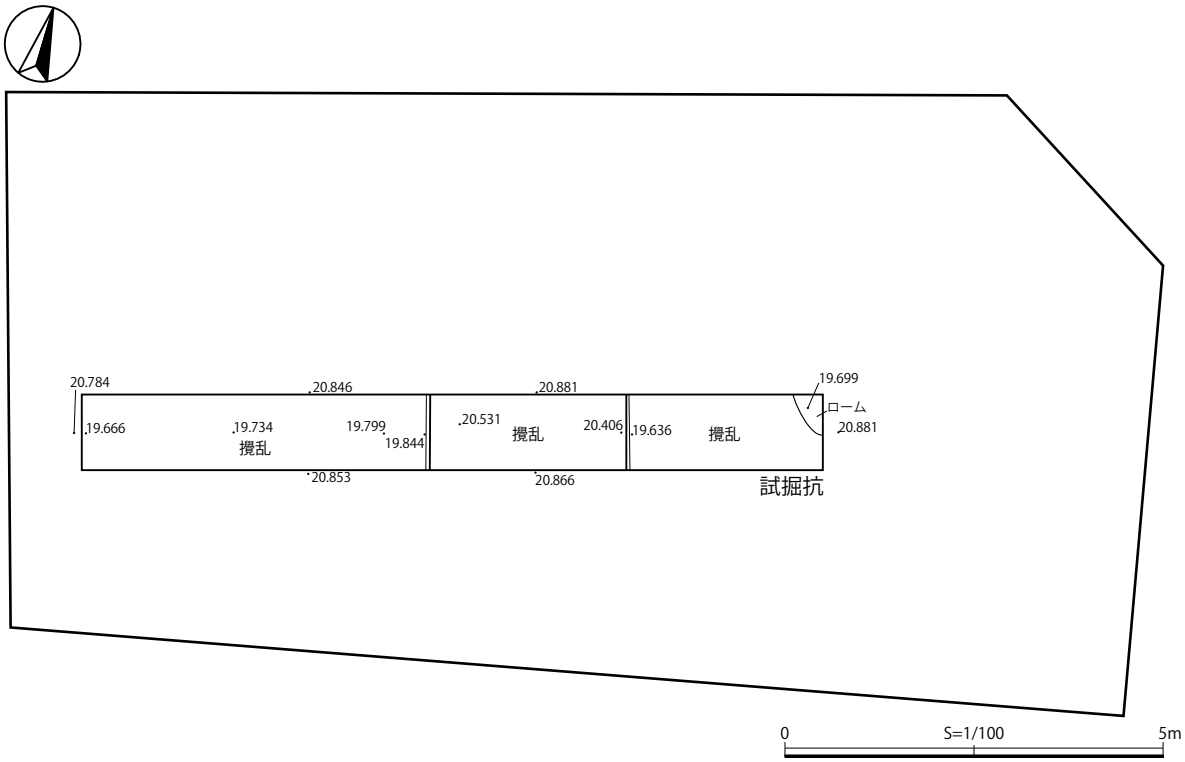
第 31 図　中十条 3-3-18 地点　調査平面図

試掘坑１全景（北から）

SD01 全景（南東から）

試掘坑２全景（南から）

図版 23　中十条 3-3-18 地点



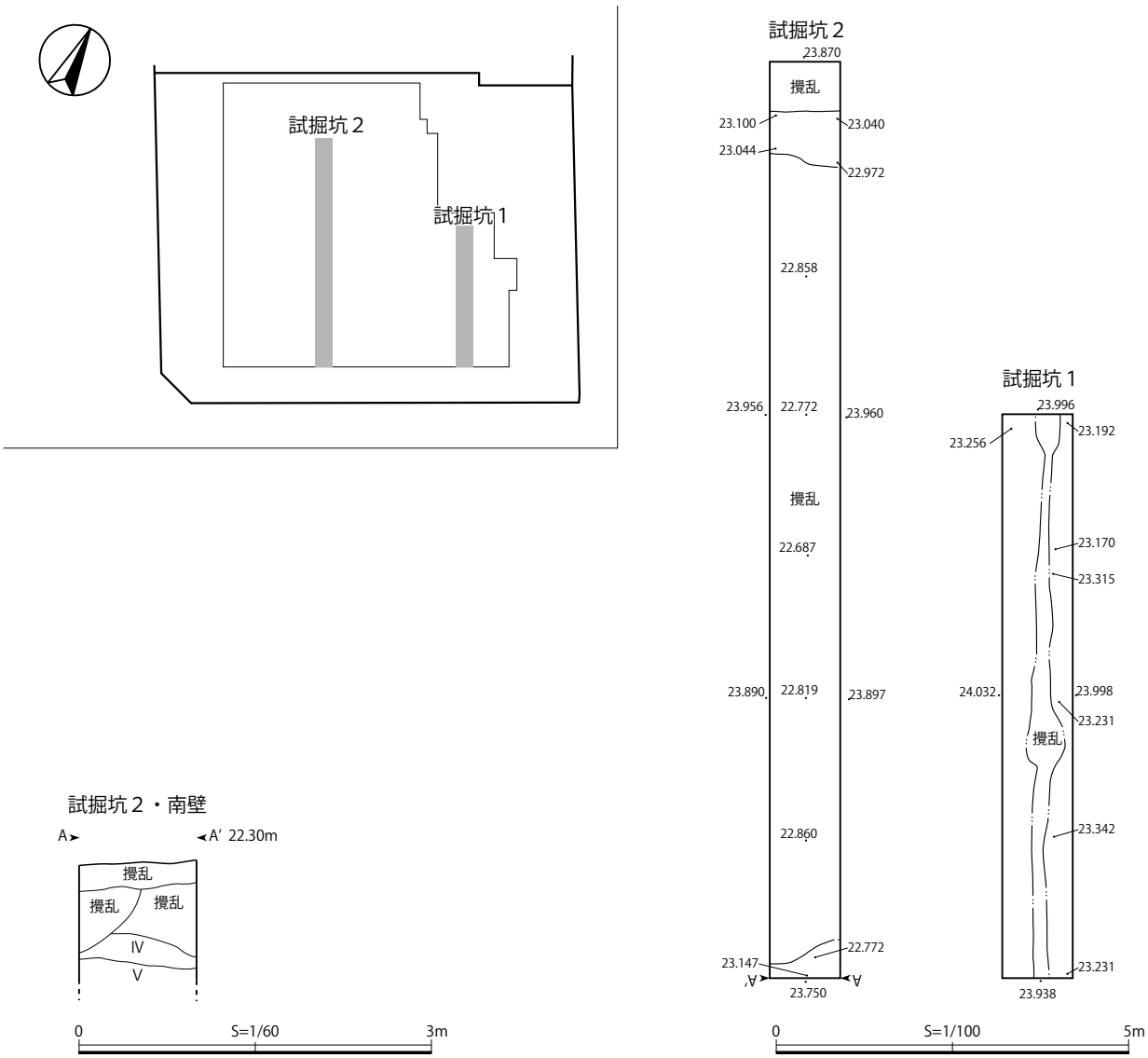
第 32 図　王子本町 1-21-7 地点　調査平面図

試掘坑全景（西から）

試掘坑東端土層堆積状況（西から）

試掘坑西端土層堆積状況（南から）

図版 24　王子本町 1-21-7 地点



試掘坑２・南壁

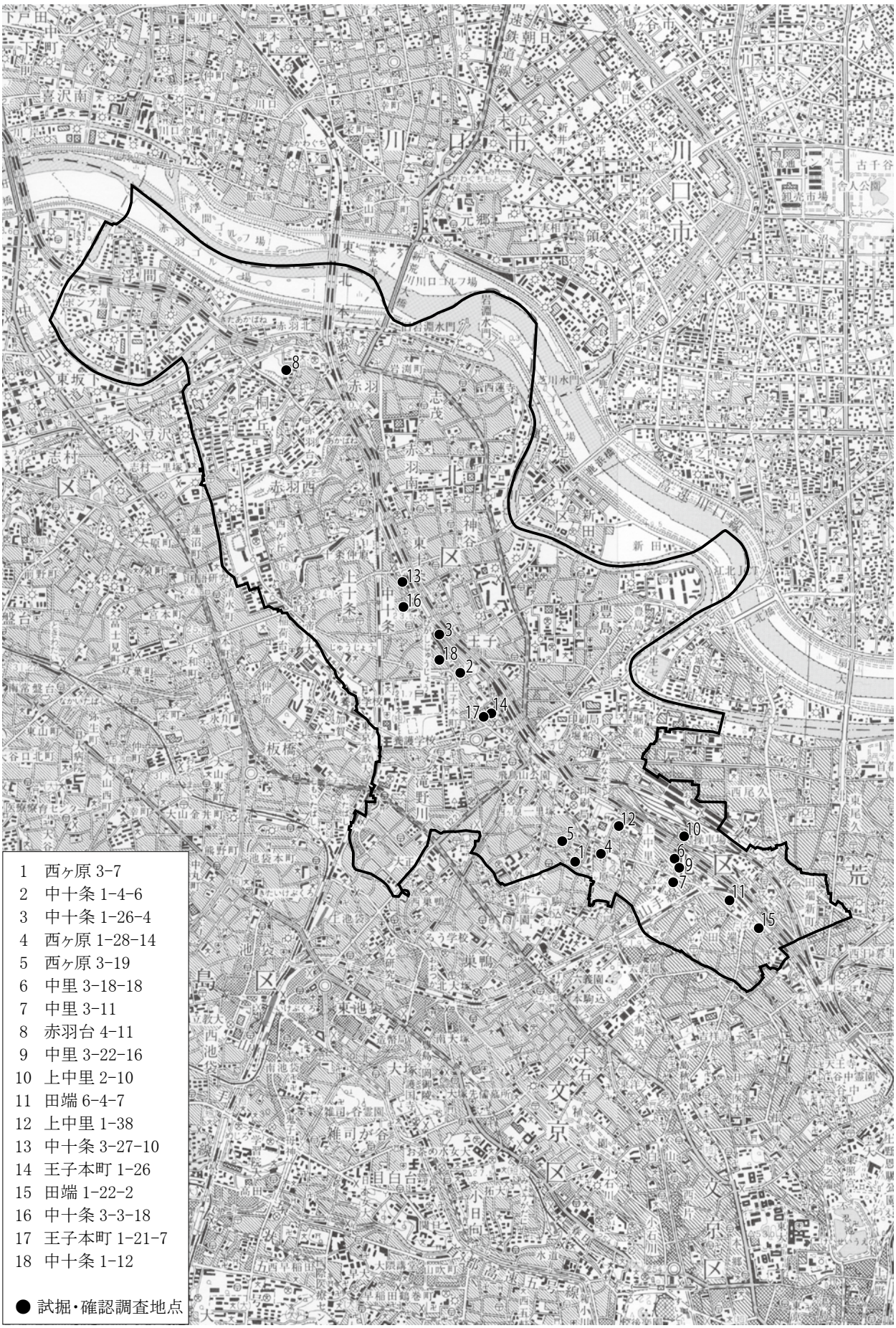
	土色	混入物・備考
Ⅳ	明黄褐色土 (10YR6/6)	黒色スコリア（φ～２㎜）を中量、赤色スコリア（φ～0.5㎜）を少量含む。
Ⅴ	褐色土 (10YR4/4)	黒色スコリア（φ～１㎜）を少量、赤色スコリア（φ～0.5㎜）を微量含む。

第 33 図　中十条 1-12 地点　調査平面図

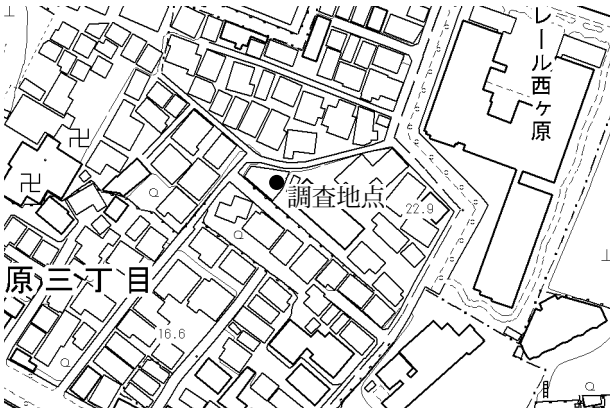
試掘坑１全景（北から）

試掘坑２全景（北から）

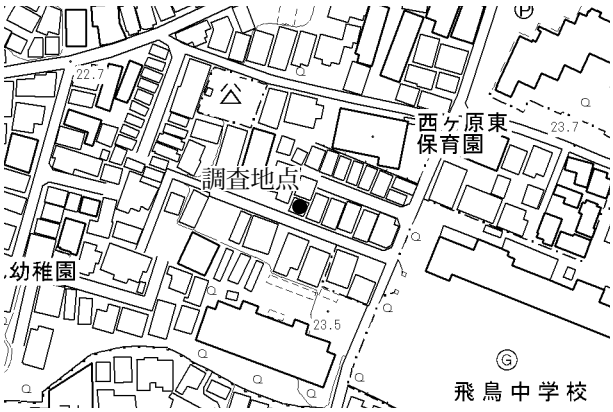
図版 25　中十条 1-12 地点



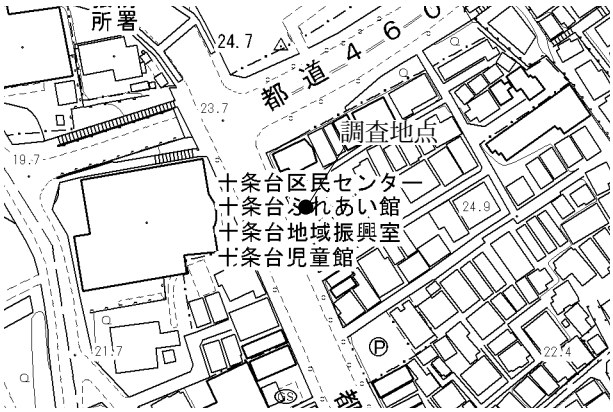
第 34 図　国庫補助金対象事業調査地点位置図（S=1/50,000）



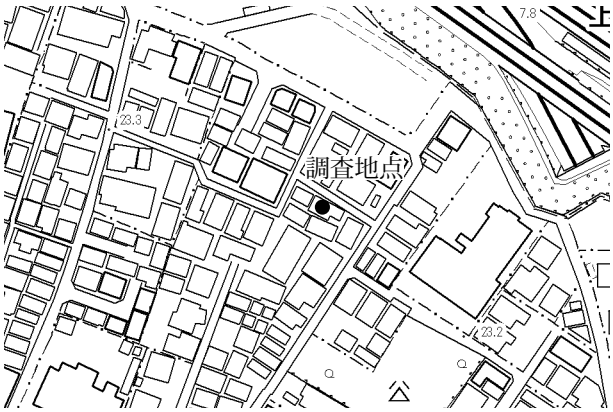
1．西ヶ原 3-7



5．西ヶ原 3-19

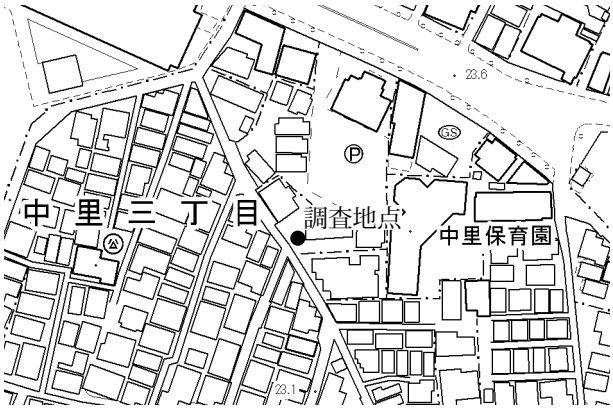


2．中十条 1-4-6

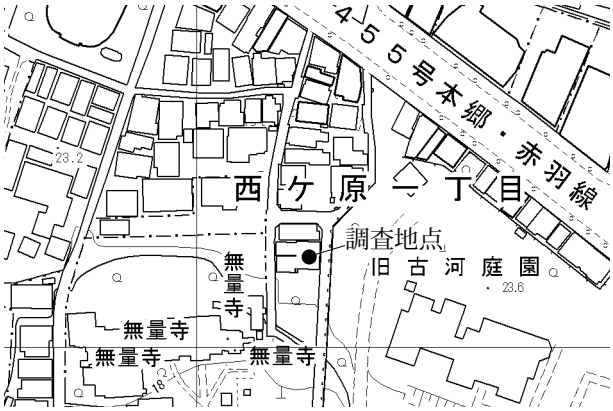


6．中里 3-18-18

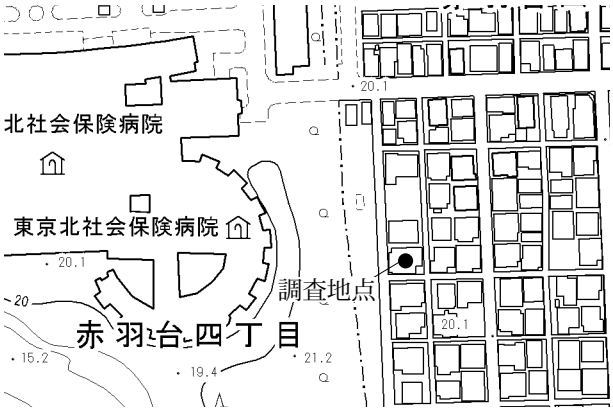
3．中十条 1-26-4



7．中里 3-11

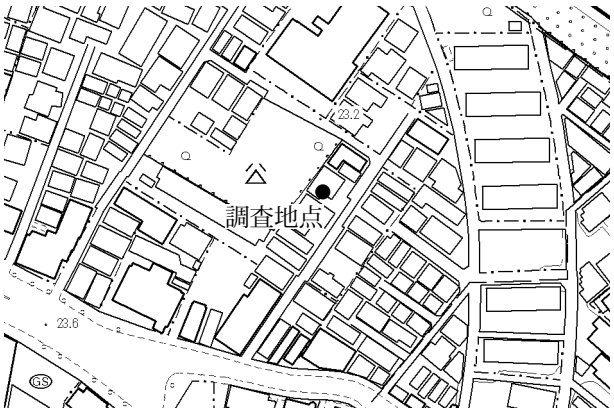


4．西ヶ原 1-28-14

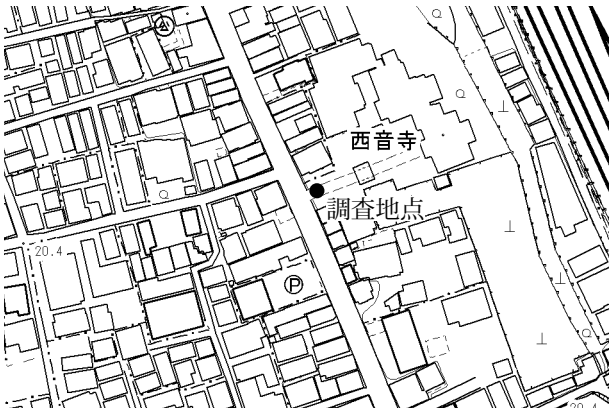


8．赤羽台 4-11

第 35 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図①（S=1/2,500）

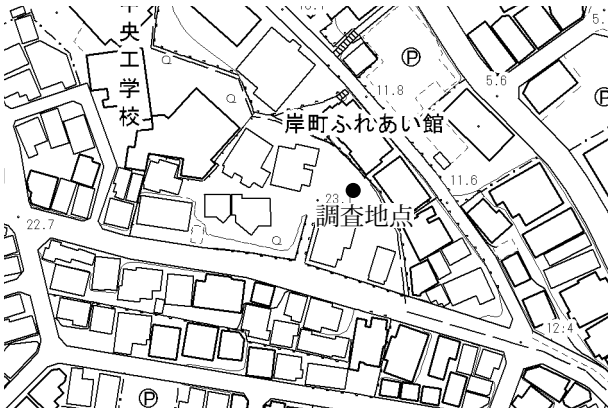


9. 中里 3-22-16



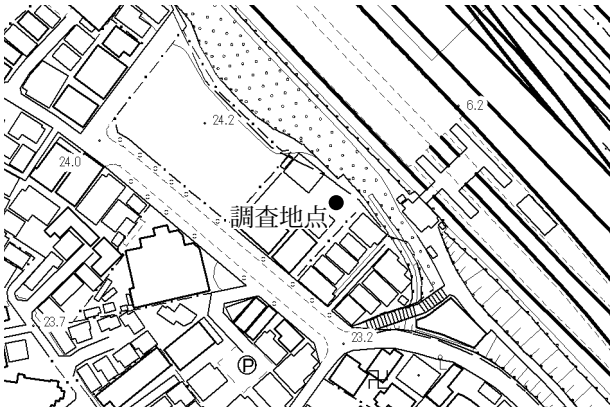
13. 中十条 3-27-10

10. 上中里 2-10

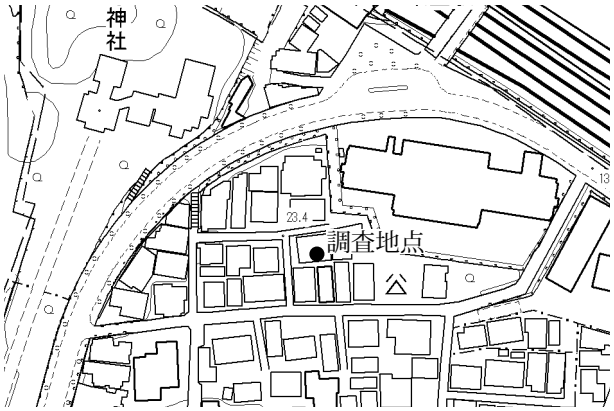


14. 王子本町 1-26

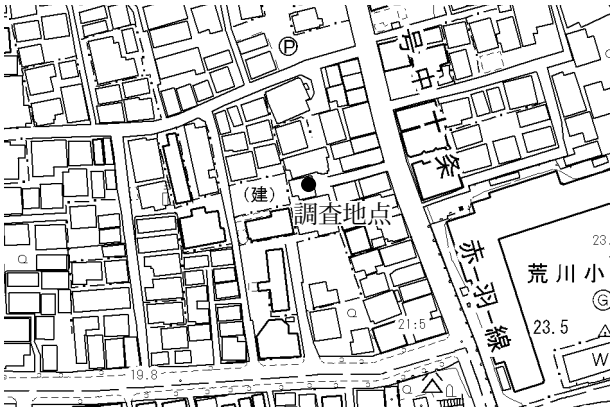
11. 田端 6-4-7



15. 田端 1-22-2

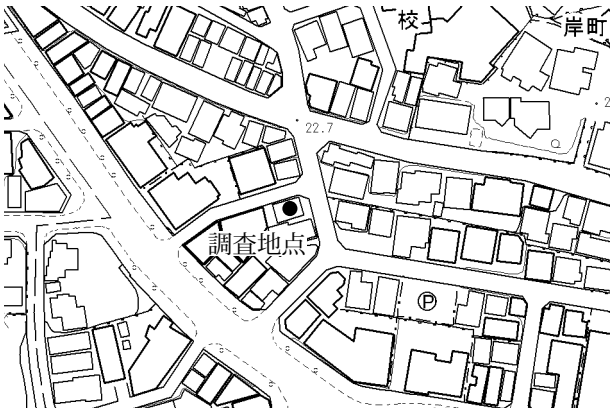


12. 上中里 1-38



16. 中十条 3-3-18

第 36 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図②（S=1/2,500）



17. 王子本町 1-21-7

18. 中十条 1-12

第 37 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図③（S=1/2,500）

十条台遺跡群　南橋遺跡
－中十条 1-4-6 地点－発掘調査報告

十条台遺跡群　南橋遺跡

－中十条 1-4-6 地点－発掘調査報告

はじめに

本調査報告は平成 30（2018）年 5 月に東京都北区中十条 1-4-6 において、北区教育委員会を調査主体者とし株式会社東京航業研究所の調査支援により実施した十条台遺跡群の発掘調査の成果をまとめたものである。なお、調査費用については、事業主である株式会社大正ビルドが負担した。

1. 調査に至る経緯

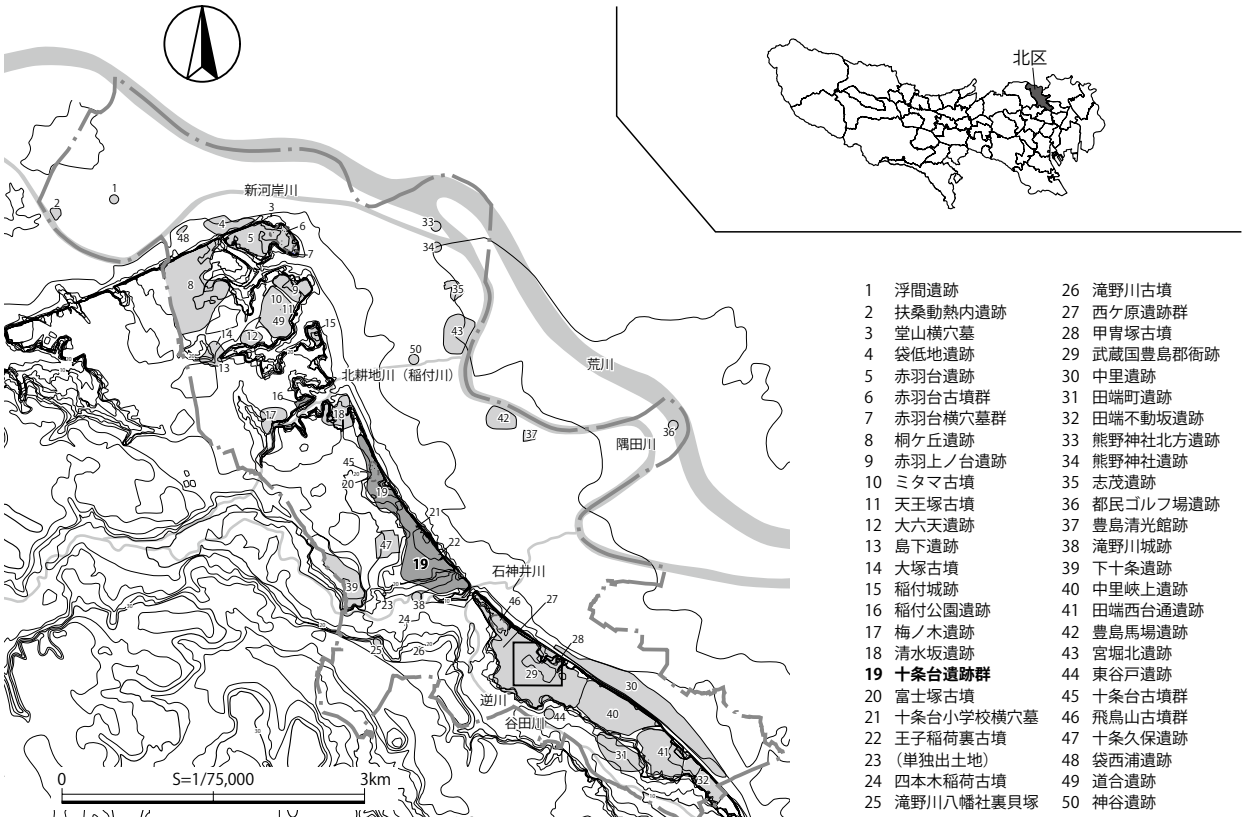
平成 30 年 4 月 12 日、建築主より、中十条 1 丁目 4 番地 6 号における集合住宅建設に伴い、文化財保護法（以下、法）第 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これに対し東京都教育委員会教育長は、同年 4 月 18 日付「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」（30 教地管理第 132 号）により、試掘調査の必要性があることを通知した。

同年 4 月 26 日に試掘調査を実施したところ、埋蔵文化財の存在が確認されたため、平成 30 年 5 月 10 日から 5 月 23 日まで北区教育委員会を調査主体者として法第 99 条に基づき本発掘調査を行った。

2. 遺跡の立地と環境（第１・２図　表１・２）

北区の地形は、北西から南東にのびる標高差 15 ～ 20 mの段丘線により画され、北東側の低地と南東側の台地の二分される。北東側の低地は東京低地と呼ばれ、荒川と旧入間川により造成された標高 1 ～ 6 mの沖積低地である。南東側の台地は多摩川により形成された武蔵野台地北東部縁辺の本郷台地にあたり、北区域での標高は 20 ～ 25 mを測る。本郷台は区内を流れる小河川によりさらに細分され、北側は赤羽台・十条台、東側は上野台と呼称される。このうち南橋遺跡が立地する十条台は、北東に東京低地を見下ろす断崖、南西・南東を石神井川、北西を北耕地川（稲付川）に囲まれた長さ約 2 ㎞、幅約 1.2 ㎞の小台地である。南橋遺跡はこの小台地上に点在する宿遺跡や亀山遺跡などとともに十条台遺跡群を構成している。

南橋遺跡は、これまでに 36 地点の調査が行われ、今回の調査は 37 地点目に当たる。既存の調査では弥生時代～古墳時代前期の竪穴住居跡 130 件以上、方形周溝墓 18 基、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡 30 軒以上が確認されている。こうした時期別の遺構数からも伺えるように当該遺跡は弥生時代～古墳時代前期を中心とした大集落跡である。



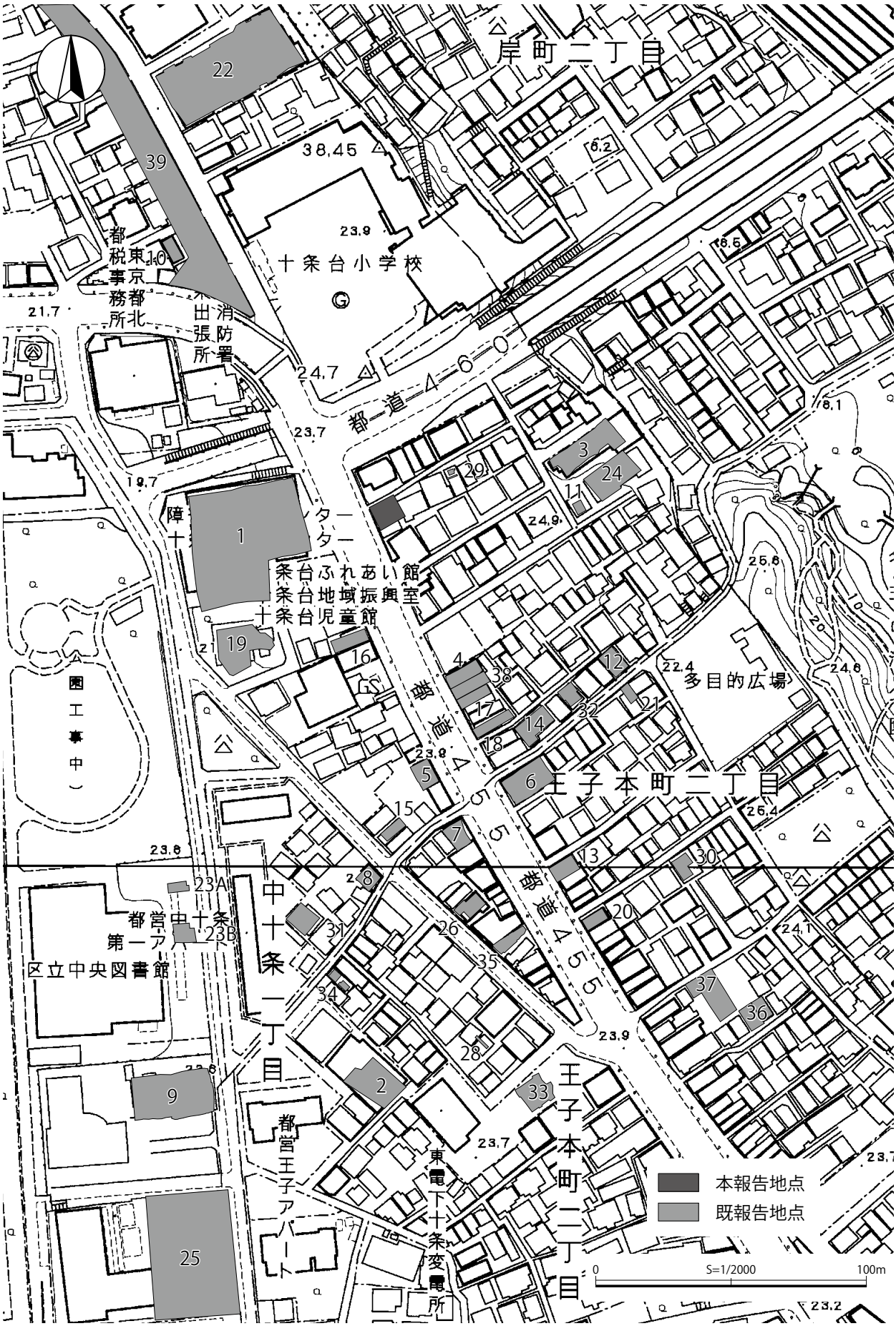
第１図　北区の地形図

地点	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考
1	中十条 1-2-18	南橋遺跡	昭和 62 年	－	住居跡 31、方形周溝墓 2	－	時期不明溝 1、土坑 1
2	王子本町 2-11-6	文化財研究紀要第３集	平成元年	－	住居跡 7、方形周溝墓 2	住居跡 2	時期不明土坑 5
3	中十条 1-3-17	南橋遺跡Ⅱ	平成８年	－	住居跡 5、方形周溝墓 1	－	時期不明溝３・近世土坑 26・性格不明遺構２
4	中十条 1-3-10	南橋遺跡Ⅱ	平成８年	－	住居跡 5	住居跡 3	時期不明溝 1
5	中十条 1-2-1	南橋遺跡Ⅱ	平成８年	－	住居跡 9	住居跡 1	時期不明土坑 1
6	王子本町 2-8-8	南橋遺跡Ⅱ	平成８年	－	住居跡 8	住居跡 3	時期不明住居跡 2、土坑 1
7	王子本町 2-9-9	南橋遺跡Ⅱ	平成８年	－	住居跡 2	－	時期不明土坑 2、小穴 2
8	中十条 1-1-22	南橋遺跡Ⅱ	平成８年	－	住居跡 1	住居跡 2	時期不明溝 1
9	十条台 1-3-16	南橋遺跡Ⅱ	平成８年	－	住居跡 2	住居跡 2	道路状遺構 1
10	中十条 1-6-3	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 3	住居跡 1	－
11	中十条 1-3-17	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 1、溝 1	住居跡 1	－
12	中十条 1-3-4	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 4	－	時期不明土坑 1
13	王子本町 2-8-6	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 1	住居跡 6	近世溝 1
14	中十条 1-3-6	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 9、土坑 1	溝 1	近世溝 1、性格不明遺構 1
15	中十条 1-2-2	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 2	－	－

表１　南橋遺跡調査地点一覧表

地点	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考
16	中十条 1-2-22	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 2	－	－
17	中十条 1-3-9	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 2	－	－
18	中十条 1-3-8	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 2	住居跡 2	近世溝 3
19	中十条 1-2-18	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 3、方形周溝墓 3	－	近世溝 2
20	王子本町 2-5-8	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 1	住居跡 1	－
21	王子本町 2-8-12	南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ	平成 15 年	－	住居跡 2	住居跡 1	時期不明土坑 2、小穴 2
22	中十条 1-13	南橋遺跡Ⅳ	平成 16 年	－	住居跡 9、方形周溝墓 10	－	時期不明溝 1・土坑 8・性格不明遺構 2
23	十条台 1-2-5	文化財研究紀要第 18 集	平成 17 年	－	住居跡 7、小穴 1	住居跡 2	時期不明土坑 2、小穴 1
24	中十条 1-3-17	文化財研究紀要第 19 集	平成 18 年	－	住居跡 2	溝 3	近世溝 3、小穴 1
25	十条台 1-3-20	十条台遺跡群南橋遺跡	平成 18 年	－	住居跡 2	住居跡 1	－
26	王子本町 2-9-5	文化財研究紀要第 23 集	平成 22 年	－	住居跡 1（弥生後）	－	ピット 2
27	中十条 1-3	文化財研究紀要第 23 集	平成 22 年	－	住居跡 7（弥生後 5、古墳前 2）	住居跡 3（平安）、掘立柱建物 2（平安）	ピット 2。住居跡 8 軒はプラン確認のみ
28	王子本町 2-14-12	北区埋蔵文化財調査年報－平成 22 年度－	平成 24 年	－	－	－	時期不明溝 1
29	中十条 1-4-6	北区埋蔵文化財調査年報－平成 22 年度－	平成 24 年	－	住居跡 1（弥生後）、土坑 1（古墳前以降）	－	－
30	王子本町 2-5-14	北区埋蔵文化財調査年報－平成 25 年度－	平成 27 年	－	住居跡 2（弥生後）	住居跡 1（平安）	溝 2（近世）
31	中十条 1-1-2	北区埋蔵文化財調査年報－平成 25 年度－	平成 27 年	－	住居跡 2（弥生後、弥生後～古墳初）	住居跡 2（奈良）、土坑 3（奈良、平安、奈良・平安）	－
32	中十条 1-3-4	北区埋蔵文化財調査年報－平成 25 年度－	平成 27 年	－	住居跡 5（弥生後 3、弥生後～古墳初 1、古墳初 1）	－	溝 1（近世）、ピット
33	王子本町 2-14	北区埋蔵文化財調査年報－平成 26 年度－	平成 28 年	－	方形周溝墓 1（弥生後）	住居跡 1（平安）、掘立柱建物跡 1（平安）、土坑 2（奈良・平安）	溝 3
34	王子本町 2-11-4	北区埋蔵文化財調査年報－平成 26 年度－	平成 28 年	－	住居跡 2（弥生後）	－	－
35	王子本町 2-9	北区埋蔵文化財調査年報－平成 26 年度－	平成 28 年	－	住居跡 1（弥生後）	住居跡 2（平安）	性格不明遺構 1、ピット
36	王子本町 2-4-9	北区埋蔵文化財調査年報－平成 27 年度－	平成 29 年	－	住居 3（弥生後 2、弥生末～古墳初）、性格不明遺構 1	住居 1（平安）、ピット	
37	王子本町 2-4	東京都北区　十条台遺跡群　南橋遺跡発掘調査報告書－王子本町 2-4 地点－	平成 28 年	－	住居跡 5	住居跡 1 、掘立柱建物跡 1	－
38	中十条 1-3-10	北区埋蔵文化財調査年報－平成 28 年度－	平成 29 年	－	住居 5（弥生後、弥生末～古墳初 1）、性格不明遺構 1（弥生末）	住居 2（奈良 1、奈良・平安 1）	ピット 4
39	中十条 1・2 丁目	北区十条台遺跡群－十条地区沿道一体整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－	平成 30 年	－	住居跡 10、竪穴状遺構 3、土坑 1、柱穴 20、方形周溝墓 1、溝跡 2	－	1A・1B 区のみ記載
40	中十条 1-3-19	北区埋蔵文化財調査年報－平成 29 年度－	平成 31 年	－	－	－	溝 2（古墳時代中期の区画溝に関連する可能性あり）
41	中十条 1-4-6	北区埋蔵文化財調査年報－平成 30 年度－	本報告	－	住居跡 1、方形周溝墓 1		土坑 2
42	王子本町 2-10	東京都北区　十条台遺跡群　南橋遺跡－王子本町 2-10 地点－発掘調査報告	令和元年	－	住居跡 4、方形周溝墓 1	住居跡 5	溝 6、土坑 2、ピット 29

表２　南橋遺跡調査地点一覧表



第２図　遺跡及び調査地点位置図

3. 調査の経過と概要

調査期間は平成30年5月10日～23日、調査面積は56.93㎡である。5月10日に発掘機材と重機の搬入、残土処理の関係から、調査区を２分割し、調査区北側の表土掘削を開始した。調査区北側の埋め戻しと南側の表土掘削を５月 17 日、調査区南側の埋め戻し及び重機、機材の搬出を５月 23 日に実施した。遺構確認面は現況地表面から約 0.4 m下の立川ローム第Ⅲ層であるが一部で漸移層が確認された。

遺構は竪穴住居跡１軒、方形周溝墓の周溝と推定される溝１条、土坑２基を調査した。遺物は弥生土器（壷、甕、高坏）、土師器（坏）が出土した。

4. 遺構と遺物

【SI01】

遺構（第４図　図版２）

重複関係：SD01 に切られる。**平面形：**小判型を呈する。**規模：**主軸検出長 4.70 m、主軸直交検出長 2.60 m、確認面から床面までの深さは 0.22 mである。**主軸方位：**Ｎ－ 30°－Ｅ。**覆土：**暗褐色土で構成され、4 層に細別される。**床：**貼床。ロームを主体とする暗褐色土で構築され、住居跡中央部で良好に遺存する。**壁溝：**確認されなかった。**土坑：**1 基が検出され、住居の南東壁に接して築かれている。主軸検出長 0.78 m、主軸直交検出長 0.62 m、床面からの深さは 0.28 m。貯蔵穴の可能性が考えられる。

遺物（第６図　図版３）

出土状況：弥生土器の壷の小片が散漫な状況で出土した。**土器：**1 は壷、2 は甕で共に弥生土器である。

時期：弥生時代後期後半と推定される。

【SD01】

遺構（第５図　図版１・２）

重複関係：SI01 を切る。**平面形：**Ｌ字状。**規模：**東西方向に 2.50 m、南北方向に 4 mである。溝幅は約 1.30 mで、深さ 0.70 m。箱堀状を呈する。**覆土：**黒褐色土と暗褐色土を主体とし、４層に分けられる。

遺物（第６図　図版３）

出土状況：調査範囲の東端より壷が、溝の屈曲部付近で高坏などがまとまって出土した。**土器：**３は高坏脚部で３孔の透穴を有し外面は丁寧にミガキが施される。４は壷で内外面共にハケ調整後ミガキが施される。５は赤彩される鉢である。６～９は壷でいずれも赤彩される。10 ～ 13 は甕である。10・13 は口縁部に木口状工具によるキザミを加える。12 は外面に指頭痕を残す。14 は台付甕の台部である。

時期：弥生時代後期終末と推定される。

備考：当該遺構は、溝の形状、また遺物の出土状況から方形周溝墓の周溝と考えられる。確認された範囲での溝の規模、主体部が検出されなかった点から、全体の規模は 10 m以上の比較的規模の大きなものであったと推定される。

【SK01】

遺構（第４図）

重複関係：SD01 を切る。**平面形：**楕円形。**規模：**主軸検出長 0.42 m、主軸直交検出長 0.34 m以上、確認面からの深さは 0.15 mである。**主軸方位：**Ｎ－ 52°－W。**覆土：**黒褐色土の単一層である。

遺物：出土しなかった。

時期：遺物が出土していないため不明だが、SD01 に後続する。

【SK02】

遺構（第４図）

重複関係：なし。**平面形：**水滴状。**規模：**主軸検出長 0.78 m、主軸直交検出長 0.39 m以上、確認面からの深さは 0.20 mである。**主軸方位：**Ｎ－ 60°－Ｗ。**覆土：**3 層に別れ、層中には焼土が多量に含まれる。

遺物：出土しなかった。

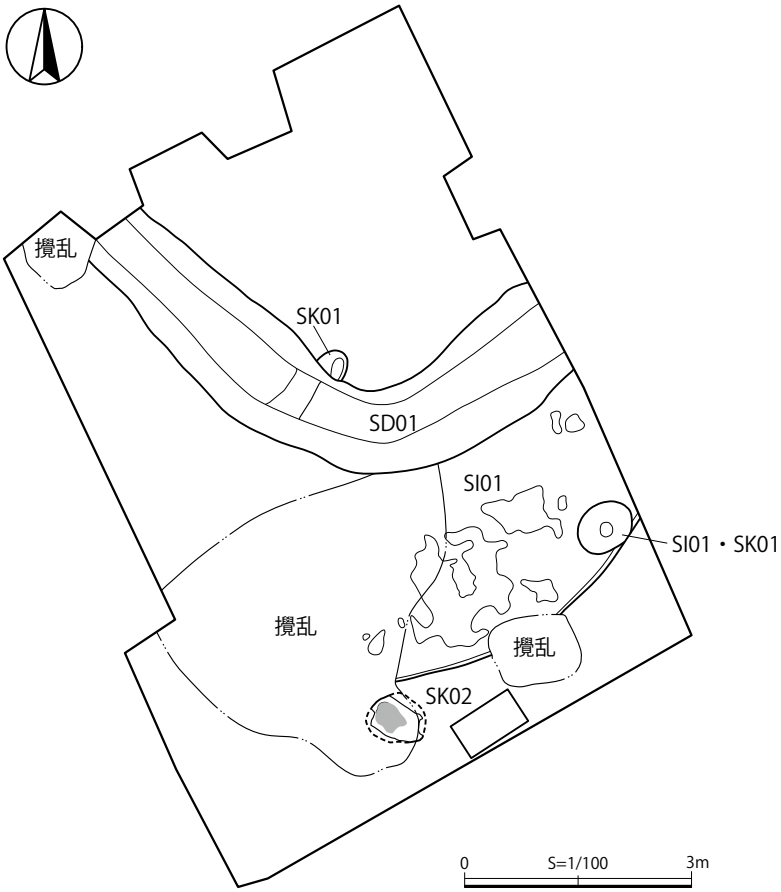
時期：遺物が出土していないため不明。

備考：土坑底面は南東側に緩やかに高まり、被熱によるローム土の変質硬化が認められるため、帰属する遺構がないものの炉跡またはカマドであった可能性がある。

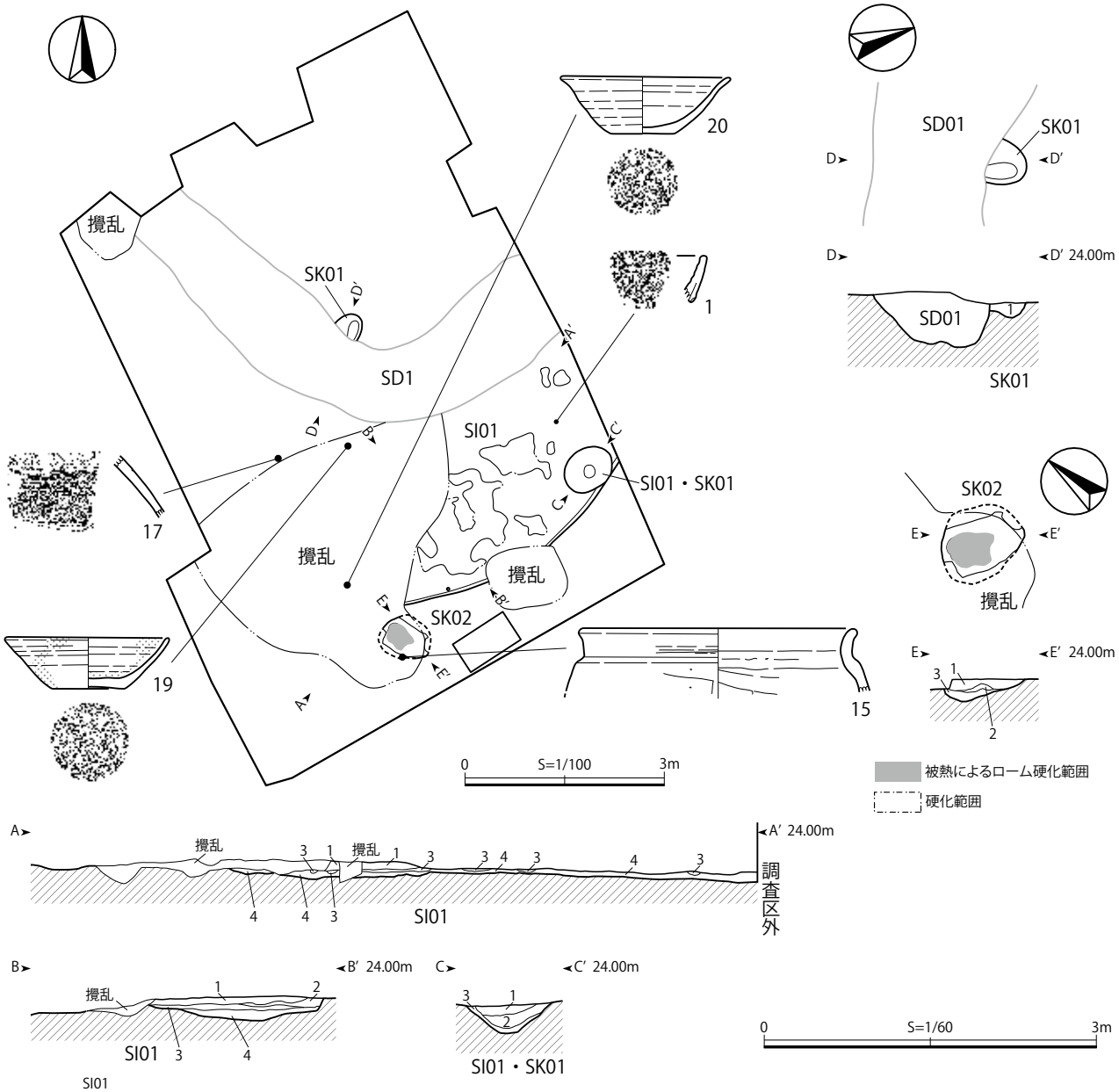
【遺構外】

遺物（第７図　図版３）

出土状況：いずれも攪乱の範囲内からの出土であるが、SK02 周辺に集まる。**土器：**15 は弥生土器の壷で無文部に非常に強いミガキが施される。16・17 は土師器甕で、古墳時代後期の所産である。18・19 はロクロ整形による土師器坏で、このうち 18 は高台を有する。



第３図　中十条 1-4-6 地点　全体図



SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（7.5YR3/4）	ややあり	ややあり	ローム粒子（φ0.5～1mm）を全体的に微量含む。
2	暗褐色土（7.5YR3/4）	ややあり	あり	ローム粒（φ1～2mm）を全体的、斑文状のローム土（10YR4/6）を少量含む。
3	暗褐色土（10YR3/4）	あり	ややあり	ローム粒（φ1～2mm）、ロームブロック（φ5～10mm）を全体的にに中量含む。（硬化面）
4	暗褐色土（10YR3/4）	ややあり	あり	3 層（硬化面）と内容物は同一。硬化面との差はしまりの強弱である。荒堀り後整地し表面を硬化させ床面を構築したか。

SI01・SK01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR3/2）	僅かにあり	あり	ローム粒（φ0.5mm）を全体的に微量含む。
2	極暗褐色土（7.5YR2/3）	ややあり	あり	ローム粒（φ0.5mm）を全体的に微量含む。
3	暗褐色土（10YR3/4）	あり	あり	ローム粒（φ1～2mm）、斑文状のローム土（10YR4/6）を全体的に中量含む。

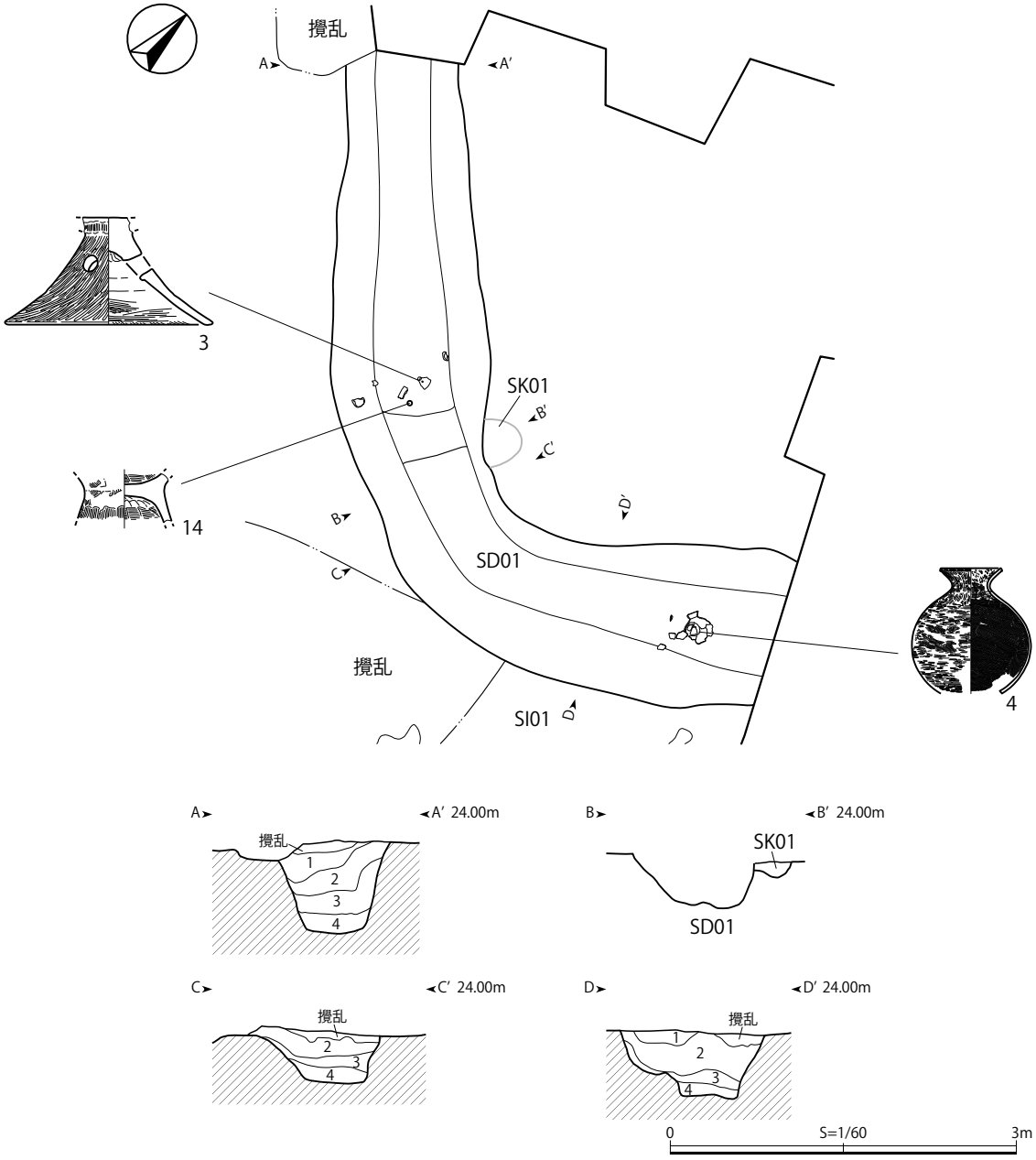
SK01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR3/2）	ややあり	ややあり	ローム粒（φ0.5～2mm）を全体的に少微量含む。

SK02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（7.5YR3/2）	ややあり	ややあり	斑文状の焼土が全体的に多量に混入。焼土ブロック（φ5mm）を全体的に中量含む。
2	暗褐色土（7.5YR3/4）	なし	僅かにあり	焼土粒を主体とする。色調は暗い。焼土粒の径は（φ0.5～1mm）。
3	褐色土（10YR4/4）	なし	なし	ロームを主体とする。被熱されボソボソと崩れる。

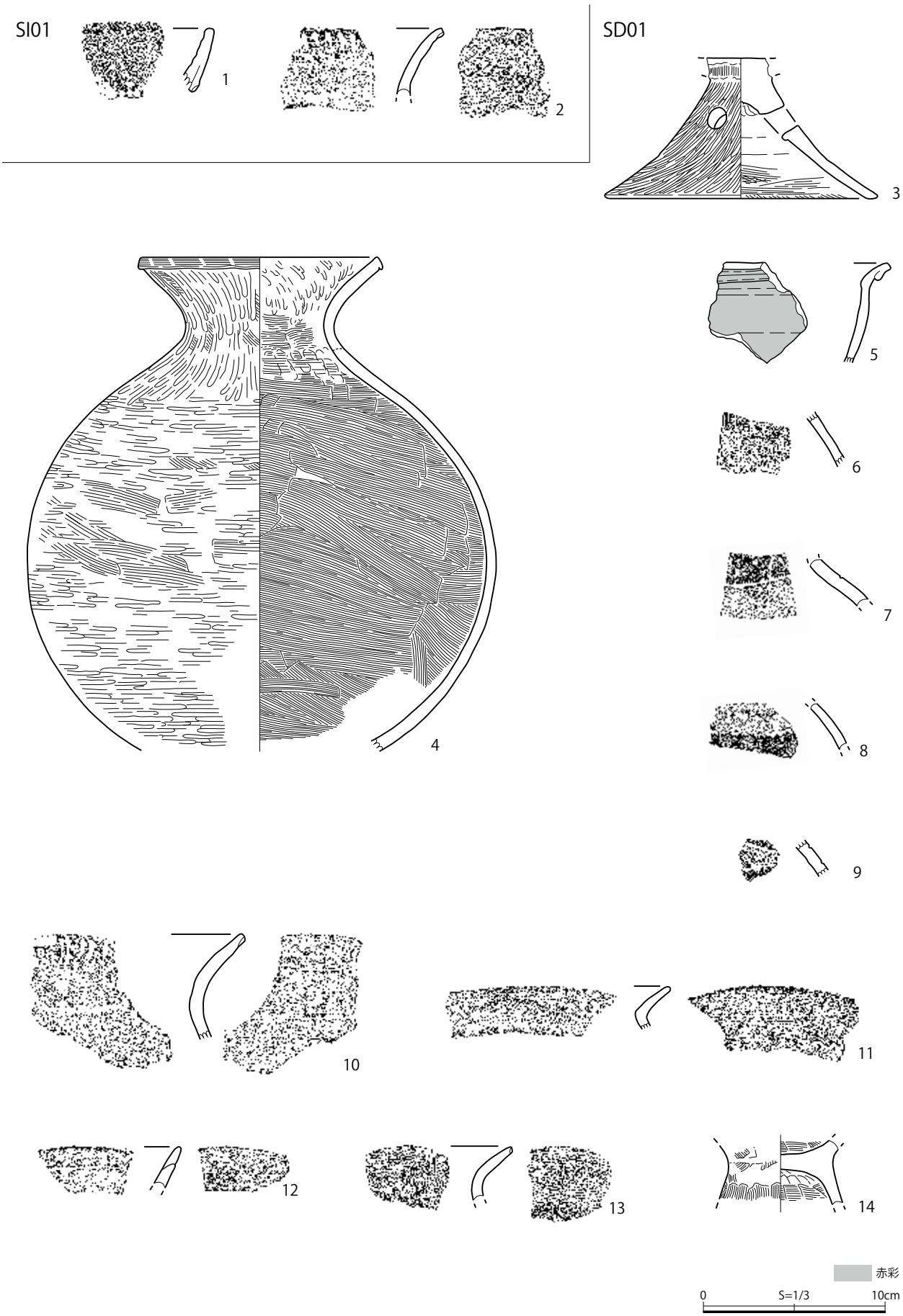
第４図　中十条 1-4-6 地点　SI01、SK01・02 平・断面図



SD01

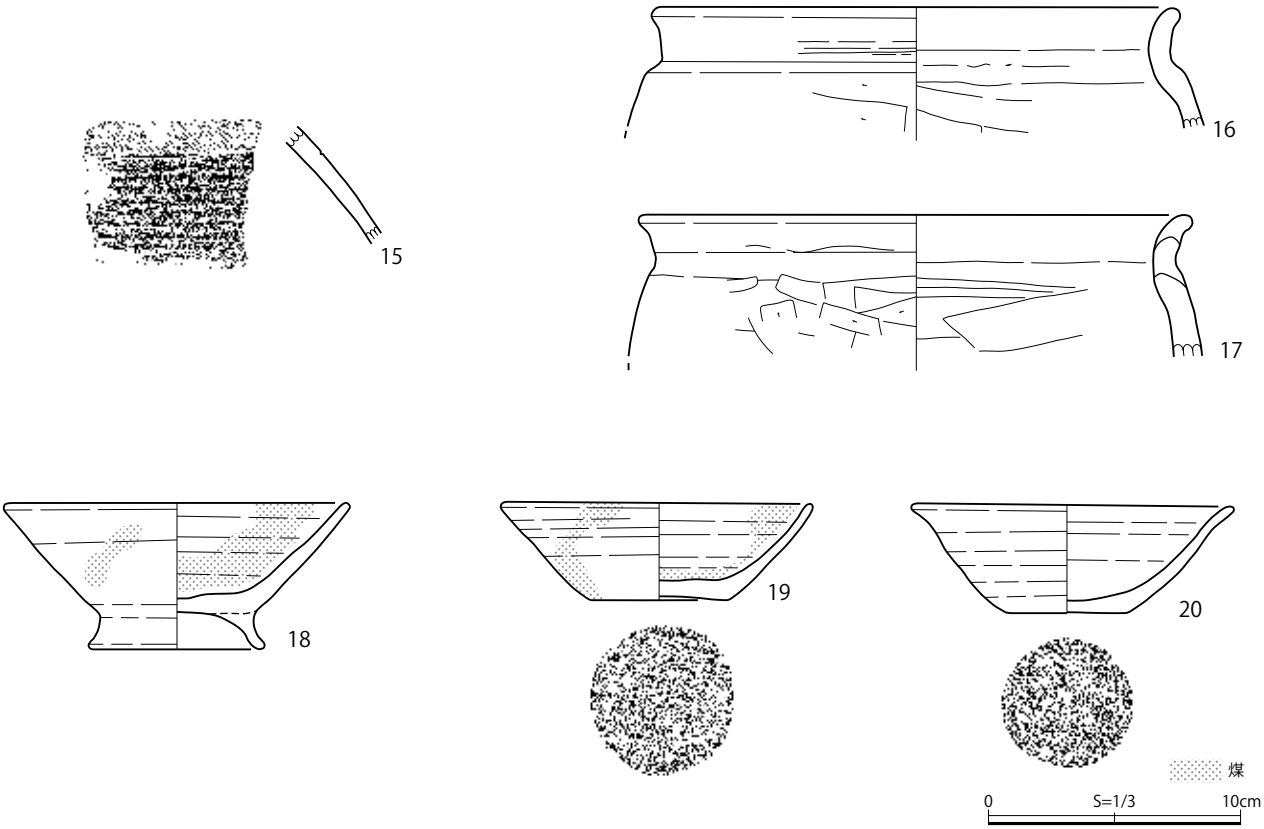
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR2/3）	あり	あり	ローム粒（φ～2mm）、焼土粒（φ～1mm）を全体的に微量含む。
2	黒褐色土（10YR3/2）	あり	あり	ローム粒（φ1～2mm）を全体的に中量、焼土粒（φ0.5～2mm）を全体的に微量含む。
3	暗褐色土（10YR3/3）	ややあり	あり	ロームブロック（φ10～50mm）、ローム粒（φ1～2mm）を全体的に、斑文状のローム土（10YR4/4）を少量含む。
4	褐色土（10YR4/4）	あり	あり	ロームブロック主体（φ50mm）。ブロック間はローム土（10YR4/4）。3 の暗褐色土が縞状に混入する。3 層との層離面はほぼ水平。

第 5 図　中十条 1-4-6 地点　SD01 平・断面図・遺物出土図



第６図　中十条 1-4-6 地点　出土遺物実測図・１

遺構外



第７図　中十条 1-4-6 地点　出土遺物実測図・２

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	法量（cm）	遺存状態	色調	胎土	焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
6-1 3-1	弥生土器 壷	SI01		口縁部破片	浅黄橙色 （7.5YR8/6）	黒色粒子・石英	良好	口唇部にＲＬ、口縁部外面に単節羽状に 1 指幅施文。下端に木口キザミを加える。内面赤彩。	
6-2 3-2	弥生土器 甕	SI01 SK01		口縁部破片	灰白色 （10YR3/2）	白色粒子・黒色粒	良好	口縁部外反。内面横ハケ、外面縦ハケ。口唇部直下外面木口キザミを加える。	
6-3 3-3	弥生土器 高坏	SD01	器高： <7.8> 底径：(15.0)	脚部 3/4	明赤褐色 （5YR5/8）	白色粒子･石英･角閃石	良好	透孔、3 孔。外面ミガキ。体部結合部にハケ痕跡遺存。	
6-4 3-4	弥生土器 壷	SD01	口径：(13.0) 器高：<27.2>	口縁部 完存 胴部 1/2"	外面にぶい橙色 （7.5YR7/4） 内断面:にぶい黄橙色 （10YR7/4）	白色粒子･長石･石英	良好	口唇部僅かに折り返し平坦に作る。胴部球胴状。外面ヨコハケ後、頸部縦位ミガキ、胴部横位ミガキ調整。内面、頸部を指押さえにより整形後横位ハケ。口縁部内面縦位ミガキ。	
6-5 3-5	弥生土器 鉢	SD01		口縁部破片	褐色 （10YR4/4）	白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石	良好	口縁部～頸部片。口縁部外反し折り返される。頸部外面から口縁部内面にかけ赤彩される。	
6-6 3-6	弥生土器 壷	SD01		胴部上半破片	にぶい黄橙色 （10YR7/4）	白色粒子・シャモット	良好	胴部片。外面は鋸歯上に LR が施文される。無文部は赤彩。	
6-7 3-7	弥生土器 壷	SD01		胴部上半破片	にぶい黄橙色 （10YR6/4）	白色粒子	良好	胴部片。中央で沈線区画され、上半は無文赤彩。下半は網目状撚糸を施文する。内面赤彩一部遺存。	
6-8 3-8	弥生土器 壷	SD01		胴部上半破片	外面：褐灰 （10YR5/1） 内断面:にぶい黄橙色 （10YR7/2）	白色粒子	良好	胴部片。外面上半無節 R の下端 S 字状結節横位。下半は無文赤彩。	
6-9 3-9	弥生土器 壷	SD01		胴部上半破片	にぶい黄橙色 （10YR6/3）	白色粒子・黒色粒子	良好	胴部片。沈線で区画され、その内側に RL 横位で施す。無文部は赤彩。	
6-10 3-10	弥生土器 甕	SD01		口縁部破片	にぶい橙色 （7.5YR6/4）	白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石・シャモット	良好	口縁部強く湾曲。口唇部平坦に作られ。木口状工具によるキザミを加える。外面縦ハケ後一部横ハケ。内面横ハケ。	
6-11 3-11	弥生土器 甕	SD01		口縁部破片	外面：褐色 （7.5YR4/3） 内断面：赤褐色 （7.5YR4/6）	白色粒子・長石・シャモット	良好	口縁部強く屈曲。内面横ハケ、外面縦ハケ後上半をナデ消す。内外面で単位が異なり、ハケ工具が異なる可能性が有る。	
6-12 3-12	弥生土器 甕	SD01		口縁部破片	外面：浅黄橙色 （7.5YR8/4） 内断面：褐灰色 （10YR4/1）	白色粒子	良好	内面横ハケ。外面に指頭根を残す。	
6-13 3-13	弥生土器 甕	SD01		口縁部破片	灰黄褐色 （10YR4/2）	白色粒子	良好	口縁部強く湾曲。口唇部平坦に作られ木口状工具によるキザミを加える。外面縦ハケ後一部横ハケ。内面横ハケ。	
6-14 3-14	弥生土器 台付甕	SD01	器高： <3.6>	台部 1/2	にぶい褐色 （7.5YR6/3）	白色粒子･長石･シャモット	良好	外面縦ハケ、内面横ハケ。	
7-15 3-15	弥生土器 壷	表土 No.2		胴部上半破片	浅黄橙色 （10YR8/3）	白色粒子	良好	胴部片。沈線で区画され RL 横位に施す。無文部は強いミガキ後赤彩。	
7-16 3-16	土師器 甕	表土	口径：(21.0) 器高： <4.8>	口縁部破片	にぶい褐色 （7.5YR6/3）	黒色粒子・角閃石	良好	口縁部～胴部片。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面横位ナデ、外面横位ヘラケズリ。胴部外面上端に強い稜ヲ有する。古墳時代後期。	
7-17 3-17	土師器 甕	表土 No.2	口径：(22.0) 器高： <5.7>	口縁部破片	にぶい橙色 （7.5YR6/4）	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	口縁部～胴部片。口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面横位ナデ、外面ランダムナヘラケズリ。古墳時代後期。	
7-18 3-18	土師器 高台付坏	表土 No.4		口縁部～高台 6/8	橙色 （5YR6/6）	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	右回転ロクロ整形。高台部貼り付け。内外面ニ黒班。9 世紀末。	
7-19 3-19	土師器 坏	表土 No.1		口縁部～底部 6/8	橙色 （5YR6/8） にぶい橙色 (7.5YR7/4)	白色粒子・黒色粒子･赤色粒子･角閃石	良好	ロクロ成形。右回転糸切り離し。内外面に黒班及び煤付着。9 世紀末。	
7-20 3-20	土師器 坏	表土 No.4		口縁部～底部 7/8	にぶい橙色 （7.5YR6/4）	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	ロクロ成形。右回転糸切り離し。口縁部外反。9 世紀末。	

表３　中十条 1-4-6 地点　遺物観察表

調査区全景（南から）

SD01C セクション（南から）

SD01 遺物出土状況（南から）

図版 1　中十条 1-4-6 地点①

SD01 完掘状況（北東から）

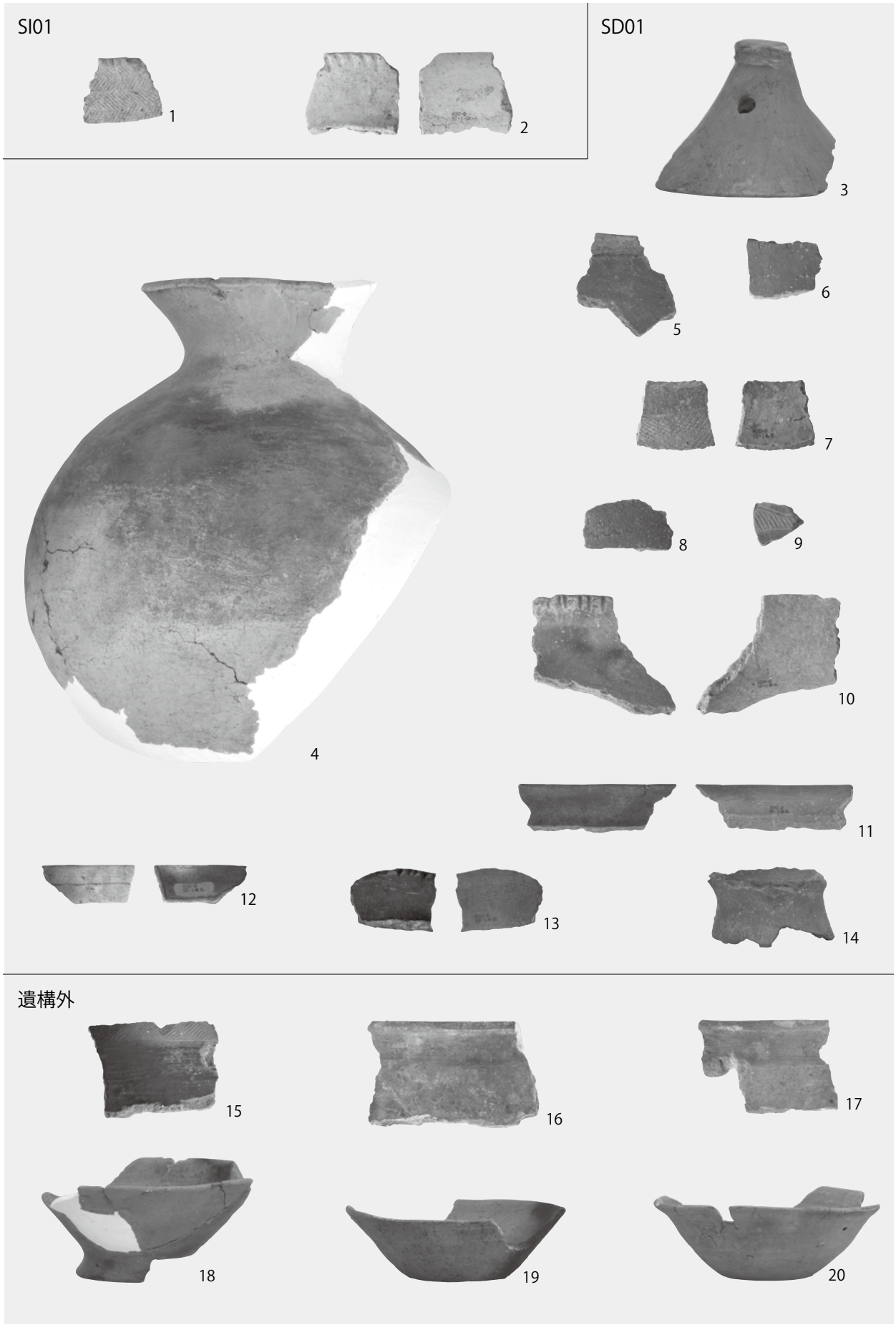
SD01 遺物出土状況①（南から）

SD01 遺物出土状況②（南から）

SI01 完掘（北から）

基本層序（北から）

図版２　中十条 1-4-6 地点②



図版 3　中十条 1-4-6 地点　出土遺物

赤羽台遺跡

－赤羽台 4-11 地点－発掘調査報告

赤羽台遺跡

－赤羽台 4-11 地点－発掘調査報告

はじめに

本調査報告は、平成 30（2018）年 10 月に東京都北区赤羽台 4 － 11 において、北区教育委員会を調査主体者とし、株式会社東京航業研究所の調査支援により実施した赤羽台遺跡の発掘調査の成果をまとめたものである。なお、調査費用については、事業主である株式会社エスケーホームが負担した。

1. 調査に至る経緯

平成 30 年 8 月 30 日付で、株式会社エスケーホームより、赤羽台 4 － 11 における分譲住宅建設計画に伴い、文化財保護法（以下、法）第 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これに対して東京都教育委員会教育長は、同年 9 月 10 日付「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」（30 教地管理第 1941 号）により試掘調査の必要性があることを通知した。

同年 9 月 28 日に試掘調査を実施したところ、遺構の存在が確認されたため、平成 30 年 10 月 15 日～22 日まで北区教育委員会を調査主体として法第 99 条に基づき本発掘調査を行った。

2. 遺跡の立地と環境（第 1 ・ 2 図　表 1 ）

赤羽台遺跡（赤羽台古墳群・赤羽台横穴墓群を含む）は、武蔵野台地の北東端部に立地する（第 1 図）。これまでに計 5 地点で本調査が行われている（第 2 図）。調査の大部分を占めるのは、八幡神社地区・星美学園地区と、国立王子病院跡地地区である。前者は遺跡の東側に位置し、後者が西側に位置する。これら大規模調査地区の間に、小規模調査地点が点在している。本報告も、そのような小規模調査地点のひとつである。

従来の調査から、弥生時代後期の環濠集落や、古墳時代後～終末期の古墳群など、旧石器時代から近現代の複合遺跡であることが分かっている。各時代の具体的な内容は、以下のようにまとめられる。

旧石器時代　後期旧石器時代の前半期と後半期の文化層が連続して確認されている。八幡神社地区では、第Ⅲ層・第Ⅳ層・第Ⅴ層下部・第Ⅸ層・第Ⅹ層上面の計 5 枚の文化層が検出されている。星美学園地区では、第Ⅳ層下部・第Ⅸ層上部の計 2 枚の文化層を確認している。

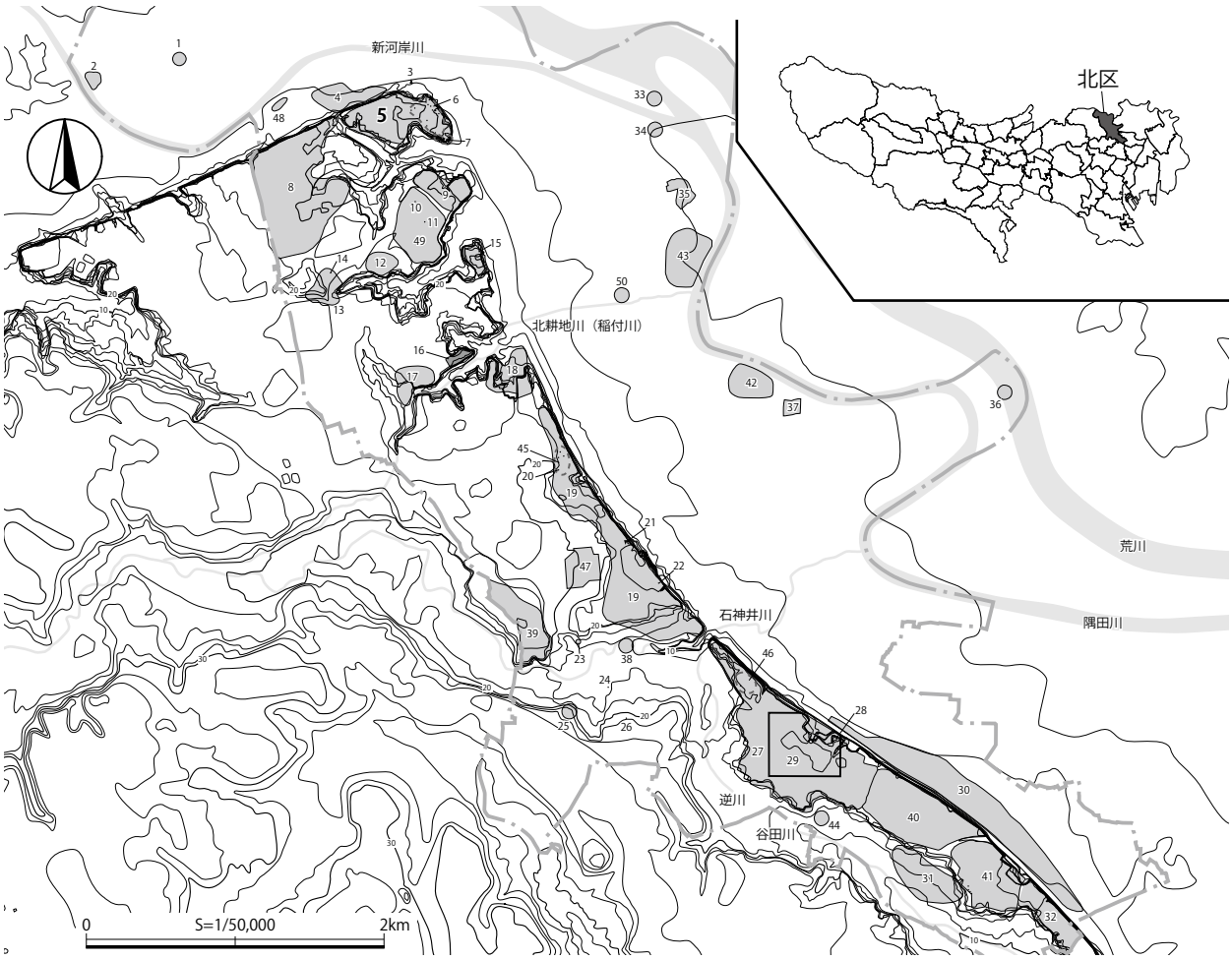
縄文時代　早期と後期の遺構が検出されている。早期末は炉穴と落とし穴などが点在する。後期は遺跡全体に広がりをもっている。

弥生時代　中期と後期の遺構が検出されている。中期は、竪穴住居跡 24 軒、方形周溝墓 1 基がある。後期は、遺跡全体に広がり、集落を取り巻く環濠、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡 300 軒以上、方形周溝墓 1 基がある。

古墳時代　前期と中･後～終末期の遺構が検出されている。前期では方形区画溝も検出されている。中･後期は古墳 15 基、住居跡 16 軒、溝跡 2 条がある。終末期は、横穴墓群が 19 基検出されている。

古代　平安時代の遺構が確認されている。古代律令制の国郡制では武蔵国豊島郡に属しており、豊島郡衙跡と考えられる御殿前遺跡から約 4.5 ㎞の位置にある。

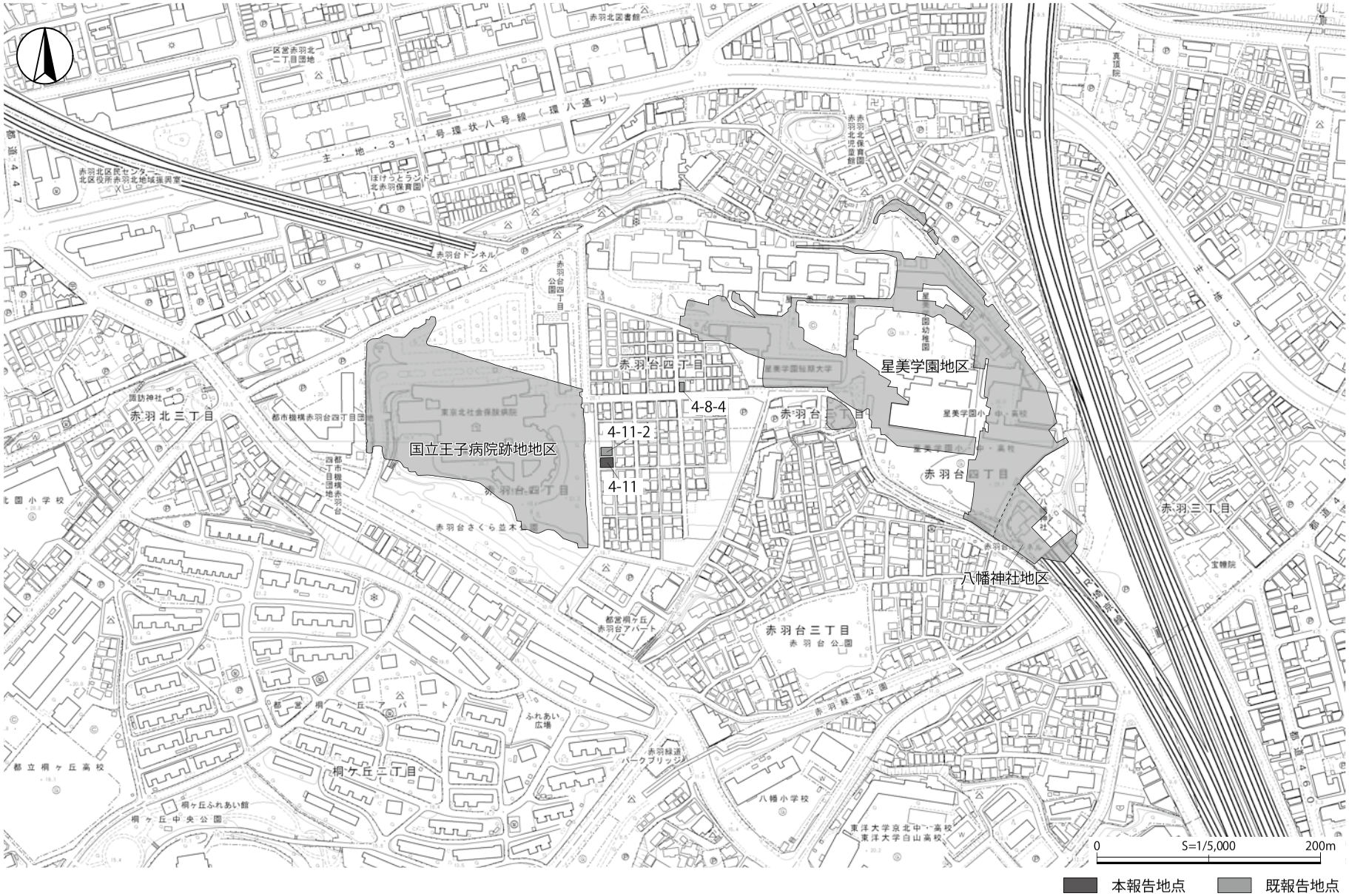
中近世　星美学園地区では、13 世紀から 14 世紀の古瀬戸や常滑の蔵骨器 5 点が検出された。地下式坑、溝跡、土坑などの遺構が点在している。



1 浮間遺跡
2 扶桑動熱内遺跡
3 堂山横穴墓
4 袋低地遺跡
5 赤羽台遺跡
6 赤羽台古墳群
7 赤羽台横穴墓群
8 桐ケ丘遺跡
9 赤羽上ノ台遺跡
10 ミタマ古墳
11 天王塚古墳
12 大六天遺跡
13 島下遺跡
14 大塚古墳
15 稲付城跡
16 稲付公園遺跡
17 梅ノ木遺跡
18 清水坂遺跡
19 十条台遺跡群
20 富士塚古墳
21 十条台小学校横穴墓
22 王子稲荷裏古墳
23（単独出土地）
24 四本木稲荷古墳
25 滝野川八幡社裏貝塚
26 滝野川古墳
27 西ケ原遺跡群
28 甲冑塚古墳
29 武蔵国豊島郡衙跡
30 中里遺跡
31 田端町遺跡
32 田端不動坂遺跡
33 熊野神社北方遺跡
34 熊野神社遺跡
35 志茂遺跡
36 都民ゴルフ場遺跡
37 豊島清光館跡
38 滝野川城跡
39 下十条遺跡
40 中里峡上遺跡
41 田端西台通遺跡
42 豊島馬場遺跡
43 宮堀北遺跡
44 東谷戸遺跡
45 十条台古墳群
46 飛鳥山古墳群
47 十条久保遺跡
48 袋西浦遺跡
49 道合遺跡
50 神谷遺跡

第１図　北区の地形と遺跡

近現代　旧陸軍の第一師団工兵第一連隊の兵営及び練兵場跡地にあたり、塹壕が縦横に走り、兵舎の基礎・退避壕・地下室などが検出されている。階級章・小銃・銃剣・碗・名札・インク瓶・歯ブラシなども出土した。



第２図　赤羽台遺跡調査地点位置図

赤羽台遺跡

調査 地点	面積㎡	旧石器	縄文	弥生・古墳前期	古代	中近世	近代	不明	文献
八幡神社地区	26806.0	—	—	—	終末期 横穴墓　19	—	—	—	1
		後半期 第Ⅲ層 第Ⅳ層 礫群　5 石器集中部　5 炭化物集中部　1 第Ⅴ層下部 前半期 第Ⅸ層 炭化物集中部　2 第Ⅹ層上面	早期 住居跡　1 炉穴　7 土坑　6 ピット　14 後期 住居跡　1	後期 住居跡　6 古墳前期 住居跡　12 倉庫跡　2	古墳後期 住居跡　1	中・近世 溝跡　3 土坑　3	—	—	2
星美学園地区		後半期 第Ⅳ層下部 礫群　1 前半期 第Ⅸ層上部	早期 炉穴　18 土坑　14 後期 住居跡　4	中期 住居跡　24 方形周溝墓　1 後期 環濠 方形周溝墓　1 溝跡　5 後期～古墳前期 住居跡　228 古墳前期 方形区画溝 1 方形周溝墓 1 溝跡　2 土壙墓　2	古墳中・後期 住居跡　16 古墳　15 溝跡　2 平安 住居跡　20	中世 地下式横穴　5 溝跡　1 土坑　1 近世 溝跡　78 土坑　20 井戸跡　1	近代 地下室　4 退避壕　2 石敷通路　1	—	3 ・ 4 ・ 5
国立王子病院跡地地区	24000.0	前半期 第Ⅵ層 第Ⅶ層 第Ⅸ層上部 第Ⅹ層	早期 炉穴　47 中期後半～後期 住居跡　7 焼土跡　3 土坑　43 地点貝塚　1 竪穴状遺構　2 ピット群　4	後期～古墳前期 住居跡　91 掘立柱建物跡　4 溝状遺構　4	古代 住居跡　2 掘立柱建物跡　9 特殊遺構　1 土坑　5 溝状遺構　3 畝状遺構　1	中・近世 地下式坑　2 道路状遺構　3 溝状遺構　67 土坑　12 段切状遺構　1	近代 軍事遺構　9 待避壕　8 近代建物跡　16 煉瓦積み遺構　2 近代桝跡 近代厠跡	—	6
赤羽台 4－8－4地点	36.0	—	早期 炉穴　1 ピット　2	—	—	近世 溝跡　3	—	土坑　1 ピット　5	7
赤羽台 4－11－2地点	8.6	—	—	—	平安 住居跡　1	—	—	ピット　1	8
赤羽台 4－11地点	24.0	—	—	後期 住居跡　1	—	—	—	—	本報告

表１　赤羽台遺跡調査地点一覧表

参考文献（刊行年順）

１）鈴木敏弘・小林重義・酒井和子・角永嘉一編 1989『赤羽台遺跡―赤羽台横穴墓群―』 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社

２）鈴木敏弘・實川順一編 1991『赤羽台遺跡―八幡神社地区―』 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社

３）小林重義・實川順一編 1992『赤羽台遺跡―先土器・縄文時代編―』 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社

４）大谷猛編 1992a『赤羽台遺跡―弥生時代～古墳時代前期―』 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社

５）大谷猛編 1992b『赤羽台遺跡―古墳時代中期～近代編―』 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会・東日本旅客鉄道株式会社

６）森田信博編 2000『赤羽台遺跡―国立王子病院跡地地区―』 国立王子病院跡地遺跡調査会

７）北区教育委員会編 2011「赤羽台遺跡　赤羽台 4-8-4 地点」『北区埋蔵文化財調査年報　平成 21 年度』 北区教育委員会： 4

８）北区教育委員会編 2014「赤羽台遺跡　赤羽台 4-11-2 地点」『北区埋蔵文化財調査年報　平成 24 年度』 北区教育委員会：24

3. 調査の経過と概要

調査期間は、平成 30 年 10 月 15 日～ 22 日、調査面積は 24 ㎡である。10 月 15 日に発掘機材と重機を搬入し、調査区東側から表土掘削を開始した。確認面はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）上面の地表下約 0.3m である。遺構確認終了後、直ちに遺構精査を開始し、適宜図面作成、写真撮影を行い、10 月 17 日に完掘写真を撮影し、10 月 22 日に重機による埋戻し作業及び機材の撤収をして、調査を終了した。

遺構は、弥生時代後期後半竪穴住居跡 1 軒である。遺物は弥生土器の壷・台付甕・鉢が出土している。

4. 遺構と遺物

【SI01】

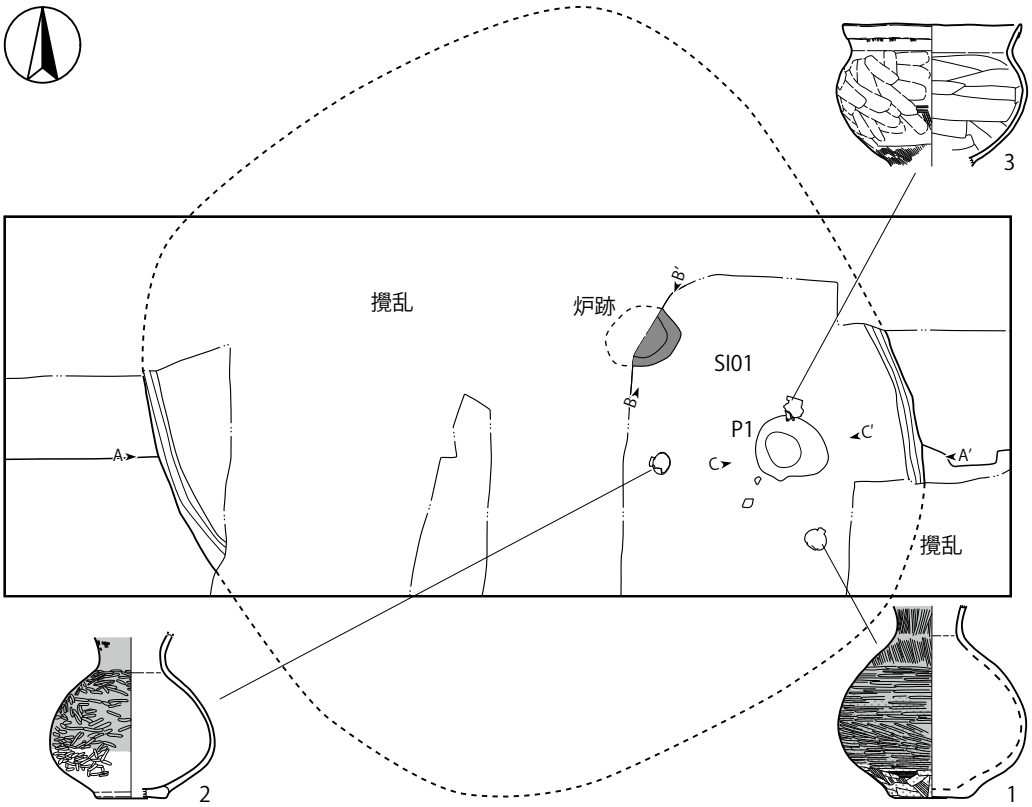
遺構（第３・４図　図版１）

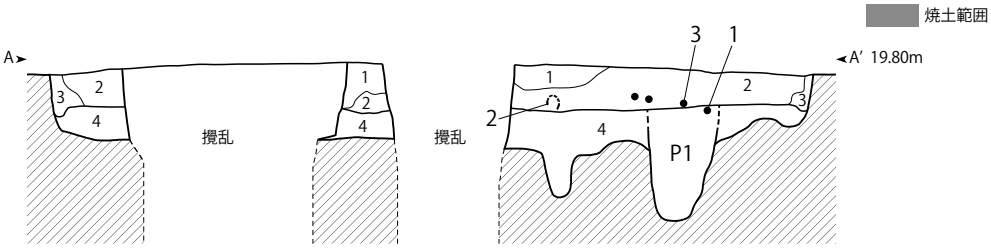
平面形：壁の遺存するラインから隅丸方形に復元される。攪乱が著しく、南北両端が損壊し、中央部も床面が島状に残存する程度である。**規模：**主軸推定長 5.58m、主軸直交検出長 4.32m、確認面からの深さ 0.29m である。**主軸方位：**Ｎ－ 60°－Ｅ。**覆土：**暗褐色土を主体とする。**床：**床面は堅緻に構築された貼床である。**炉：**長軸 0.50m、短軸 0.25m、床面からの深さ 0.11m の長楕円形と推測される。**壁溝：**検出した範囲で壁に沿って巡る。**ピット：**主柱穴１基（Ｐ１）、床下ピット２基（Ｐ２・３）を確認した。規模はＰ１が 0.59 × 0.51m、Ｐ２が 0.30 × 0.27m、Ｐ３が 0.35 × 0.34m、床面からの深さはＰ１が 0.89m、Ｐ２が 0.46m、Ｐ３が 0.68m である。

遺物（第５図　図版２　表２）

土器：１・２は壷である。口縁部が欠損するものの、頸部～底部まで完存する。外面は赤彩され、胴部から底部にススの付着が顕著である。３は折り返し口縁の台付甕だが、台部を欠損する。胴部はハケ調整後、斜位ナデ。４は複合口縁の壷である。キザミを持つ棒状浮文を６本配す。地文は単節羽状縄文。外面に朱紋がある。５は鉢の口縁部片で、内面は赤彩され、外面はＬＲを地文として円形朱文を等間隔に施す。６は台付甕の脚台部片で内外面ハケ調整される。

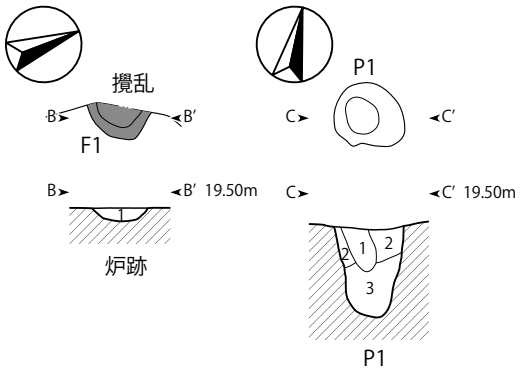
時期　弥生時代後期後半。





SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（7.5YR3/1）	やや弱い	やや強い	ローム粒子（φ２㎜）を微量含む。
2	暗褐色土（7.5YR3/3）	やや弱い	やや強い	ローム粒子（φ２～５㎜）を少量、炭化物（φ１～２㎜）を微量含む。
3	褐色土（7.5YR4/3）	やや弱い	やや強い	ロームブロック（φ10～50㎜）を中量含む。壁溝埋土。
4	灰褐色土（7.5YR4/2）	やや弱い	やや強い	ロームブロック（φ50～100㎜）を多量含む。中下層に黒色土が混じる。掘方埋土。



炉跡

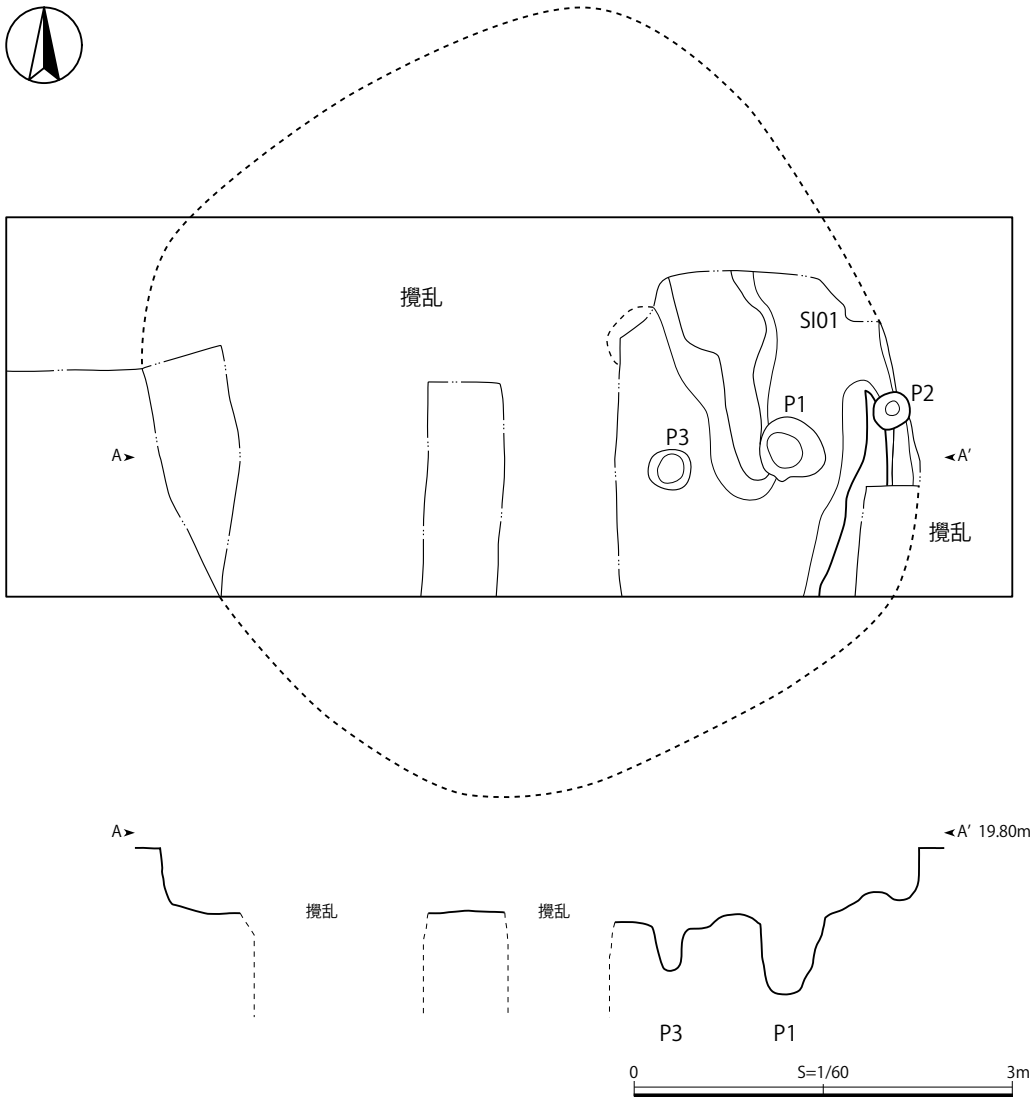
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	灰褐色土（7.5YR4/2）	やや弱い	やや強い	焼土（φ１～３㎜）を微量、ロームブロック（φ10～80㎜）を下層に多く含む。

P1

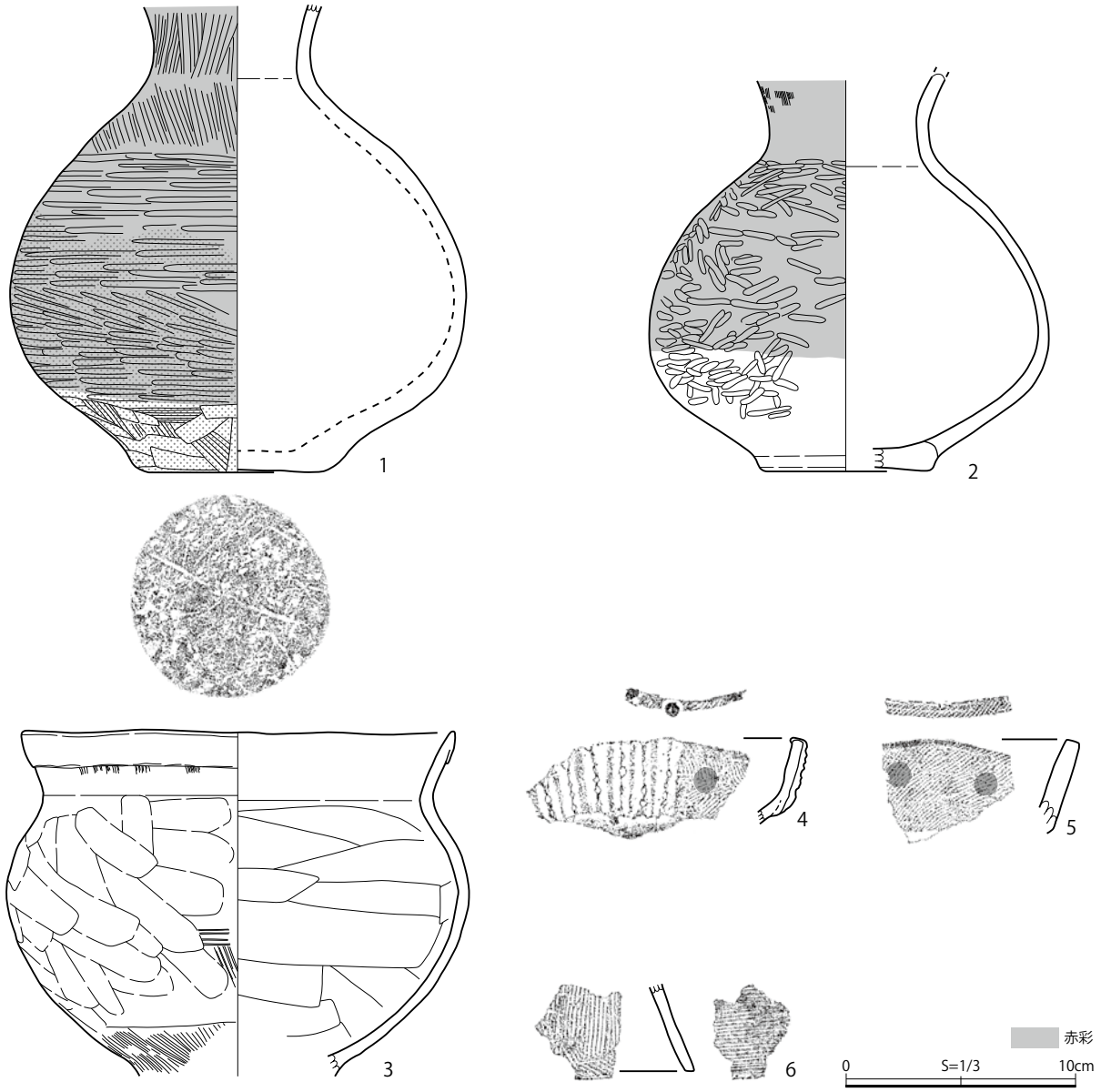
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	褐色土（7.5YR4/3）	やや弱い	やや強い	
2	黒褐色土（7.5YR3/1）	やや弱い	やや強い	ロームブロック（φ10～50㎜）を多量含む。3 層と類似するがやや傾斜して堆積。
3	黒褐色土（7.5YR3/1）	やや弱い	やや強い	ロームブロック（φ10～50㎜）を多量含む。2 層と類似するがほぼ水平に堆積。

0　S=1/60　3m

第３図　赤羽台 4-11 地点　SI01、F1、P1 平・断面図



第４図　赤羽台 4-11 地点　SI01 掘方平・断面図



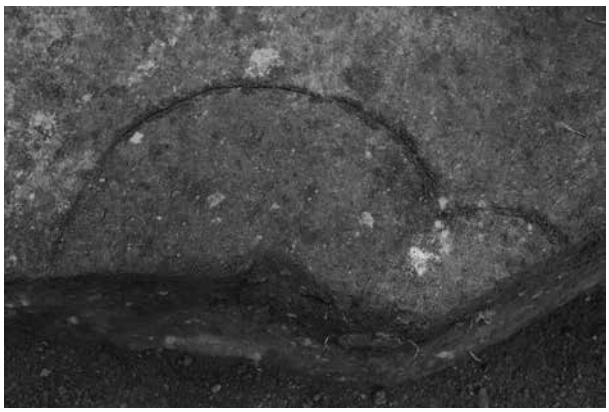
第５図　赤羽台 4-11 地点　出土遺物実測図

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	法量（cm）	遺存状態	色調	胎土	焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
5-1 2-1	弥生土器 壺	SI01	口径：　— 器高：<20.3> 底径：　8.0	頸～底部完存	内：にぶい橙色 （5YR6/4） 外：暗赤褐色 （2.5YR3/4）	砂粒　密	良好	外面：赤彩。胴部スス付着顕著。ハケ調整後ミガキ。	
5-2 2-2	弥生土器 壺	SI01	口径：　— 器高：<17.0> 底径：　(7.6)	頸～底部完存	内：にぶい橙色 （7.5YR6/4） 外：暗赤褐色 （2.5YR3/6）	砂粒　密	良好	外面：赤彩。胴部スス付着顕著。ハケ調整後ミガキ。	
5-3 2-3	弥生土器 台付甕	SI01	口径：(19.0) 器高：<15.0> 底径：　—	口縁部～胴部 1/4 遺存	内：にぶい橙色 （7.5YR7/4） 外：にぶい橙色 （7.5YR7/4）	砂粒　密	良好	折り返し口縁。 外面：胴部下半ハケ調整。 内面：ヘラナデ。	
5-4 2-4	弥生土器 壺	SI01	—	破片	内：にぶい橙色 （7.5YR6/4） 外：にぶい橙色 （7.5YR6/4）	砂粒　密	良好	複合口縁。 外面：口唇部 LR、口縁部外面単節羽状縄文施文後、キザミのある棒状浮文を６本貼り付ける。円形朱文。	
5-5 2-5	弥生土器 鉢	SI01	—	破片	内：暗赤褐色 （2.5YR3/4） 外：にぶい橙色 （7.5YR6/4）	砂粒　密	良好	外面：口唇部単節 LR。口縁部 LR 施文。円形朱文。 内面：ヘラミガキ。赤彩。	
5-6 2-6	弥生土器 台付甕	SI01	—	破片	内：明赤褐色 （2.5YR5/6） 外：にぶい橙色 （7.5YR7/4）	砂粒　密	良好	外面：ハケ調整。 内面：ハケ調整。	

表２　赤羽台 4-11 地点　遺物観察表

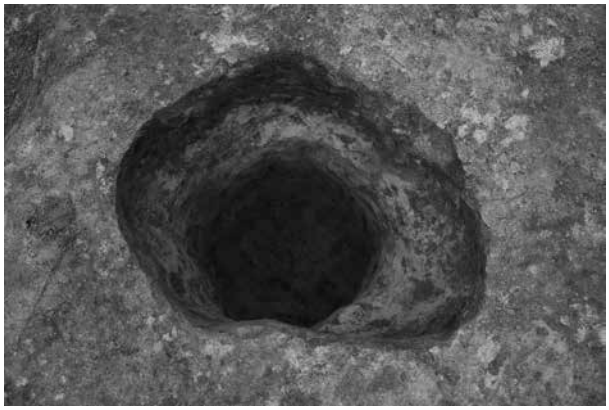
SI01 完掘状況（北から）

遺物出土状況①（北西から）



炉跡（北西から）

遺物出土状況②（北西から）



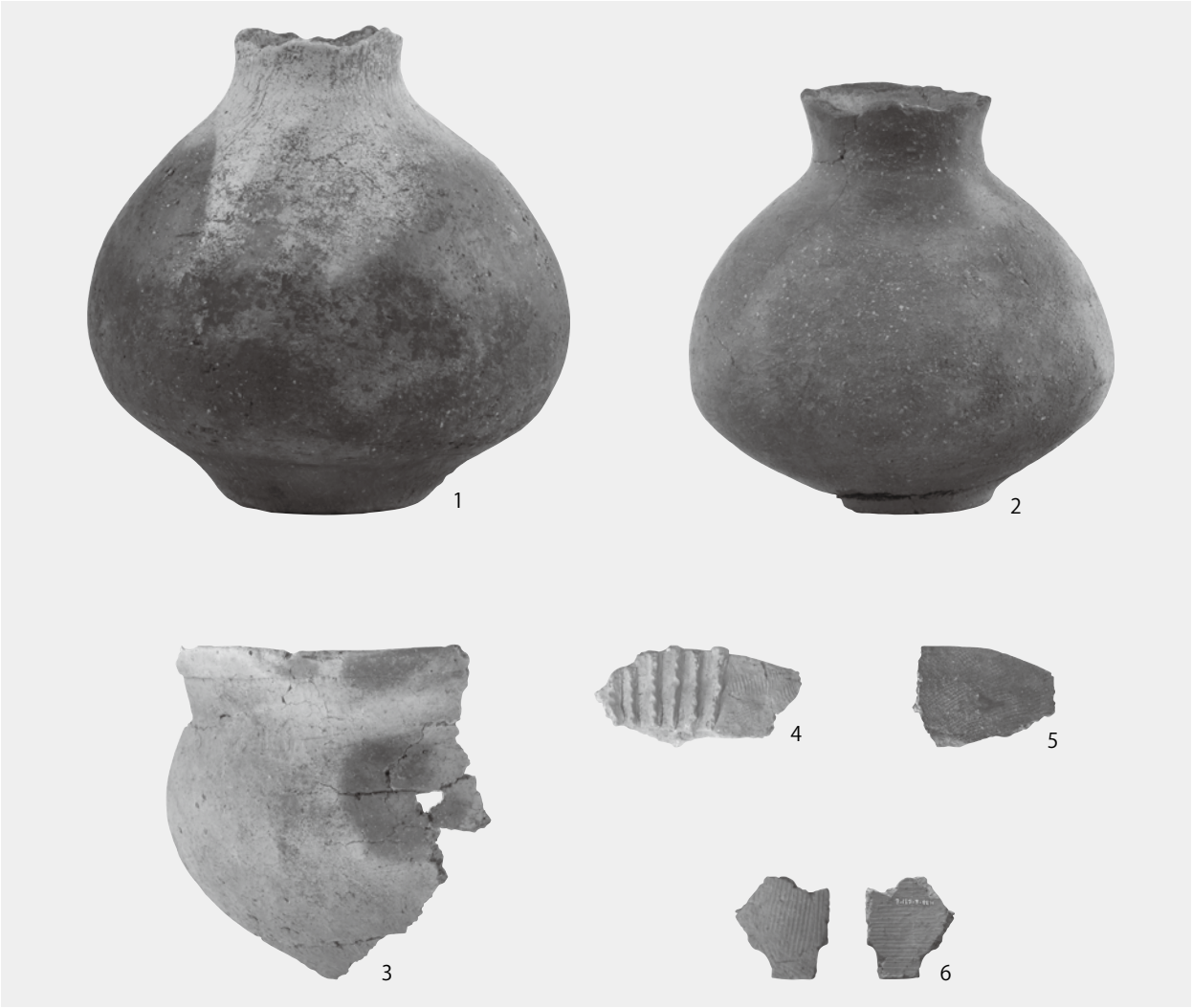
P1（南から）

遺物出土状況③（北から）

SI01 掘方完掘状況（北から）

遺物出土状況④（北から）

図版 1　赤羽台 4-11 地点



図版 2　赤羽台 4-11 地点　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	きたくまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書　　名	北区埋蔵文化財調査年報
副 書 名	－平成 30 年度－
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	宅間清公　遠竹陽一郎　岩崎岳彦　坂下貴則　牛山英昭
編集機関	東京都北区教育委員会事務局　飛鳥山博物館
所 在 地	〒 114-0002　東京都北区王子 1 - 1 - 3　　℡ 03(3916)1133
発行年月日	令和２（2020）年２月 28 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″	（発掘調査）	面積	
西ヶ原遺跡群（にしがはらいせきぐん）	東京都北区西ヶ原 3-7（とうきょうときたくにしがはら）	13117	27	巻頭一覧表参照				
十条台遺跡群（じゅうじょうだいいせきぐん）（南橋遺跡（みなみはしいせき））	東京都北区中十条 1-4-6（とうきょうときたくなかじゅうじょう）		19					
十条台遺跡群（じゅうじょうだいいせきぐん）	東京都北区中十条 1-26-4（とうきょうときたくなかじゅうじょう）		19					
西ヶ原遺跡群（にしがはらいせきぐん）	東京都北区西ヶ原 1-28-14（とうきょうときたくにしがはら）		27					
西ヶ原遺跡群（にしがはらいせきぐん）	東京都北区西ヶ原 3-19（とうきょうときたくにしがはら）		27					
中里峡上遺跡（なかざとはけうえいせき）	東京都北区中里 3-18-18（とうきょうときたくなかざと）		40					
中里峡上遺跡（なかざとはけうえいせき）	東京都北区中里 3-11（とうきょうときたくなかざと）		40					
赤羽台遺跡（あかばねだいいせき）	東京都北区赤羽台 4-11（とうきょうときたくあかばねだい）		5					
中里峡上遺跡（なかざとはけうえいせき）	東京都北区中里 3-22-16（とうきょうときたくなかざと）		40					
中里遺跡（なかざといせき）	東京都北区上中里 2-10（とうきょうときたくかみなかざと）		30					
田端西台通遺跡（たばたにしだいとおりいせき）	東京都北区田端 6-4-7（とうきょうときたくたばた）		41					
西ヶ原遺跡群（にしがはらいせきぐん）	東京都北区上中里 1-38（とうきょうときたくかみなかざと）		27					
十条台遺跡群（じゅうじょうだいいせきぐん）	東京都北区中十条 3-27-10（とうきょうときたくなかじゅうじょう）		19					
十条台遺跡群（じゅうじょうだいいせきぐん）	東京都北区王子本町 1-26（とうきょうときたくおうじほんちょう）		19					
田端不動坂遺跡（たばたふどうさかいせき）	東京都北区田端 1-22-2（とうきょうときたくたばた）		32					
十条台遺跡群（じゅうじょうだいいせきぐん）	東京都北区中十条 3-3-18（とうきょうときたくなかじゅうじょう）		19					
十条台遺跡群（じゅうじょうだいいせきぐん）	東京都北区王子本町 1-21-7（とうきょうときたくおうじほんちょう）		19					
十条台遺跡群（じゅうじょうだいいせきぐん）	東京都北区中十条 1-12（とうきょうときたくなかじゅうじょう）		19					

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間 （発掘調査）	調査 面積	調査原因
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群 みなみはしいせき 南橋遺跡	とうきょうときたく 東京都北区 なかじゅうじょう 中十条 1-4-6	13117	19	35° 45′ 28″	139° 43′ 49″	平成 30（2018）年 5 月 10 日 ～ 同年 5 月 23 日	56.9 ㎡	集合住宅
あかばねだいいせき 赤羽台遺跡	とうきょうときたく 東京都北区 あかばねだい 赤羽台 4-11	13117	5	35° 47′ 00″	139° 42′ 46″	平成 30（2018）年 10 月 15 日 ～ 同年 10 月 22 日	24.0 ㎡	分譲住宅

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
十条台遺跡群 南橋遺跡	集落	弥生時代 平安時代	方形周溝墓　1 基 住居跡　1 軒	弥生土器 土師器	
要　約	弥生時代後期後半の住居跡と弥生時代後期終末の方形周溝墓、土坑２基を調査した。 住居跡は方形周溝墓および撹乱により過半が破壊される。遺物は散漫な状況で壷片が出土した。方形周溝墓は、10 m超える規模と推定される大型のもので、溝角部などから高坏や壷などが比較的まとまって出土した。				
赤羽台遺跡	集落	弥生時代	竪穴住居跡　1 軒	弥生土器	
要　約	弥生時代後期後半の隅丸方形を呈すると思われる竪穴住居跡を調査した。 住居の床面土から壷・台付甕・鉢が出土した。壷は赤彩されていた。				
資料の保管機関	東京都北区教育委員会事務局　飛鳥山博物館 〒 114-0002　東京都北区王子 1-1-3 TEL03（3916）1133　FAX03（3916）5900				

北区埋蔵文化財調査年報
－平成 30 年度－

令和2年2月 25 日　印刷
令和2年2月 28 日　発行

刊行物登録番号
31 － 01 － 094

編集　北区飛鳥山博物館
〒 114-0002　東京都北区王子 1-1-3
電話　03-3916-1133
発行　東京都北区教育委員会
〒 114-8546　東京都北区滝野川 2-52-10
印刷　文明堂印刷株式会社
〒 114-0032　東京都北区中十条 2-15-12
電話　03-3908-3466